

(仮称)西公園屋内遊び場基本計画

令和8年3月
仙 台 市

目次

第1章 基本的事項	2
1 基本計画の策定趣旨	2
2 基本計画の検討経過	2
3 関連する計画等	3
第2章 整備計画地	7
1 計画地の概要	7
第3章 他地方公共団体の類似事例の調査	10
1 調査の概要	10
2 調査結果(まとめ)	10
第4章 本施設に関するニーズや意見	12
1 保護者等の意見	12
2 こどもの意見	15
第5章 施設整備方針	20
1 基本理念・コンセプト	20
2 基本的な機能・実施事業	21
3 施設の位置づけ	22
4 主な利用者	22
第6章 施設計画	23
1 施設配置・施設規模	23
2 諸室計画	27
3 施設整備における配慮事項	29
4 平面計画	32
5 施設イメージイラスト(外観・内観イメージ)	34
第7章 整備・管理運営手法	36
1 整備手法	36
2 早期整備の実現に向けた取組	38
3 整備期間	38
4 概算事業費と財源	39
5 管理運営手法	39
第8章 利用情報	41
1 開館日・開館時間の想定	41
2 定員・年間の来場者数などの想定	41
3 利用料金	42
第9章 アクセス環境	43
1 基本的事項	43
2 主な来館手段に対するアクセス環境の整備の想定	43
3 その他のアクセス整備における考慮事項	44
4 動線計画	45
【巻末】 参考資料	46

第1章 基本的事項

1 基本計画の策定趣旨

- こどもにとっての遊びは、他者への思いやりや自尊心、やり抜く力等の非認知能力(※)を養うとともに、多様な体の動きを身に付けていくなど、健やかな成長の原点といえます。
- 本市では、これまで「遊びの環境の充実」に向けた様々な取組を進めてきており、公園や児童館、のびすくなどの整備を進めてきたほか、既存資源の遊び場としての活用や、こどもの自由で自発的な遊びを引き出す遊び場であるプレーパーク活動の普及・展開などを行ってきたところです。
- 本市では、令和7年3月に「仙台市遊びの環境の充実に向けた取組方針」を策定しました。この取組方針では、「都市個性を生かした、こどもの育ちと子育てを支える遊びの環境の充実」を基本理念として掲げ、自然と都市機能が調和する本市の都市個性を最大限に生かしながら、こどもが様々な遊びに触れることができる環境づくりを進めることとしており、西公園への屋内遊び場の整備は、その一環として取り組むものです。
- 本基本計画では、西公園への屋内遊び場の整備に際しての施設のコンセプトや機能、整備手法など、施設整備に関する基本的な事項を総合的に定めます。加えて、整備方針等に基づく施設計画や動線計画のほか、管理運営手法や利用情報などの最適な事業のあり方についても、検討することとします。
- 本基本計画の内容を基礎として、設計・施工を円滑かつ計画的に進めていきます。
※ 近年は、非認知能力のなかでも、目標の達成や他者との協働、感情のコントロールなどに関する能力として、「社会情動的スキル」や「社会情緒的コンピテンス」といった用語が使用されることもあります。

2 基本計画の検討経過

- 基本計画の策定にあたっては、小学生以下のこどもの保護者等や、こどもを対象としたアンケートを実施したほか、シンポジウムの開催やパブリックコメントの実施などを通じて、多様な意見を参考にしてきました。
- 子育て支援に関わる団体の方々や、こどもや遊び、障害のあるこどもに関する専門的な知見を有する有識者や団体等からの意見聴取を行ったほか、他地方公共団体の類似事例の調査を実施しました。

【基本計画策定までの主な経過】

令和7年5～6月	保護者向けウェブアンケート
令和7年6～7月	こども向けウェブアンケート
令和7年6月	第99回 杜の都の環境をつくる審議会(報告事項) 令和7年度第1回 仙台市社会福祉審議会児童福祉専門分科会(報告事項)
令和7年7月	令和7年度第1回 仙台市子ども・子育て会議(協議事項) 令和7年度第1回 仙台市こども若者応援推進本部会議 『(仮称)西公園屋内遊び場基本計画の骨子』策定 (仮称)西公園屋内遊び場基本計画シンポジウム①
令和7年7月～9月	他地方公共団体の類似事例の調査
令和7年8月	整備計画地を会場とした遊び場展開事業 第53回 仙台市広瀬川清流保全審議会(報告事項)
令和7年8月～9月	有識者・関係団体等への意見聴取
令和7年9月	令和7年度第2回 仙台市こども若者応援推進本部会議

令和7年9月	『(仮称)西公園屋内遊び場基本計画(素案)』策定 第100回 杜の都の環境をつくる審議会(報告事項)
令和7年11月	こどもを対象とした対面意見交換会 令和7年度第3回 仙台市こども若者応援推進本部会議 『(仮称)西公園屋内遊び場基本計画(中間案)』策定 令和7年度第2回 仙台市子ども・子育て会議(協議事項) (仮称)西公園屋内遊び場基本計画シンポジウム②
令和7年11~12月	『(仮称)西公園屋内遊び場基本計画(中間案)』に関するパブリックコメント
令和7年12月	第101回 杜の都の環境をつくる審議会(報告事項)
令和8年1月	第54回 仙台市広瀬川清流保全審議会(報告事項)
令和8年2月	こどもの意見に対するフィードバック
令和8年3月	令和7年度第4回 仙台市こども若者応援推進本部会議 『(仮称)西公園屋内遊び場基本計画』策定

3 関連する計画等

(1)本市の計画等との関連

①仙台市基本計画・実施計画

- 「仙台市基本計画」(令和3~12年度)では、まちづくりの理念として、「挑戦を続ける、新たな杜の都へ~“The Greenest City” SENDAI~」を掲げています。
- この理念に基づき重点的に取り組む8つの「チャレンジプロジェクト」を定めており、そのひとつに「笑顔咲く子どもプロジェクト」を掲げ、「子どもたちの未来が広がる環境をつくる」を目標としています。
- 目標の実現に向けた実施の方向性のひとつに、「子育てを楽しめる環境をつくる」を定め、子連れで安心して外に出かけて楽しめる環境づくりや、こどもたちが自然との触れあいをはじめ、様々な遊びを体験できる機会の充実を図ることとしており、本施設は、これらの考え方をもとに整備検討を進めていきます。

②仙台市ダイバーシティ推進指針

- 「仙台市ダイバーシティ推進指針」(令和7年3月策定)では、多様性を受容してきた歴史や風土、市民協働といった都市個性を土台として、さらに発展させながら、誰もが安心して住み続け、活躍できるまちづくりを掲げています。
- さまざまな「ちがひ」が尊重される社会を築いていくためには、こどもの頃から多彩な学びや体験の機会、多様な交流を通じて、お互いを理解し、社会性を身に付けていくことが重要です。本施設の整備にあたっては、誰もが利用しやすいユニバーサルデザインの考え方を取り入れていくとともに、多様な主体と連携し、様々な遊びを通してちがひへの理解を進めることや、市民の誰もが自分らしく過ごすことのできる場所を提供するといった視点をもちながら、検討を進めていきます。

③仙台市みどりの基本計画

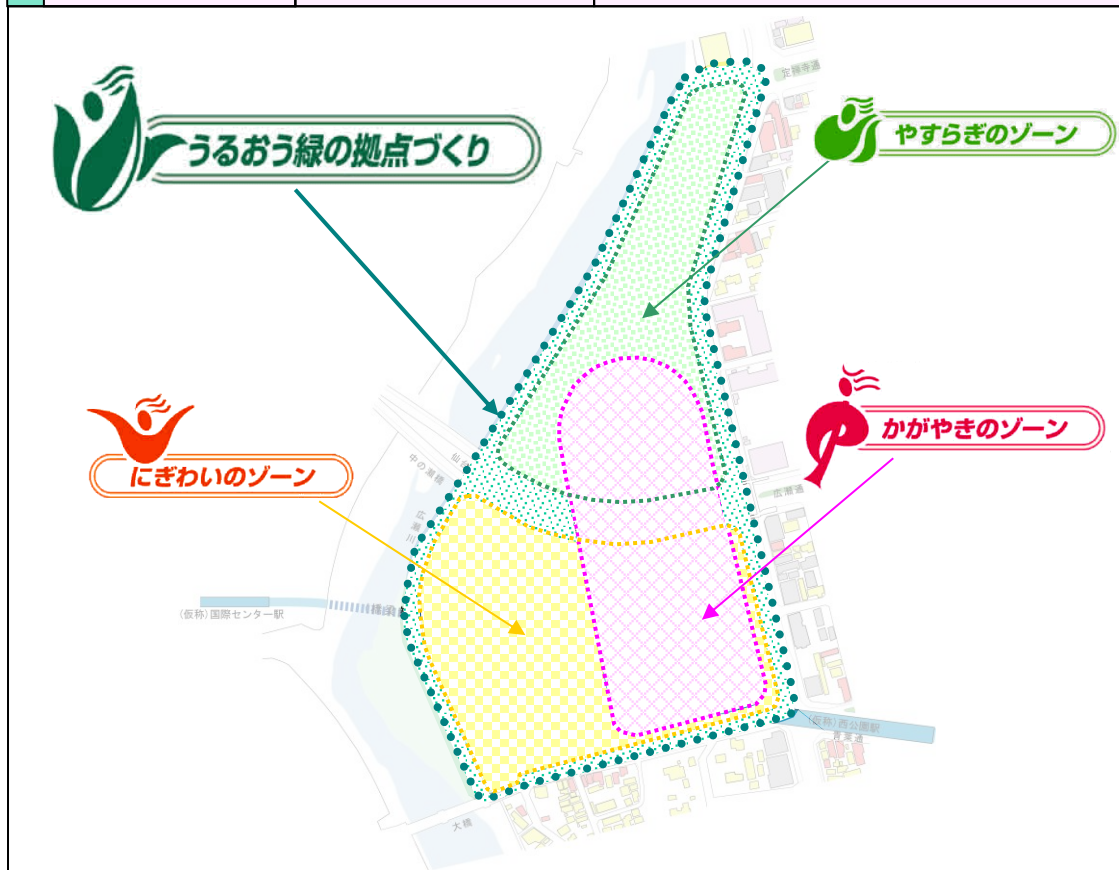
- みどりの都市像や施策について定めるみどりのまちづくりを進めるための総合的な計画として、「仙台市みどりの基本計画 2021-2030」を策定しています。
- この計画では、「百年の杜づくりで実現する新たな杜の都～みどりを育むひと、みどりが育むまち～」を基本理念に掲げ、各種取組を進めていくこととしています。
- 西公園においては、みどりで多くの人から選ばれるまちを目指す視点から、都心部の活力・にぎわいの創出を目的とした再整備を進めており、本施設の整備にあたっては、これまで取り組んできた「百年の杜づくり」を継続するとともに、みどりの多様な機能を積極的に活用していくことで、「新たな杜の都」の実現に寄与することを目指していきます。

【西公園再整備基本構想(平成 17 年 12 月)】

- ・ 現在進めている再整備の基本構想ではテーマを「杜と水辺と市民をつなぎ、自然と都市の環境が共生するうるおう緑の拠点づくり」としています。

【再整備のゾーニング】

ゾーニング	ゾーンの区域	ゾーンの位置づけ
うるおう緑の拠点	西公園全体	「杜の都」の都心における緑のシンボル
やすらぎのゾーン	西道路北側	やすらぎを感じられる静的な空間
にぎわいのゾーン	西道路南側	にぎわいが生み出される動的な空間
かがやきのゾーン	西公園通沿い南部(やすらぎ及びにぎわいのゾーンと重複)	東西線の利便性を活かし、周辺との連携のもと、仙台の新たな個性を創る市民文化活動展開の場



④仙台・青葉山エリア文化観光交流ビジョン

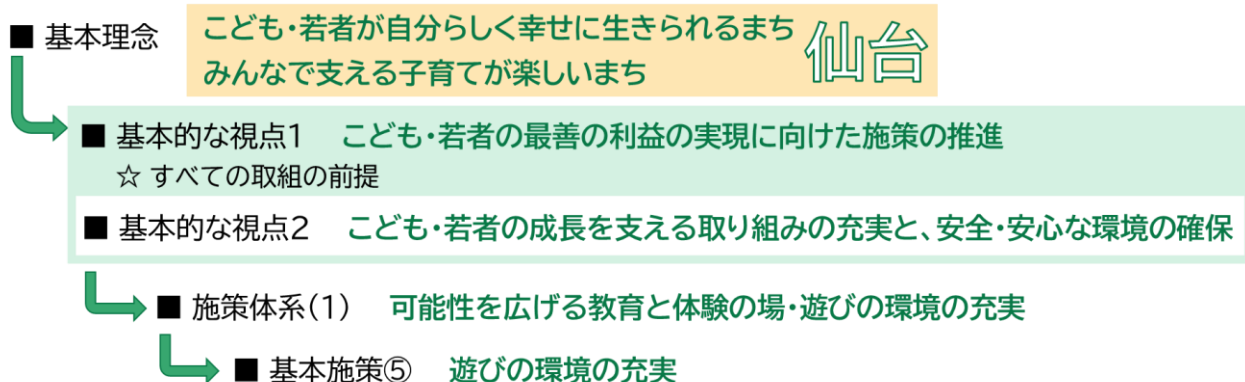
- 「仙台・青葉山エリア文化観光交流ビジョン」(令和5年3月策定)は、青葉山エリアの価値や魅力、回遊性の向上に向けた方向性を示すビジョンとして策定したもので、『杜の都の「歴史」と「今」と「未来」をつなぐ ～特別な空間と時間を青葉山エリアで～』をコンセプトに掲げ、目指す将来像とその実現に向けた取組の方向性を示しています。
- このビジョンにおいて、西公園は、「自然を生かし、杜や水と暮らす都市文化を未来に引き継ぐ」という目指す将来像の中に位置づけられています。また、青葉山エリアと都心との回遊性向上を図るため、「青葉山エリアと都心をつなぐ場の賑わい創出」の取組が掲げられています。
- 本施設の整備にあたっては、多くの子どもや子育て家庭が訪れることによる賑わいの創出を通じた周辺エリアとの回遊性向上という観点からも検討を進めていきます。

(2)子ども若者局の計画等との関連

①せんだい子ども若者プラン 2025

- 「せんだい子ども若者プラン 2025」(令和7～11年度)は、子ども・若者及び子育て支援の総合的な計画であり、基本理念に「子ども・若者が自分らしく幸せに生きられるまち仙台／みんなで支える子育てが楽しいまち仙台」を掲げています。
- この計画では、「子ども・若者の最善の利益の実現に向けた施策の推進」をすべての取組の前提となる基本的な視点としたうえで、子ども・若者及び子育て支援に係る各種施策の推進に取り組むこととしています。
- 同計画では、基本的な視点のひとつに「子ども・若者の成長を支える取り組みの充実と、安全・安心な環境の確保」を定めるとともに、「遊びの環境の充実」を基本施策のひとつに位置付けており、基本理念や基本的な視点等との整合性を図りながら、本施設の整備に向けた検討を進めていきます。

【せんだい子ども若者プラン 2025 における位置づけ】



②仙台市遊びの環境の充実に向けた取組方針

- 「遊びの環境の充実」については、「仙台市遊びの環境の充実に向けた取組方針」(令和7年3月策定)において、これまで本市が行ってきた調査・研究、実証実験等の結果や遊びの体験の重要性を踏まえ、更なる取組を推進することとしています。
- 本基本計画は、この取組方針に基づく具体的な取組のひとつであり、基本理念や基本的な視点等との整合性を図りながら策定を進めていきます。

【仙台市遊びの環境の充実に向けた取組方針における位置づけ】

- 基本理念 **都市個性を生かした、こどもの育ちと子育てを支える遊びの環境の充実**
- └─▶ ■ 基本的な視点2 **多様な主体との連携や都市資源を活用した遊びの充実**
- 基本的な視点3 **都市の魅力向上させる遊び空間の充実**
- └─▶ ■ 主な取組6 **大型の屋内遊び場の整備**

第2章 整備計画地

1 計画地の概要

(1) 計画地の位置

○ 本施設は、西公園南側区域下段エリアにある現在の多目的広場内を計画地として整備を行います。

【計画地の位置図】



(2) 計画地の現況等

【計画地の現況】

所在地	仙台市青葉区桜ヶ岡公園2番1(地番)
面積	約4,000㎡(多目的広場)
土地所有者	仙台市
現在の用途	西公園内の多目的広場(遊び場・イベント会場等として使用)
交通アクセス	地下鉄東西線大町西公園駅から徒歩3分

① 交通環境

- 地下鉄大町西公園駅(仙台駅から2駅、3分)から計画地までは、約12~13mの高低差はありますが、徒歩3分程度でアクセスすることができます。
- 市の中心部に位置しており、隣接する都心部を中心とした幹線道路網が整備されています。

②前面道路

- 計画地の前面道路は、南側の市道青葉山線(両方向各 1 車線)のみです。また、当該道路を西側に進むと広瀬川にかかる大橋が、青葉山エリアと市街地中心部を結んでいます。
- 西公園南側区域全体でみると、東側は市道西公園通線に面しているほか、北側は市道仲の瀬橋線及び国道 48 号(仙台西道路)に面しています。

③地形・地盤

- 計画地は西公園南側の河岸段丘の下段に位置しており、東側の上段(芝生広場)とは約 12~13mの高低差があります。
- 計画地内はほぼ平坦であり、北側の地下鉄高架下や遊具エリアと段差なく接続していますが、河岸段丘の地形により、前面道路からは約 3~4m低くなっています。
- 近隣の地盤調査によると、地盤面より約3~8m以深の玉石混じり砂礫層を支持地盤とすることが想定されます。今後、計画地において地盤調査を行い、支持地盤を確定します。

④浸水想定

- ハザードマップ上では、計画地の一部が広瀬川浸水想定区域内にあり、大雨等で広瀬川の水位が上昇し、堤防が決壊したり、河川の水が堤防を越えたりした場合に起こる外水氾濫(洪水)が想定(最大想定浸水深約 1.5m)されます。

(3)計画地の特性

①西公園における位置づけ

- 計画地は、「西公園再整備基本構想」において、多様な交流が繰り広げられる「にぎわいのゾーン」として位置づけられており、本施設は、公園の遊びや交流等の機能を強化し、賑わいの創出につながるものです。

②外遊びとの連続性

- 計画地の北側に隣接するエリアにおいては、「遊具ゾーン」としてインクルーシブ対応遊具の整備や、「アーバンスポーツ広場」の整備が予定されています。
- 計画地に接する広瀬川河川敷は、せせらぎ水路が整備されており、水遊びなどが可能な親水空間となっています。

③遊びとの親和性

- 西公園の北側区域では、長年にわたりプレーパーク活動が展開されているなど、こどもの遊び場として親しまれています。
- 計画地の北側には地下鉄高架下を活用したプロムナードが整備されているほか、間近を走る地下鉄を見ることができます。
- 計画地は市民プールの跡地であり、かつて多くの子どもたちが訪れていたエリアです。

④周辺の施設等との連携の可能性

- 青葉山エリア等における様々な周辺の施設との連携等により、遊び、文化芸術、災害文化、歴史、学問、自然を組み合わせた、多様な体験を創出できる可能性があります。

⑤まちづくりとの親和性

- 多くの子育て家庭が訪れることになる本施設は、市中心部と青葉山エリアの回遊性向上による賑わいの創出や、交流人口の拡大につながるものです。
- 隣接する青葉通・大町周辺や、西公園の北側区域を介した定禅寺通におけるまちづくりとの連携が期待できます。

(4)土地利用上の法的な制約条件等

計画地に係る土地利用上の法的な制約条件は、主に以下のとおりです。

都市計画法	用途地域	第二種住居地域
	建ぺい率	60%
	容積率	200%
	高度地区	第3種高度地区
	防火指定	なし
	地区計画等	なし
都市公園法・ 仙台市都市公園条例	施設の設置基準(建築面積等に関する規定)	
景観法・ 仙台市「杜の都」景観計画	景観計画区域:河川・海岸地ゾーン 景観重点区域:広瀬川周辺ゾーン	
屋外広告物条例	禁止地域(都市公園法における都市公園の区域・広瀬川の清流を守る条例における環境保全区域) 広告物景観地域(広瀬川周辺ゾーン)	
文化財保護法	埋蔵文化財包蔵地	
広瀬川の清流を守る条例	第一種環境保全区域 (高さ制限:20m以下) (建ぺい率:50%以下) (保全用地、外観、その他の規定あり)	
杜の都の環境をつくる条例	緑化率:20% 保存樹林(ヒマラヤシーダー)	
仙台市地球温暖化対策等の 推進に関する条例	「新築建築物への太陽光発電導入・高断熱化促進制度(令和7年度制度導入)」の基準を満たす太陽光発電の導入や断熱・省エネ性能の確保	

第3章 他地方公共団体の類似事例の調査

1 調査の概要

- 本基本計画の策定にあたり、他の地方公共団体等が設置・整備を行った屋内遊び場等の類似施設に対して、アンケート及び施設訪問による調査を実施しました。
- 調査を行った施設は、以下のとおりです。

【他地方公共団体の類似事例調査施設一覧】

No.	施設名	地方公共団体名	アンケート	施設訪問
1	copal(コパル)	山形県山形市	○	○
2	くるんと	山形県長井市	—	○
3	けやきホール(さくらんぼタントクルセンター)	山形県東根市	—	○
4	ペップキッズこおりやま	福島県郡山市	○	—
5	キッズピアあしかが	栃木県足利市	○	—
6	ASOBooN(アソブーン)	埼玉県川口市	○	○
7	ASOBono!(アソボノ)	東京都文京区	○	—
8	シリウス屋内子ども広場	神奈川県大和市	○	—
9	ハレラテつばめ	新潟県燕市	○	—
10	かがにこにこパーク	石川県加賀市	○	—
11	カブツキーランドすくすくひろば	石川県小松市	○	—
12	遊び創造 labo(ラボ)	岐阜県各務原市	○	○
13	ぐりんぐりん	愛知県春日井市	○	—
14	プレイヴィル安満遺跡公園	大阪府高槻市	○	○

2 調査結果(まとめ)

- 調査により把握した屋内遊び場の特性や傾向については、以下のとおりです。

(1) 様々な子どもたちが遊ぶことができる環境づくり

- 年齢や障害の有無に関わらず、あらゆる子どもたちが遊ぶことのできる環境づくりが、多くの施設で行われていました。
- 具体的には、乳幼児が安全に遊ぶことのできるゾーニングや、多様な子どもが楽しめるように設計されたインクルーシブ対応遊具の設置、スロープなどによる段差をなくした動線の確保、サイン表示といった施設整備上の工夫が見られました。
- 障害のある子どもが優先的に施設を利用することができる専用時間帯の確保のほか、利用者のニーズや状況に合わせた個別の対応など、運用面での取組を実施している施設も見られました。

(2)立体的な遊びの空間づくり

- 遊びの空間を立体的に整備することで、施設内の空間的資源を有効に活用する工夫が見られました。
- 高さのある遊具は、空間を有効に活用する観点だけでなく、遊びを通じて、登る、ぶら下がる、すべる、くぐる、渡るといったこどもの多様な動きを引き出すことにもつながっていました。
- 遊具や大きな斜面、スロープを通じて上下階への移動ができる施設や、中間階を設けることで静かな空間やフロア全体を見渡せる見通しの良い場所を確保している施設も見られました。

(3)保護者や同伴者の利用を考慮した施設整備

- 多くの施設で、保護者や同伴者の利便性や快適性に資する各種設備や機能が設けられていました。
- おむつ交換台や授乳室、バリアフリートイレといった標準的な設備だけでなく、着替え室やシャワー室、大人用と幼児用の便器が並ぶトイレ、性別を問わず利用できるベビーケアルームといった設備を設ける施設も見られました。
- ベビーカー置き場やコインロッカー、荷物置き場などの収納に関する設備やスペースのほか、子どもを見守りやすい空間等の設計上の工夫を行っている施設も多く見られました。

(4)遊び場を通じた賑わいづくり・まちづくり

- 公園内に設置する類似施設(No.10・12～14 が該当)の多くでは、子どもや子育て家庭だけでなく、様々な人が訪れることのできる環境づくりが行われていました。
- 具体的には、多目的室や交流スペースなど、公園利用者が利用できる設備や機能を設ける施設が見られました。そのほか、カフェなどの飲食店を設置する施設もありました。
- 遊び場の利用有無に関わらず参加可能なイベントやワークショップを開催するなど、施設を通じた公園の賑わいづくりやまちづくりに積極的に取り組む施設も見られました。

第4章 本施設に関するニーズや意見

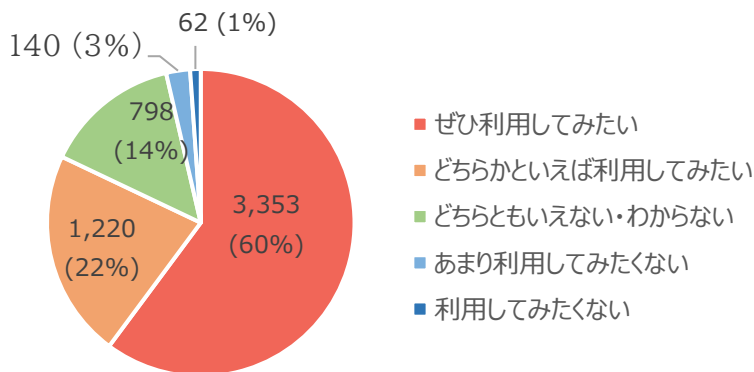
- 本施設の整備にあたっては、利用が想定される方々のニーズを把握したうえで、整備内容に反映していくことが重要であることから、以下の方法により保護者等やこどもの意見を調査しました。

1 保護者等の意見

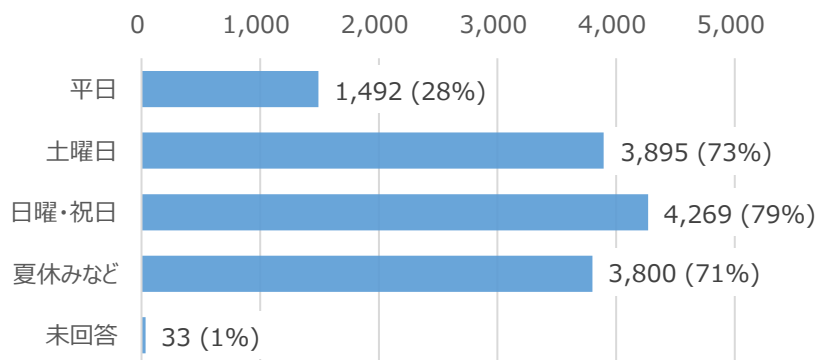
- 本施設のニーズを調査するため、保護者等に対するウェブアンケートを以下により実施しました。
 - ・目的:主たる利用者として想定される小学生以下のこどもの保護者等から広く意見を伺い、本施設へのニーズを把握するもの。
 - ・対象:市内にお住まいの乳幼児から小学生までのこどもの保護者等
 - ・方法:ウェブアンケート
 - ・実施期間:令和7年5月15日から6月13日
 - ・回答数:5,573件

(1)本施設へのニーズや意見に係るアンケートの結果

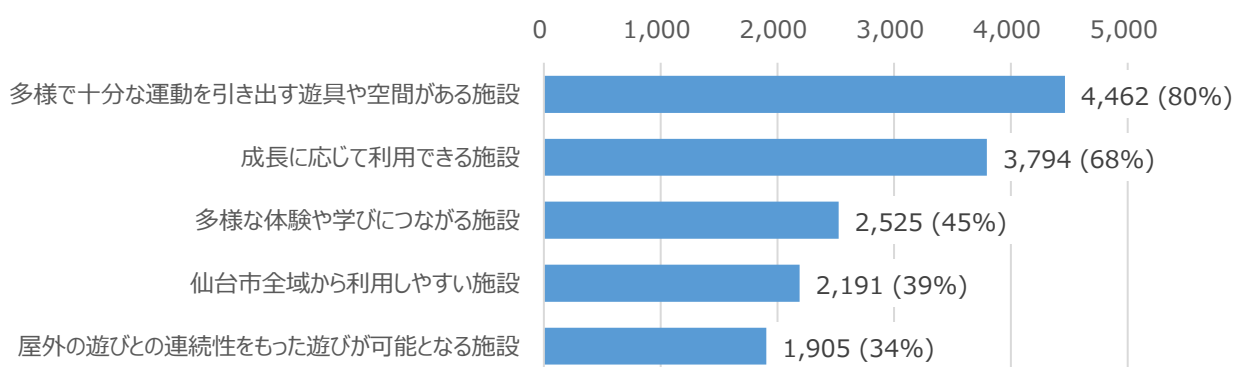
- 開館したら利用してみたいかについて



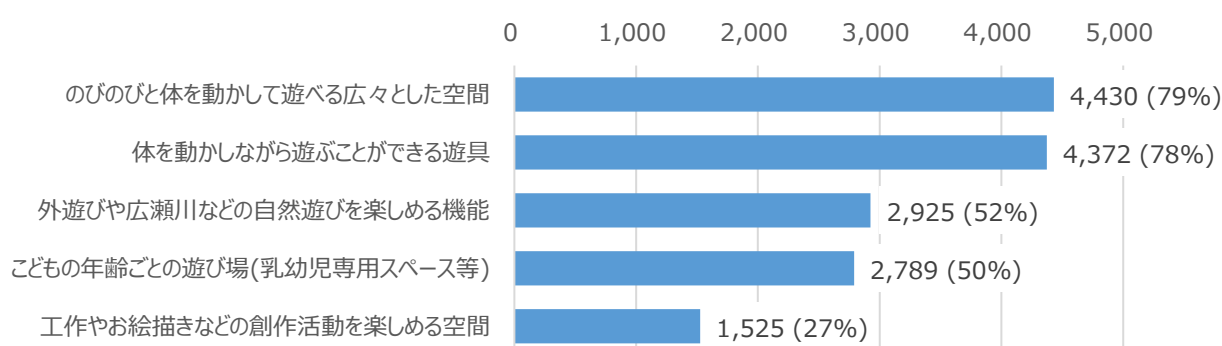
- いつ利用してみたいかについて※複数回答可



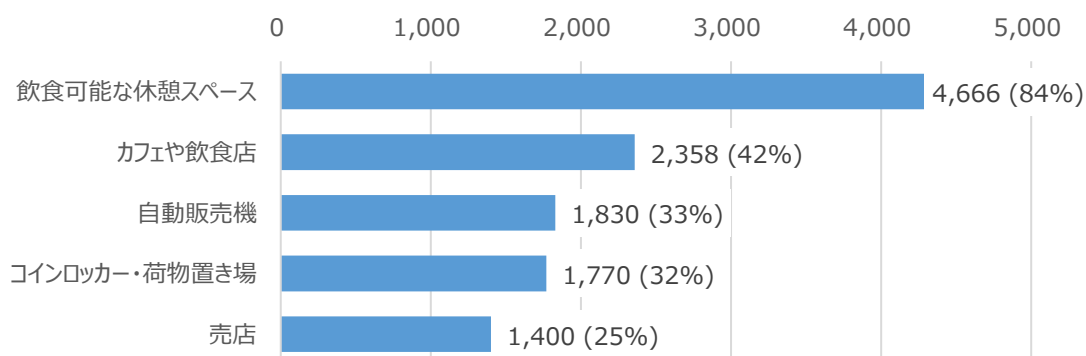
● 望ましい施設のコンセプトについて※複数回答可(上位5項目)



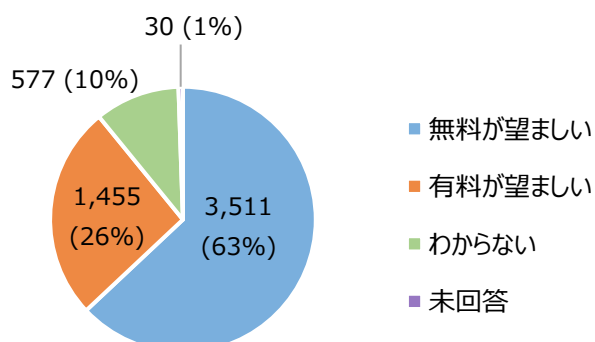
● 特に求める機能について※複数回答可(上位5項目)



● 特に求める設備について※複数回答可(上位5項目)



● 利用料金の考え方について



● 本施設への意見やアイデアについて(自由記述)

- その他の意見やアイデアに関する自由記述欄には1,420件の回答が寄せられました。その内容は、(i)コンセプトに関する意見、(ii)屋内遊び場の空間イメージや諸室・設備等に関する意見、(iii)遊びのアイデアや遊具に関する意見、(iv)運営面で気をつけてほしい点に関する意見、(v)駐車場・交通アクセスに関する意見、(vi)他地方公共団体の類似施設に言及した意見、(vii)その他の意見・アイデアなど、幅広いものでした。
- (i)コンセプトについて、改めて「体を動かして遊べる／思い切り遊べる遊び場」を求める意見が多数集まりました。(例:「雨や暑い日にも思い切り遊べるようにしてほしい。」「運動能力の向上や肥満対策に寄与するような、体を動かせる遊び場を。」「年齢を問わず身体をめいっぱい動かして楽しめる場所にしてほしい。」)
- (ii)空間のイメージについて、「広々とした遊び場空間」を求める意見が多数寄せられました。また、西公園に整備することを受けて、「自然を感じられる遊び場」を提案する意見が複数確認されました。(例:「とにかく広々とした空間を希望。天候を気にせずのびのび体を動かして遊ばせたい。」「思い切り走れる空間を最重要に考えてほしい。」「広瀬川や緑が見える、自然を感じられる室内環境を希望。」)
- (iii)遊びのアイデアや遊具について、屋外空間での遊びに対する意見が多く確認されました。特に夏場に水遊びをしたい旨の意見が多数集まりました。(例:「屋外に水遊びスペースを。日差しを避ける屋根の設置も希望。」「屋内外で広々としたエリアを確保してほしい。」)
- (iv)運営について、利用者による混雑を予想し、事前予約制や時間での入れ替え制など、混雑対策を提案する意見が多数確認されました。また屋内外で季節のイベントやワークショップなどの開催を期待する意見も集まりました。(例:「事前予約や入れ替え制など混雑防止対策を。」「ワークショップ、自然探索など参加型遊びの開催を期待。」)
- (v)計画地における駐車場の台数確保を求める意見が多数寄せられました。また、地下鉄利用時のアクセス環境の向上を求める意見や、シャトルバスのアイデアなど、自動車以外での移動に関する意見も集まりました。(例:「駐車場を充実させてほしい。」「雨の日に利用しやすいよう、地下鉄駅直結となると嬉しい。」)
- (vi)他地方公共団体の類似施設を参考にして施設整備を進めることを求める意見が多く寄せられました。また、近隣の地方公共団体の状況も踏まえて、無料で利用を求める意見も多数集まりました。(例:「他県の施設を参考にして、良いところを取り入れてほしい。」「山形県や福島県のような無料で遊べる屋内遊び場を期待。」)
- (vii)その他の意見・アイデアでは、早期整備を期待する意見や、計画地である西公園にとどまらず、エリアの魅力向上につながるような計画を期待する意見、遊び場づくりのプロセスに子育て世代や子どもたちが参画する仕組みを期待する意見が確認されました。(例:「本当に心待ちにしている。ぜひ早期整備を実現してほしい。」「広瀬川沿いの立地を生かした遊び場、エリア一体を魅力的な場所に引き上げるような計画を。」「現役の子育て世代の意見を反映してつくってほしい。」「子どもたちの目線やアイデアも募集してほしい。」)

(2) アンケート調査による保護者意見(まとめ)

① 本施設に対する子育て家庭の期待

- ・ 5,500 件を超えるアンケートへの回答が寄せられたほか、利用への関心を示す回答が 8 割以上を占めるなど、子育て家庭の本施設に対する高い期待が確認されました。
- ・ 利用意向については、こどもが休みの時の回答割合が高かったことや、移動手段について、自家用車による来館を想定する回答割合が高くなりました。

② 遊びを通じてこどもの体を動かす機会を提供する施設への意向

- ・ 本施設に望ましいコンセプトや求める機能については、いずれもこどもの体を動かす機会の提供に関するものが高い回答割合となるなど、遊びを通じて、こどもが思いきり体を動かすことや、多様な運動ができる施設を求めるニーズが確認できました。
- ・ そのほかのコンセプトや機能についても、一定の割合でニーズが示されました。

③ 飲食できる空間への意向

- ・ 本施設に求める設備について、「飲食可能な休憩スペース」が高い回答割合となるなど、施設の中でご飯やおやつを食べたりしながら休憩して過ごす意向が確認できました。
- ・ 「コインロッカー・荷物置き場」などの収納に関する設備についても、一定の割合でニーズが示されました。

④ 利用しやすい料金設定の意向

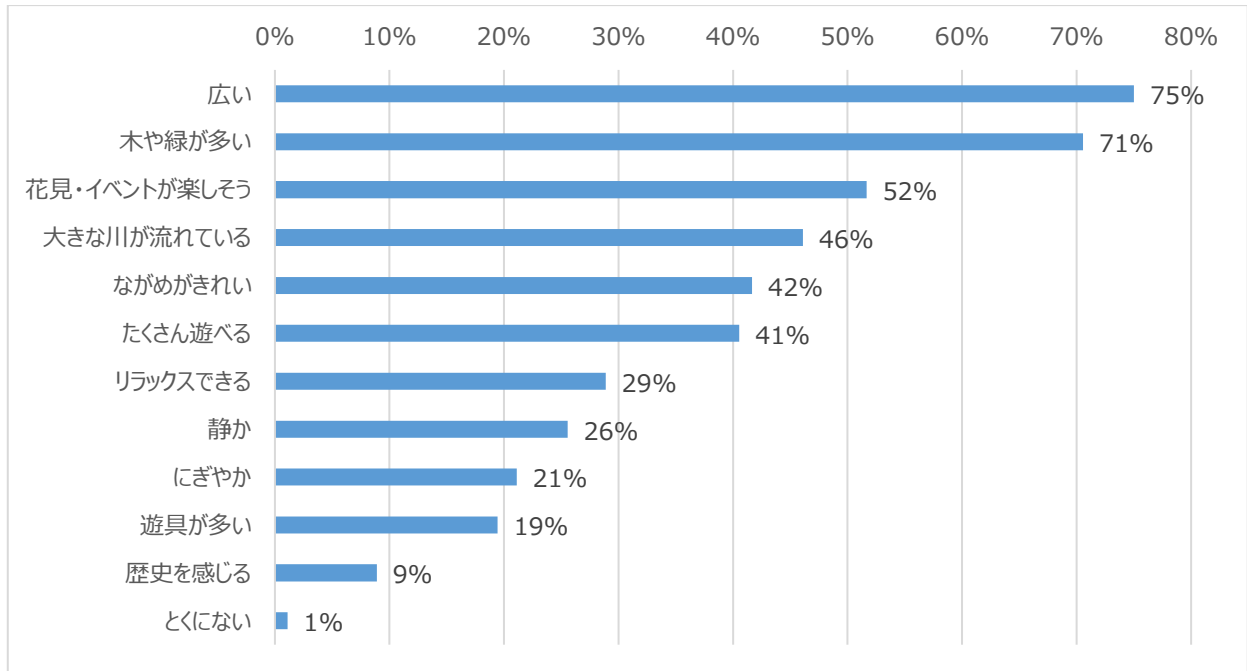
- ・ 利用料金の意向については、無料を望む回答が 6 割以上を占めたほか、有料を望む回答においても低廉な料金設定を希望する意見が見られるなど、経済的に負担の少ない形で本施設の利用を望む傾向が確認できました。

2 こどもの意見

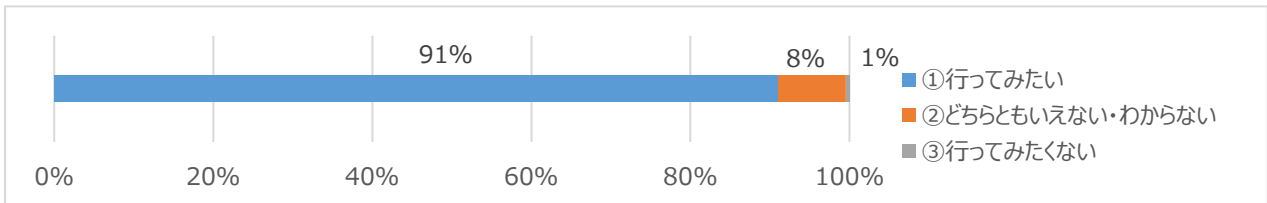
- 本施設のニーズを調査するため、こども向けのウェブアンケートを以下により実施しました。
 - ・ 目的: 本施設整備にあたって、広くこどもの参画を図ることや、こどもの好きな遊びや本施設へのニーズを把握するもの。
 - ・ 対象: 市内に在住している、または市内の学校に通っている小学生から中高生年代のこども
※公益財団法人仙台こども財団運営の「こどもいけん広場」にメンバー登録したこども及び西公園に隣接する3小学校(木町通小、片平小、立町小)の児童
 - ・ 方法: ウェブアンケート
 - ・ 実施期間: 令和7年6月16日から7月7日
 - ・ 質問テーマ: 小学生対象「西公園につくる屋内遊び場でしたいこと」
中高生年代対象「西公園への屋内遊び場整備について」
 - ・ 回答数: 小学生 181 件 / 中高生年代 13 件
- アンケートのほか、小学4年生から中高生年代のこどもを対象とした対面での意見交換会を実施し、意見を聴取しました。

(1)本施設へのニーズや意見に係るアンケートの結果(小学生)

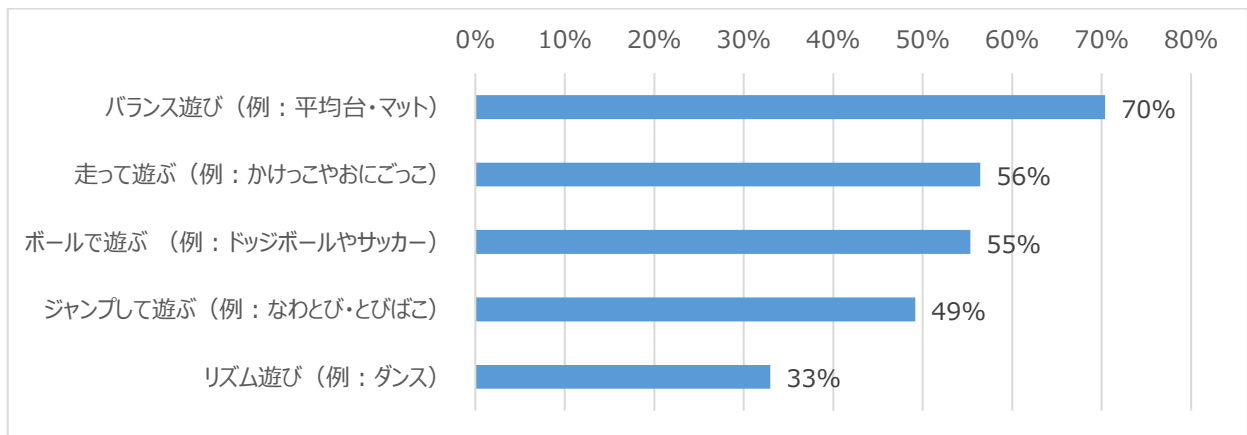
- 西公園の動画を見たり、実際に行ったりして、西公園はどんな場所だと感じたかについて(複数選択可)



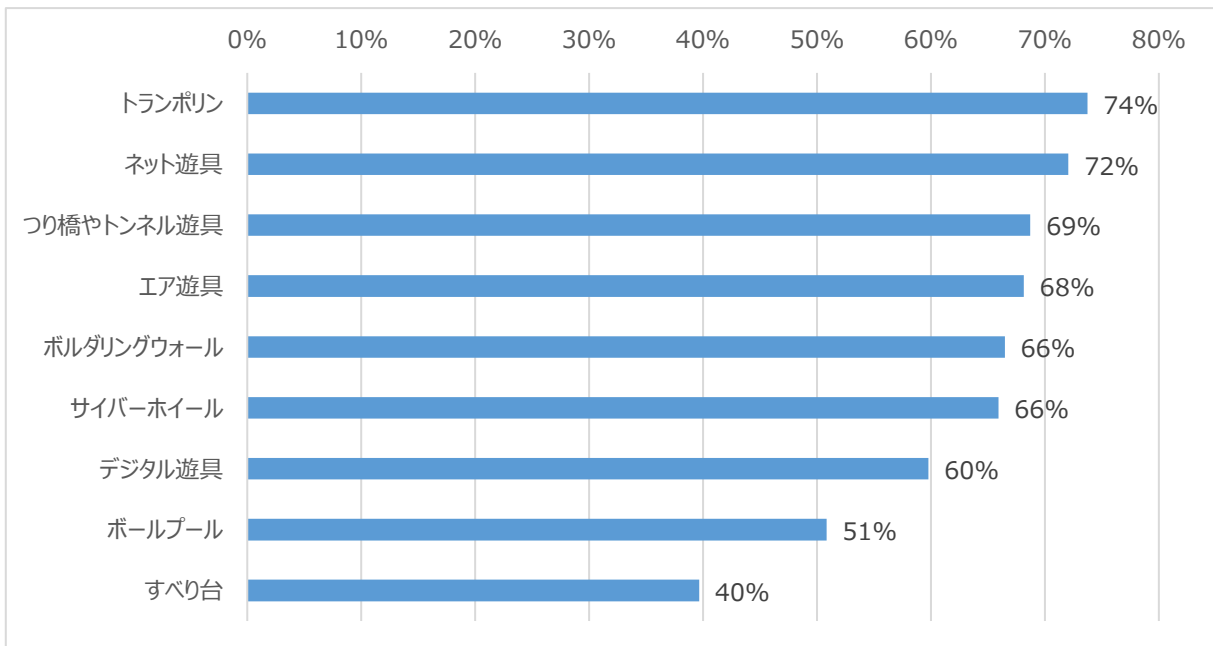
- 西公園に「屋内の遊び場」ができれば、行ってみたいかについて



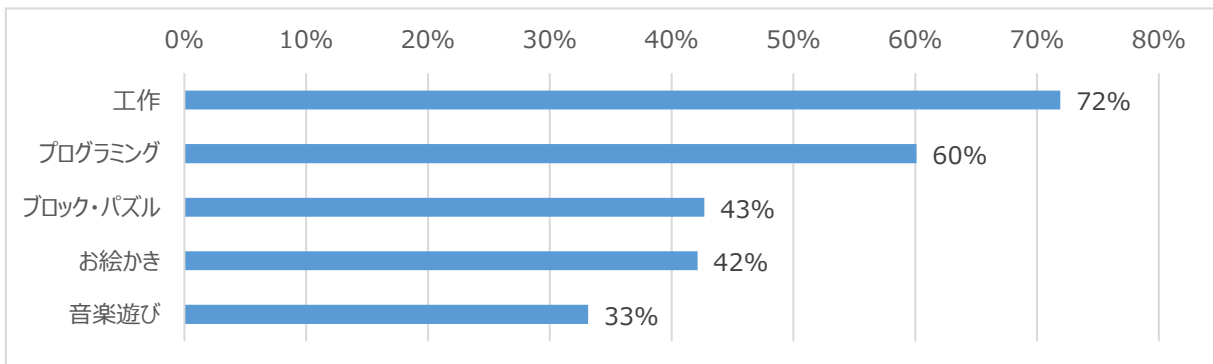
- どんなふうに身体を動かして遊びたいかについて(複数選択可)



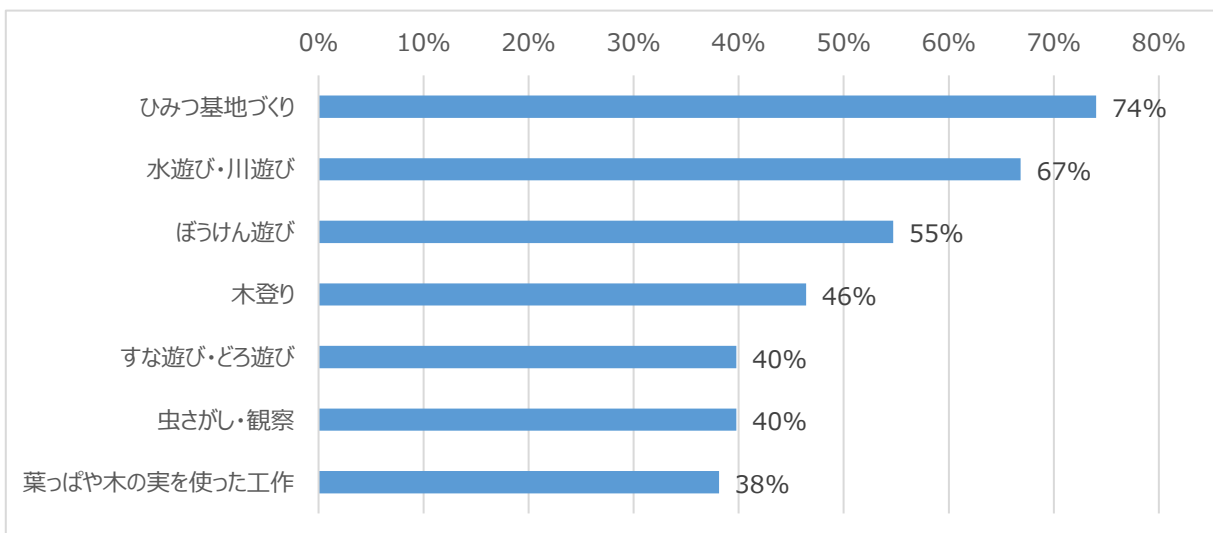
● どんな遊具で遊びたいかについて(複数選択可)



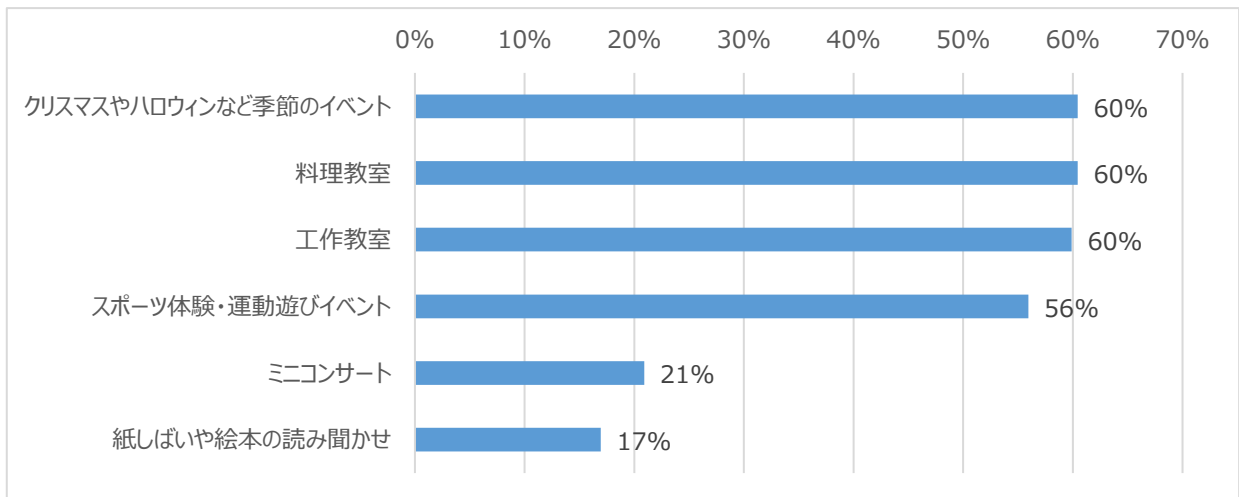
● どんな創作活動や表現遊びをしたかについて(複数選択可)



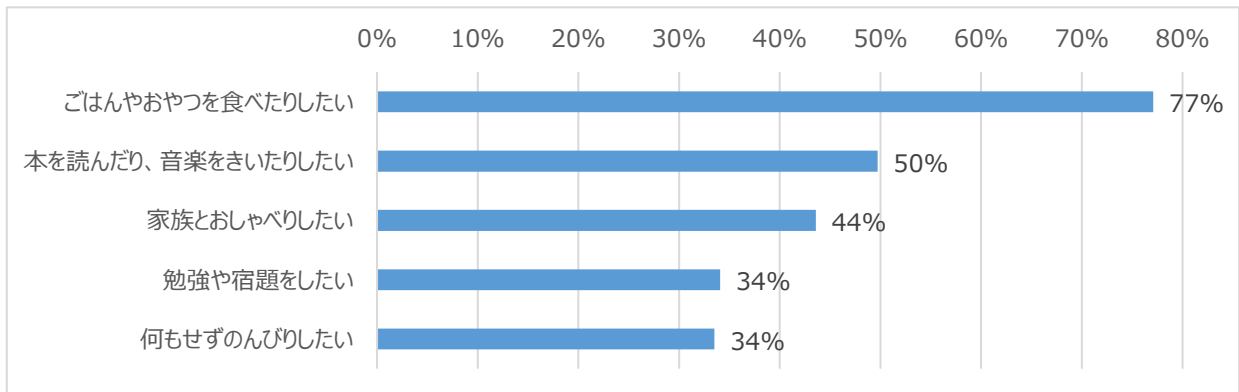
● どんな自然遊びがしたいかについて(複数選択可)



● どんなイベントに参加してみたいかについて(複数選択可)



● どんなふうによくすごしたいかについて(複数選択可)



(2) アンケート調査によるこどもの意見(まとめ)

① 西公園への遊びに対する印象

- ・ 西公園はどのような場所だと感じているか(感じたか)についての質問では、「広い」や「木や緑が多い」、「花見・イベントが楽しそう」が高い回答割合であった一方で、「たくさん遊べる」や「遊具が多い」がいずれも半分以下の回答割合でした。
- ・ 屋内遊び場ができれば行ってみたいかについての質問では、高い割合の利用意向が確認できました。

② こどもの遊びに対する多様なニーズ

- ・ 本アンケートでは、「どのように体を動かして遊びたいか」や、「どんな遊具で遊びたいか」、「どんな創作活動や表現遊びがしたいか」、「どんな自然遊びをしたいか」をそれぞれ質問しましたが、どの選択肢も 3～7割程度選択されるなど、幅広い遊びの意向をもっていることが確認できました。
- ・ 遊びについては、自由記述においても多様な意見が出されたところであり、子どもたちが様々な遊びに興味関心を抱いていることがうかがえました。

③本施設でのイベントや過ごし方に対するニーズ

- ・「どんなイベントに参加してみたいか」や「どんなふうに過ごしたいか」についての質問でも、どの選択肢も概ね一定の割合での意向が確認できました。
- ・なかでも、「ごはんやおやつを食べたりしたい」は 8 割近い意向が示されたところであり、本施設での過ごし方として飲食を希望していることが確認できました。

第5章 施設整備方針

1 基本理念・コンセプト

(1) 基本理念

広がる遊びと、かがやくこどもの未来 ～笑顔あふれる杜の都の遊び場～

- 遊びはこどもの成長の原点といえるものであり、遊びの環境の充実は、こどもの豊かな育ちに欠かせないものです。
- 本施設は、本市における、遊びの環境の充実に向けた取組の中で、大きな役割を果たすものです。
- 多様で自由な遊びが広がり、それが、こどもの健やかな成長を支え、こどもたちの明るい未来を広げることにつながる施設となることを目指します。
- 立地場所である西公園は、本市の豊かな自然を象徴する広瀬川が近くを流れるとともに、都心部と青葉山エリアという、本市の都市個性が際立つ魅力あるエリアの結節点にあり、「杜の都」を象徴する場所であるといえます。
- 仙台らしさを感じられるこの場所で、屋内と屋外で連続性を持った遊びや、周辺施設と連携した多様な体験や学びが創出され、こどもたちを中心に、笑顔があふれる遊び場となることを目指します。



(2) コンセプト

- 基本理念を実現するための本施設のコンセプトについて、以下の5点にまとめました。

- ① 遊びが広がり、こどもの育ちを支える施設
- ② 体験や学びの機能を重視した施設
- ③ 親や同伴者も満足できる施設
- ④ 仙台らしさを感じられる施設
- ⑤ 多様な人が訪れることができる施設

2 基本的な機能・実施事業

○ 本施設に掲げる基本理念やコンセプトを実現するために、求められる基本的な機能や実施事業を以下に整理します。

① 遊びが広がり、こどもの育ちを支える施設	
身体活動や運動能力を育む機能	<ul style="list-style-type: none"> ・大きな動きや多様な運動を引き出す空間や遊具 ・空間を面的に生かした設計 ・安全への配慮や休憩スペース
創造性や表現力を育む機能	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもが主体的に遊ぶことのできる自由度の高い空間 ・創作活動が可能な空間 ・自然を活用した工作活動やイベント、ワークショップ
社会性や協調性を育む機能	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い年齢層の利用が想定できる空間や遊具 ・他者との関わりにつながるイベントやワークショップ ・団体利用の受入れ
成長に応じた機能	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階に応じたゾーニングや遊具 ・決まった遊び方がなく、成長に伴い遊びが変化する遊具 ・スリルや達成感を得られるチャレンジングな遊具
自分らしく遊ぶことのできる機能	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル技術を活用した感覚遊びなど、多様な遊びができる空間 ・インクルーシブな遊び場
② 体験や学びの機能を重視した施設	
体験や学びの機能	<ul style="list-style-type: none"> ・多目的スペース ・展示や情報発信スペース ・自然や季節を感じられるイベントやワークショップ
知的好奇心や探求心を育む機能	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本・図書コーナー ・こどもが自由な発想で遊べる空間や遊具
③ 親や同伴者も満足できる施設	
親子で楽しめる機能	<ul style="list-style-type: none"> ・親子で一緒に遊ぶことのできる空間や遊具 ・親子で参加できるイベントやプログラム ・遊びに関する専門知識をもったスタッフの配置
快適性や利便性に関する機能	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食可能な休憩スペース ・軽食や飲み物等の販売 ・市全域からの利用を想定したアクセス環境の整備
衛生面に関する機能	<ul style="list-style-type: none"> ・授乳室・おむつ交換台・バリアフリートイレ ・手洗い場や着替え場所
安全性に関する機能	<ul style="list-style-type: none"> ・遊具や材質、設備等における安全性の配慮 ・保護者やスタッフがこどもを見守りやすい配置
収納に関する機能	<ul style="list-style-type: none"> ・コインロッカーや荷物置き場 ・ベビーカー置き場・靴箱

④ 仙台らしさを感じられる施設	
都市個性を生かした機能	<ul style="list-style-type: none"> ・青葉山エリア等の周辺施設と連携した企画 ・地下鉄の利用を促進する取組 ・地下鉄や広瀬川を眺めて楽しむことができるゾーニングや空間
屋内と屋外で連続性を持った遊びを実現する機能	<ul style="list-style-type: none"> ・自然遊びなどの外遊びにつながるゾーニングや空間 ・屋外での遊びを促進する設備や取組
遊びの拠点機能	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の身近な遊び場である児童館やプレーパーク活動団体、子育て支援団体と連携した取組 ・市内プレーパークとの連携や、関連事業に関する情報発信
⑤ 多様な人が訪れることができる施設	
インクルーシブな機能	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニバーサルデザイン ・施設へのアクセス環境や施設内のバリアフリー化
公園利用者の利便性の向上につながる機能	<ul style="list-style-type: none"> ・多目的室や交流スペース ・休憩エリア
周辺エリアとの回遊性の向上につながる機能	<ul style="list-style-type: none"> ・市中心部からのアクセス環境の整備 ・多様な人が参加できる賑わいを創出するイベント

3 施設の位置づけ

本施設の位置づけについて、以下のとおり考えられますが、今後、施設の具体的な整備内容や管理運営手法と合わせて、検討していくこととします。

- 遊びを通じて、こどもの育ちを支えることを目的とし、遊びの機能を中心とした施設とします。
- 施設整備においては、こどもの自由で自発的な遊びを実現する環境づくりを促進するとともに、運営面においても遊びに関する専門性の向上を図っていきます。
- 子育てに関する相談・支援機能等を有するのびすくなどの既存施設等との連携を図っていきます。
- 法的な位置づけについては、児童福祉法第 40 条に規定する児童厚生施設とすることを検討します。その場合、施設の設備や職員配置において、法令上の規定に基づく対応が必要となります。

4 主な利用者

- 本施設は、こどもたちに遊びを通じた健やかな成長の機会を提供するための施設です。屋内の遊びのエリアについて想定する主な利用者は、遊びを通して、発達の基盤を築くことが特に求められるとされる「乳幼児から小学生」とします。また、体験や学びなどの機能は、幅広い年齢のこどもを対象とすることも想定します。
- こどもと一緒に施設を利用する保護者等の利用意向にも応えることで、安心してこどもと一緒に過ごすことができる環境整備を行っていきます。
- 本施設は公園内に整備することから、子育て世帯に限らず、公園を訪れた人が本施設に立ち寄り、交流できる場所としての機能も持たせることで、公園全体の魅力向上や地域のつながりの促進にも寄与することを目指していきます。

第6章 施設計画

1 施設配置・施設規模

(1) 施設配置・ゾーニング

【西公園南側区域下段エリア(計画地周辺)】



※広瀬川河川敷周辺の整備内容については、第4回広瀬川(大橋周辺)水辺利活用検討会(令和7年11月開催)における整備計画案をもとに作成したもので、詳細は今後検討していくこととしています。(以降の図についても同様です。)

施設配置にあたっては、以下の点に留意します。

① 屋内と屋外の連続性

- 本施設を多目的広場内の東寄りに配置し、本施設西側から広瀬川へ向かって、屋内と屋外の連続した遊びを実現する配置とします。

- 本施設の西側に半屋外空間(屋根下ひろば)を設けることで、屋内と屋外の間段階的な空間のつながりを生み出します。
- 施設内や半屋外空間のほか、芝生ひろばや屋外工作ひろばなどの施設周辺に、砂遊びや水遊び、自然を生かした遊びといった外遊びを促進する機能を設けることで、屋内に留まらず遊びが広がる遊び場としていきます。

②開かれた施設出入口

- 地下鉄東西線高架を挟んで北側に整備する駐車場からの歩行者動線と、本施設の東側の大町西公園駅からの歩行者動線の両方を考慮して、本施設の北東側にメイン出入口を設けます。
- 出入口前に開かれた空間を確保することで、本施設や公園内の各エリア、遊具等の見通しが良くなるほか、イベント時には地下鉄東西線高架下南側エリア(にぎわいひろば)も含めた活用を想定します。

③計画地の特性を踏まえた配置

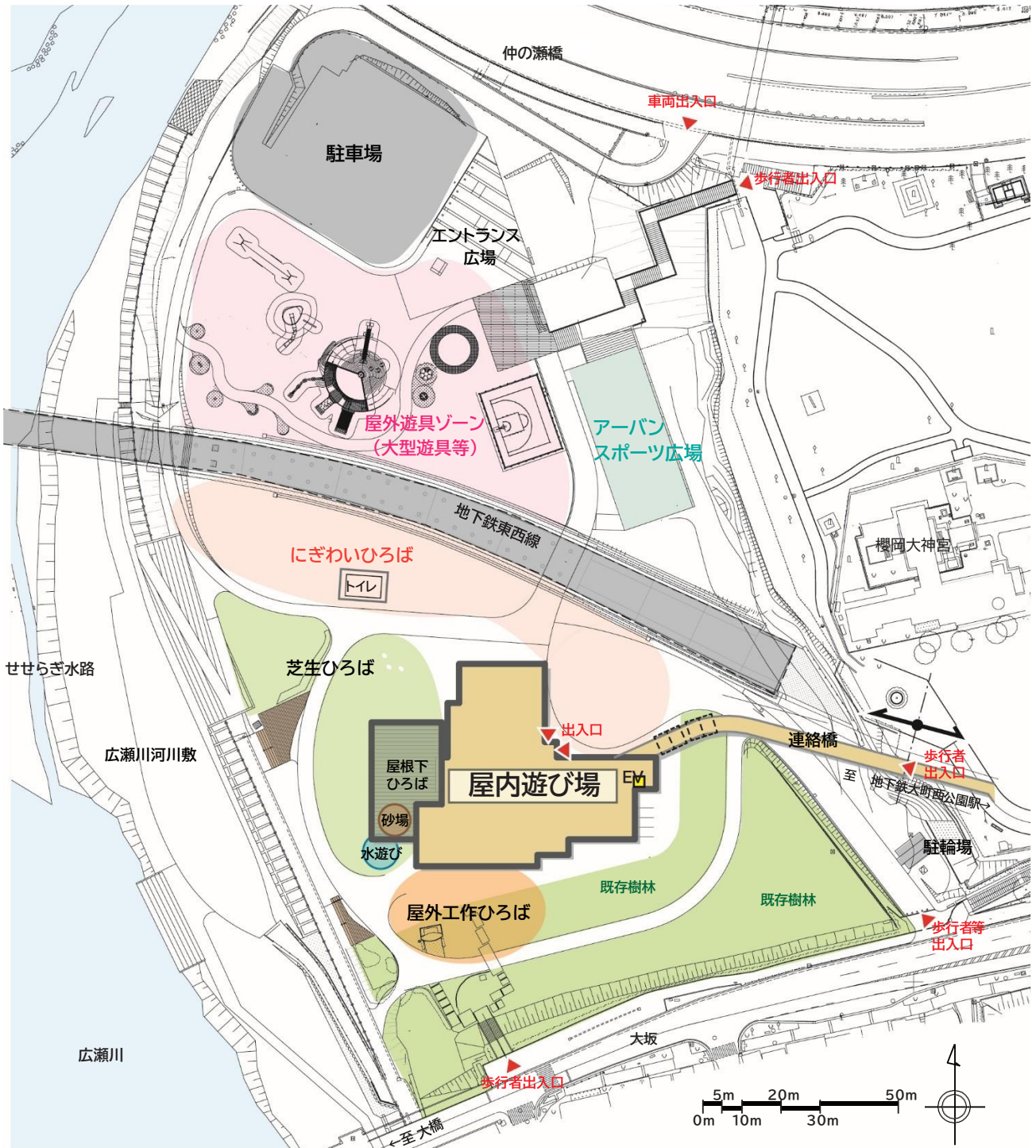
- 本施設は市全域からの利用を見込む施設であり、多くの利用者を受け入れられる施設規模が求められることから、本施設は2階建てとしたうえで、一部の遊び場を1階から2階につなげるなど、空間を立体的に活用しながら、こどもたちが開放的に遊べるようなデザインとします。
- 本施設は、自然環境や景観への影響、広瀬川の眺望等を考慮しながら、施設配置を行います。

④屋上への連絡橋の接続

- 西公園上段から本施設屋上に接続するバリアフリーに対応した連絡橋を設置することで、駅から施設まで円滑にアクセスできる歩行者動線を整備します。
- 本施設の屋上から、エレベーターや階段を使って本施設の出入口や公園内にアクセスできるようにすることで、西公園南側区域下段エリア全体のバリアフリー化や回遊性の向上を図ります。
- 連絡橋の整備にあたっては、保存樹林を含む既存樹林や自然崖への影響に配慮し、今後の設計において詳細な検討を進めていきます。

【西公園南側区域下段エリア(全体)】

○ 現在、本施設の北側では、西公園再整備事業による屋外遊具等の整備が進められていることから、参考として西公園南側区域下段全体のゾーニングを以下に示します。



【(参考)本施設の北側におけるゾーニング】

- エントランス広場
 - ・ 利用者が集い、小休憩やイベントが開催される交流の広場
- アーバンスポーツ広場
 - ・ こどもたちが、スケートボードやBMXなどアーバンスポーツに触れるきっかけとなる広場

○ 屋外遊具ゾーン

- ・ インクルーシブ対応遊具など、遊具での遊びやレクリエーションを楽しむ広場

(2)施設規模

- 本施設では、多くのこどもを受け入れ、かつ、のびのびと遊ぶことができる施設規模が必要となります。必要となる諸室等の構成に基づくとともに、計画地に係る諸要件や他都市の類似施設の規模等を踏まえ、面積規模(延床面積)は、以下のとおり 3,700 m²程度を計画します。

【施設規模の算出表】

区分	ゾーン構成・諸室等	想定床面積
遊びのエリア(屋内)	屋内ひろばゾーン	500 m ²
	ダイナミックゾーン	950 m ²
	工作・アトリエゾーン	200 m ²
	読書・くつろぎゾーン	100 m ²
	乳幼児ゾーン	150 m ²
	多様な遊びのゾーン	100 m ²
	小計	2,000 m ²
遊び以外のエリア(屋内)	飲食・交流スペース	300 m ²
	共用部(受付・トイレ・ベビーコーナー等)	550 m ²
	管理運営エリア	400 m ²
	小計	1,250 m ²
遊びのエリア(半屋外)	半屋外ゾーン	450 m ²
	小計	450 m ²
施設延床面積	合計	3,700 m²

【(参考)近隣地方公共団体の類似施設の延床面積】

施設名	地方公共団体名	開館年月	施設延床面積
copal(コパル)	山形県山形市	令和4年4月	約 3,200 m ²
べにっこひろば	山形県山形市	平成26年12月	約 2,700 m ²
げんキッズ	山形県天童市	平成27年5月	約 2,200 m ²
CLAAPIN SAGAE(クラッピン サガエ)	山形県寒河江市	令和6年4月	約 2,000 m ²
ペップキッズこおりやま	福島県郡山市	平成23年12月	約 1,900 m ²
こじゅうろうキッズランド	宮城県白石市	平成30年8月	約 1,400 m ²

※施設のHP等の公表情報より記載しています。

2 諸室計画

(1) 屋内ひろばゾーン

想定延床面積	500 m ²
概要	○広々とした平面空間で思い切り体を動かすことができる遊び場。 ○様々な種類の遊び道具やシンプルな遊具を配置することで、遊びの自由度を重視しながら、こどもたちの主体的な遊びを促進します。
想定される遊びや遊具の例	○走って遊ぶ、ボールで遊ぶ、ジャンプして遊ぶ、バランス遊び、リズム遊び ○トランポリン、エア遊具
備考	○こどもたちが開放的に遊ぶことができるよう十分な天井高を確保します。 ○空間の自由度を確保するため、遊具の保管場所も考慮して計画します。

(2) ダイナミックゾーン

想定延床面積	950 m ²
概要	○立体的な空間で全身を使ったダイナミックな遊びができるゾーン。 ○魅力的な遊具を配置することで、楽しく体を動かすことができる遊び場とします。 ○落ち着いた空間を隣接させて、静と動の遊びの循環が可能なゾーニングとします。
想定される遊びや遊具の例	○のぼって(おりて)遊ぶ、すべって遊ぶ、ぶら下がって遊ぶ、くぐって遊ぶ ○複数の遊びの要素を組み合わせた一体型の遊具、起伏のある遊具(空間)、滑り台、つり橋、トンネル、ネット遊具、ボルダリングウォール、ボールプール
備考	○高さのある遊具を配置するなど、1階から2階まで遊びながら移動できるデザインを検討します。 ○複数の遊びの要素が含まれた複合遊具の導入を検討します。 ○幅広い年齢のこどもたちが遊ぶことのできる遊具の導入を検討します。

(3) 半屋外ゾーン

想定延床面積	450 m ²
概要	○大屋根による、天候に関わらず自然遊びや外遊びができる場所。 ○本施設と公園や広瀬川周辺の遊びの連続性を実現します。 ○休憩等の用途でも利用可能なフリースペースとしての機能も設けます。
想定される遊びや利用用途	○自然遊び、砂遊び、水遊びなどの外遊び ○休憩、飲食、ピクニック
備考	○天井高を高くして、十分な採光を確保するほか、開放的な空間としてのびのびと過ごせる環境とします。 ○半屋外ゾーンの中でもゾーニングを行うことで、遊びの空間と休憩等の自由度の高い利用が可能な空間を両立していきます。

(4) 工作・アトリエゾーン

想定延床面積	200 m ²
概要	○創造的な遊びや活動ができるゾーン。 ○屋内と屋外を自由に行き来することで、屋内活動のほか、周囲の自然環境を生かした工作活動などでもできる遊び場とします。
想定される遊びや利用用途	○木工、お絵かき、工作 ○プレーパークのような自然等を活用した自由な遊び
備考	○外遊びを促進するような設備や機能を設けることで、公園の自然の中で子どもが自由で自発的に遊べる環境づくりを行います。 ○土間空間を設けるなど、自然の素材を使った遊びや活動ができるデザインとします。 ○絵本や図鑑等の書籍を置くなど、創作活動を促す工夫についても検討します。

(5) 読書・くつろぎゾーン

想定延床面積	100 m ²
概要	○子どもたちが本に触れられる、落ち着いて読書ができるゾーン。 ○こどもの学びの機会の創出に加え、休息をとり、静かに過ごす時間としても利用できる空間とします。
想定される遊びや利用用途	○読書、絵本、読み聞かせ ○休憩
備考	○絵本の読み聞かせなど、家族のコミュニケーションが促進されるような環境づくりを行います。 ○書架スペース等の情報発信の機能についても検討します。

(6) 乳幼児ゾーン

想定延床面積	150 m ²
概要	○乳幼児が安全に過ごせる遊び場。 ○保護者の交流の場としても活用します。
想定される遊びや利用用途	○やわらかい素材の遊具や傾斜、ハイハイ、ブロック遊び ○こどもとのスキンシップ、保護者同士の交流
備考	○安全性や衛生面を考慮することに加え、授乳室やおむつ交換台を近接させるなど、保護者の利便性に配慮した空間とします。 ○兄弟姉妹での利用も想定して、乳幼児が安心して遊ぶことができるよう、対象年齢を明確にしたゾーニングとしつつ、見通しの良い空間を確保します。 ○乳幼児や保護者向けのイベントなどで活用できるスペースも検討します。

(7)多様な遊びのゾーン

想定延床面積	100 m ²
概要	○映像やデジタル機器による遊びや学び等、多種多様な活動ができるゾーン。 ○感覚遊びや、隠れ家のようにこもって利用するなど、遊びのインクルーシブ性を考慮した空間とします。
想定される遊びや利用用途	○デジタル遊具、感覚遊び、クールダウン ○映像や音声による体験や学び
備考	○幅広い利用や、個別のニーズにも対応できるような自由度の高い空間とします。 ○音や光、視線といった外部刺激を軽減する環境の確保についても検討します。

(8)飲食・交流スペース

想定延床面積	300 m ²
概要	○地域の人や地元の団体が、様々な活動に利用できる多目的スペース。 ○飲食をしながら休憩することができるスペース。 ○広く市民の方が利用でき、公園の機能強化やエリア全体の賑わいづくりにも寄与する空間とします。
想定される利用用途	○飲食をしながらの休憩、交流 ○出展、情報発信 ○ワークショップ、教室、イベント
備考	○テラスを設けるなど、開放的なデザインとします。 ○軽食等の販売を行う売店等の設置も検討します。

(9)管理運営エリア

想定延床面積	400 m ²
概要	○施設の管理運営や事業実施に必要な事務室等を整備します。 ○公園管理事務所としての機能も備えます。

3 施設整備における配慮事項

(1)本施設の構造

- 本施設の構造については、こどもが大きく体を動かせる広々とした空間を確保するために、大スパン構造等による空間構成の自由度が高い鉄骨造(S造)を想定します。
- 木造(W造)の場合、屋上の防水対策が難しいほか、大空間とするための構造設計と施工の難度が高く、工期やコストが不利になる可能性があります。
- 鉄筋コンクリート造(RC造)については、耐火性や耐久性に優れているものの、柱スパンをあまり広くとれない等、空間構成の自由度で鉄骨造(S造)より劣ります。
- 以上を踏まえつつ、早期整備や建築工事費への影響も考慮しながら引き続き検討を進めていきます。

(2)望ましい室内環境の確保

- こどもたちが安全に遊ぶことができるよう、床材や壁材の検討のほか、柱や設備等の角への保護材の使用について配慮します。
- 屋内でも自然を感じられる環境を確保するため、自然光による採光を取り入れつつ、空調設備による適切な温度・湿度の調整や、防音に配慮して整備を行います。
- 地下鉄の走る様子や広瀬川、既存樹林等の本施設周辺の自然がこどもの目線から眺められるような窓の配置等の工夫を行います。
- 自然遊びを促進していく本施設のコンセプトや、「仙台市建築物における木材利用の促進に関する方針」を踏まえて、地域材による内装材への木材活用や木質化について、検討していきます。

(3)団体利用の受入れ

- 保護者向けのアンケートでも、平日の利用意向が、土曜日や日曜日・祝日等の利用意向に比べて低い傾向がありましたが、より多くのこどもに本施設を利用してもらうために、比較的用户者が少なくなるが見込まれる平日は、幼稚園や保育園等による団体利用の受入れを促進します。
- 団体利用の際には、待機エリアや飲食スペースが必要となることから、団体利用以外の利用者にも配慮しながら、飲食・交流スペース等を活用することを想定します。

(4)インクルーシブな空間づくり

- 車椅子や障害児向けのバギーでの利用が可能となるよう、動線も含めた十分な広さを計画します。
- バリアフリートイレについても十分な広さを確保するほか、障害のあるこどもの利用を想定したユニバーサルシートの設置についても検討します。
- 医療的ケアを必要とするこどものための電源(コンセント)利用が可能なエリアを確保するほか、多様な遊びのゾーンを活用するなど、リラックスした姿勢で遊んだり、過ごしたりできる空間についても検討します。

(5)浸水想定区域に係る対応

- 整備計画地は浸水の恐れがあるエリアであるため、利用者の安全確保や施設の継続的な使用に重大な支障が生じない対応に加えて、整備計画地からの排水に伴う周辺地域の冠水への影響について検討のうえ、適切に計画します。

(6)立地特性に応じた景観形成

- 『仙台市「杜の都」景観計画』では、広瀬川周辺ゾーンの景観形成の方針を「広瀬川の自然環境を保全し、仙台城跡や大橋等からの眺望にも配慮し、変化に富む河岸の自然景観と調和する市街地の景観形成を図る」としています。
- 西公園南側区域下段エリア内に整備を予定する本施設においても、この景観形成の方針に則り、周囲の水辺環境との調和を図るほか、河川水面の眺望や坂道からの見通しを損なわない意匠、高さとし、魅力的な街並み景観を維持します。

- 本施設から見える景観についても、周囲の自然景観等を魅力的に眺めることができる配置や、景観を楽しみながら過ごすことができる空間づくりを検討していきます。

(7)自然環境への配慮

- 計画地の西側には広瀬川が流れているほか、東側には広瀬川によって形成された河岸段丘の崖面を見ることができます。これらは、長い月日をかけて形成された本市ならではの自然や地形であり、市民の方にも長年親しまれてきたものです。
- 広瀬川の清流を守る条例により、広瀬川周辺のエリアは、環境保全区域として指定され、自然環境や景観を一体的に保全しており、本施設の整備にあたっては、環境保全区域の許可基準に則っていくことはもとより、自然環境を次世代まで引き継いでいくという視点をもって検討していきます。
- 計画地周辺にあるヒマラヤシーダーは、杜の都の環境をつくる条例により保存樹林に指定されており、本施設の整備にあたっては、生育環境等への影響に配慮した整備内容としていきます。

(8)環境負荷の低減・消費エネルギーの低減

- 「仙台市環境行動計画」に沿い、外皮断熱の強化や高効率設備機器の導入等により、ZEB Ready 以上を目指すとともに、再生可能エネルギーである太陽光発電の導入を検討していきます。
- 地域材をはじめ環境負荷の小さい資源の活用を検討するとともに、省資源化・資源の循環に配慮した計画とします。

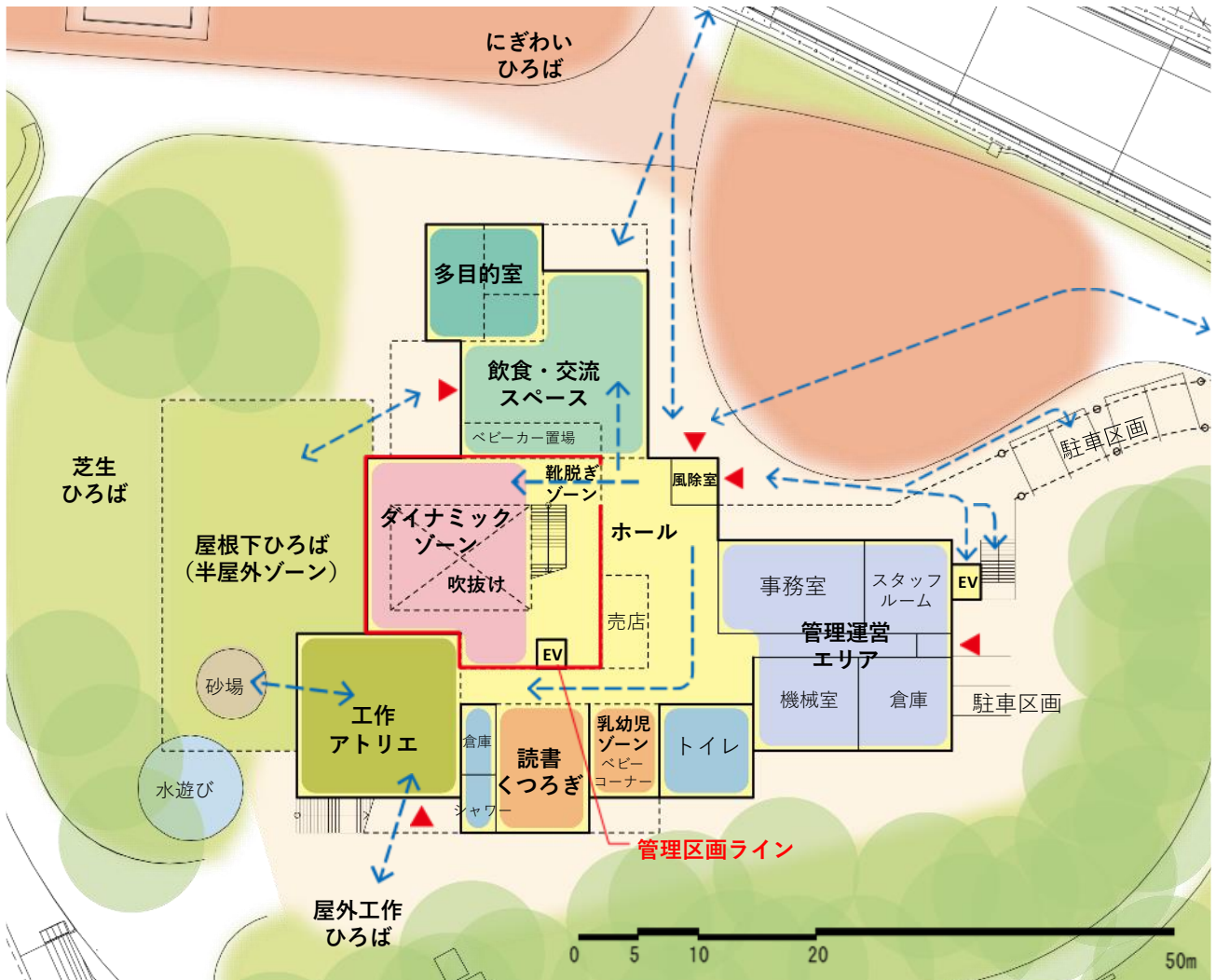
(9)長寿命化への配慮とライフサイクルコストの低減

- 長く安全に建物を利用できるように、高耐久性の材料や設備類を使用するとともに、修繕や更新、保守点検のしやすさに配慮します。
- 断熱性の高い材料、改修等が容易な工法、省エネルギー設備、節水機器などの採用により、施設の維持管理にかかる費用の抑制に努めます。

4 平面計画

- 本施設の各階の諸室配置をまとめた平面計画は以下のとおりです。
- 詳細については、今後の設計において確定していきます。

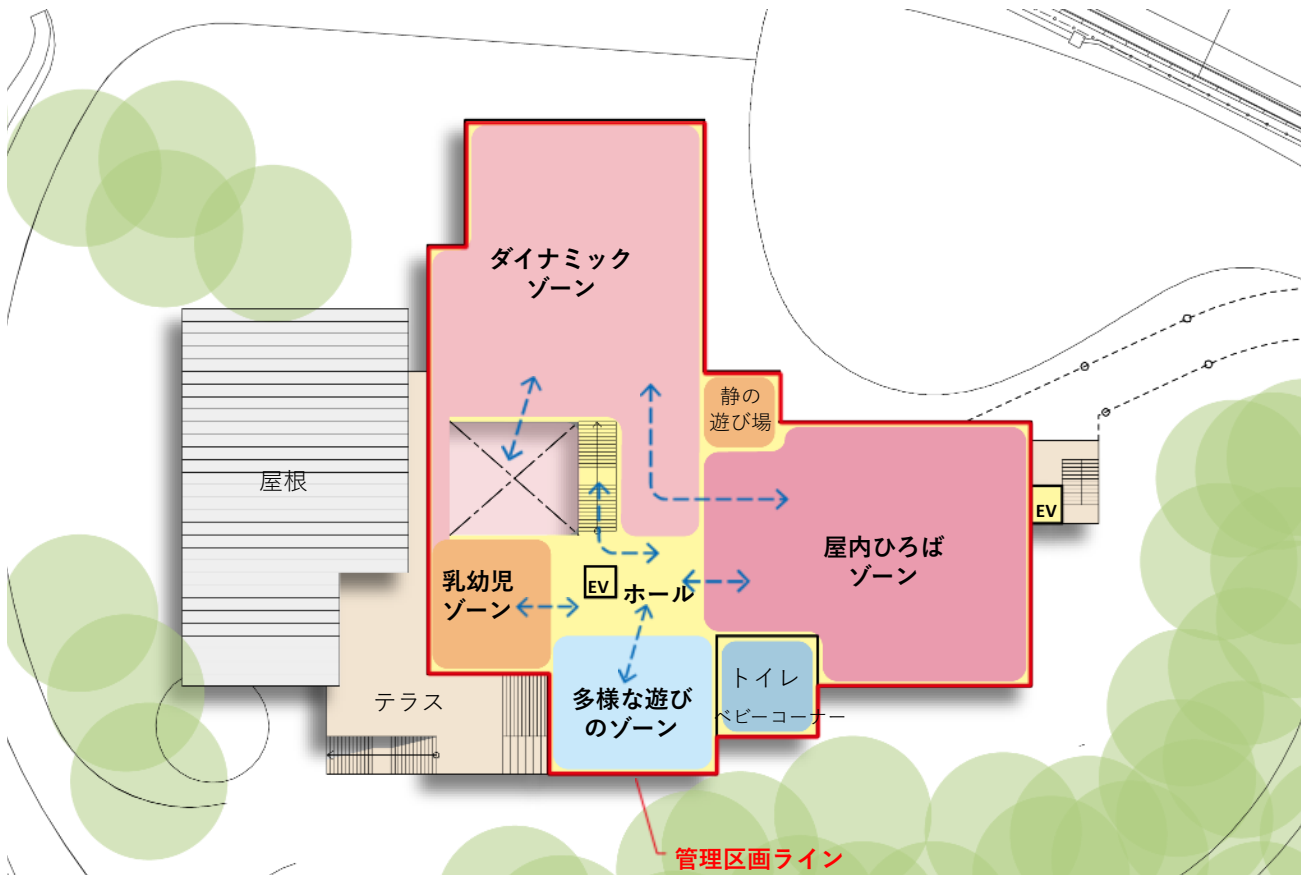
【1階】



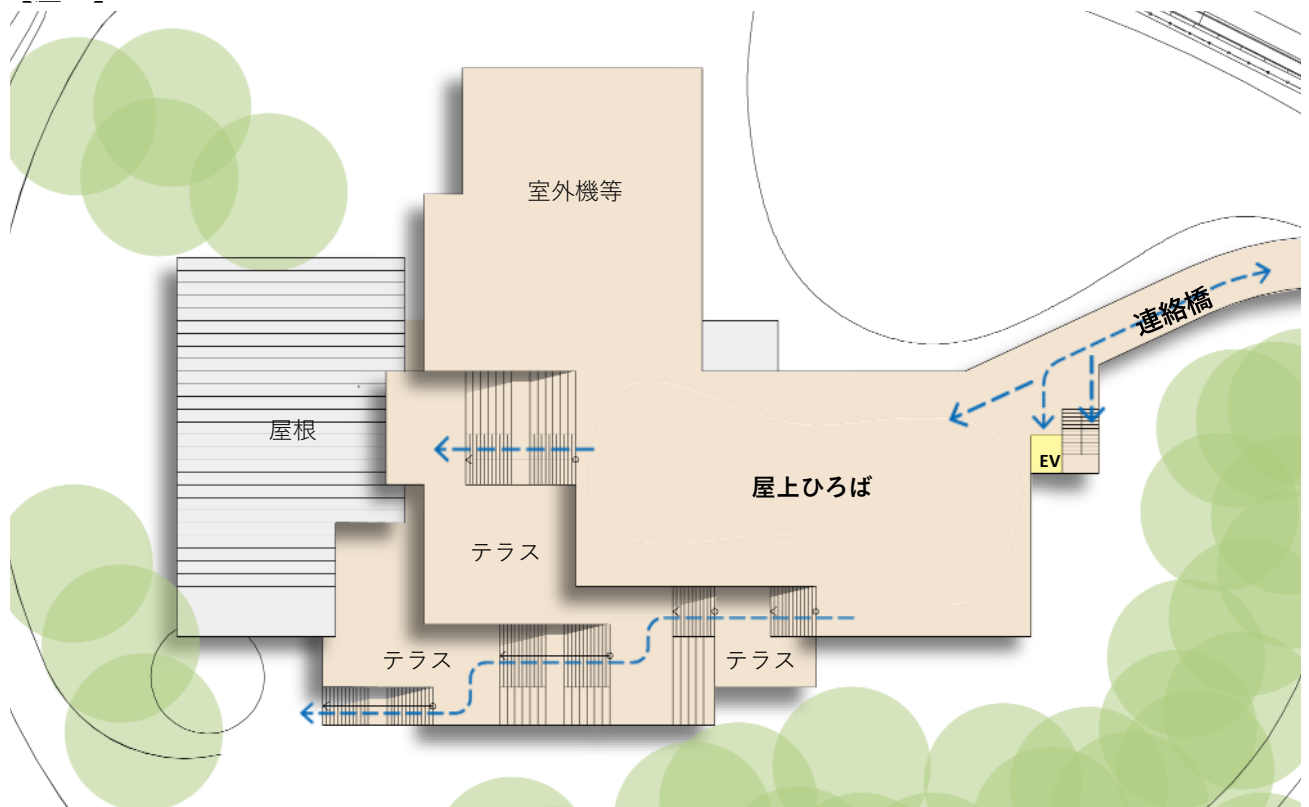
※「管理区画」(赤色の実線)…受付等の手続きを行ったうえで、利用者が入退室することができる区画

※青色の点線矢印(←---→)は、本施設利用者の施設周辺及び施設内の主な動線を表しています。

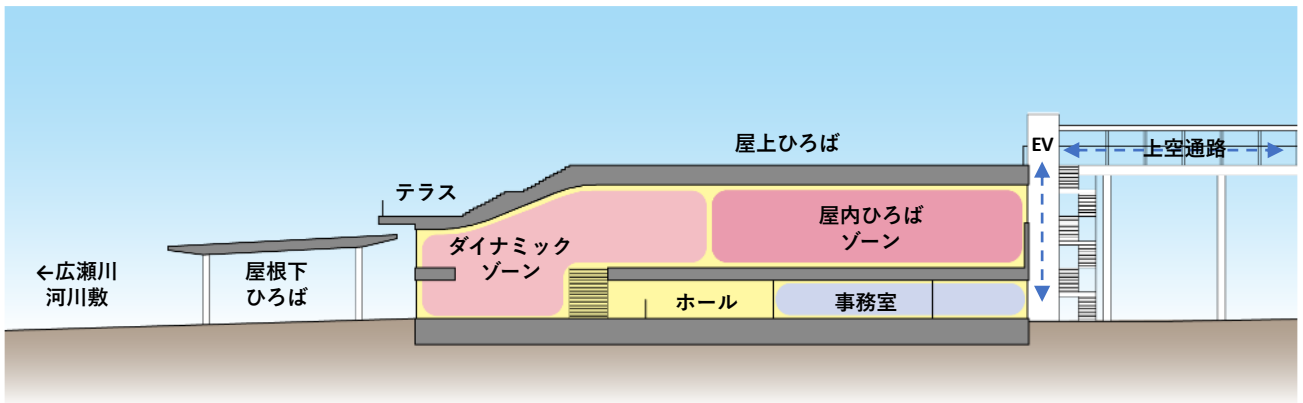
【2階】



【屋上】



【参考:断面図】

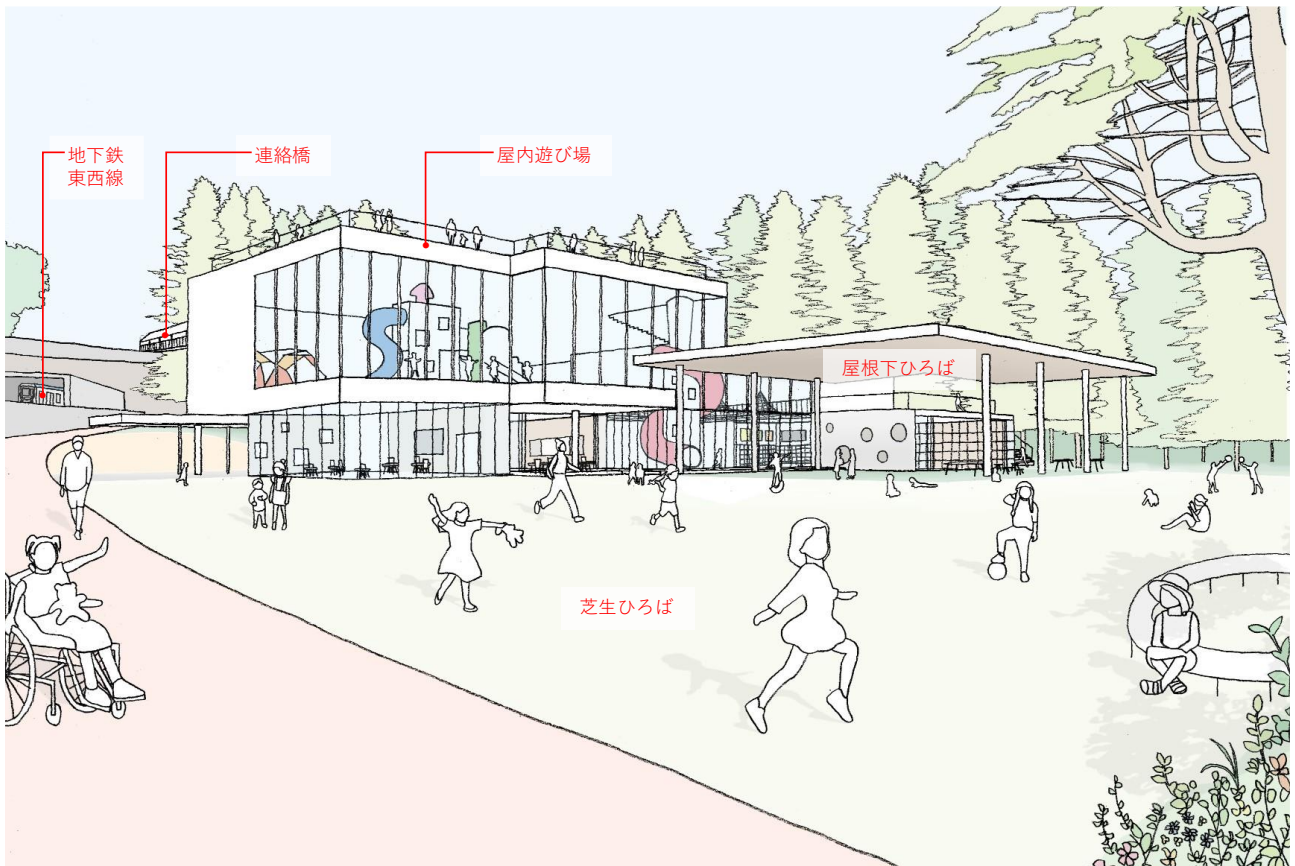


5 施設イメージイラスト(外観・内観イメージ)

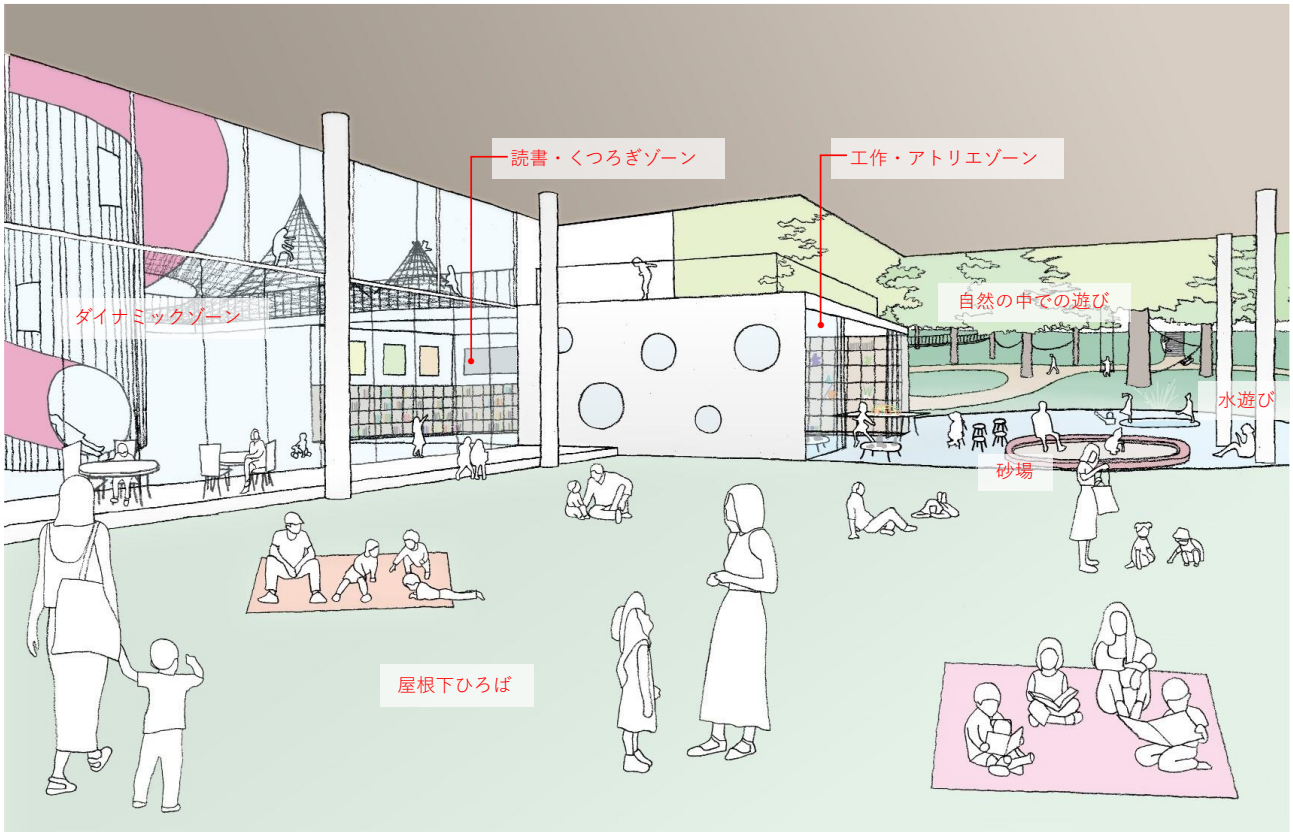
○ 本施設のイメージイラストは以下のとおりです。

※ 施設のイメージを表現したイラストであり、平面計画を正確に表現したものではなく、イラスト上の遊具や設備等についても確定したものではありません。

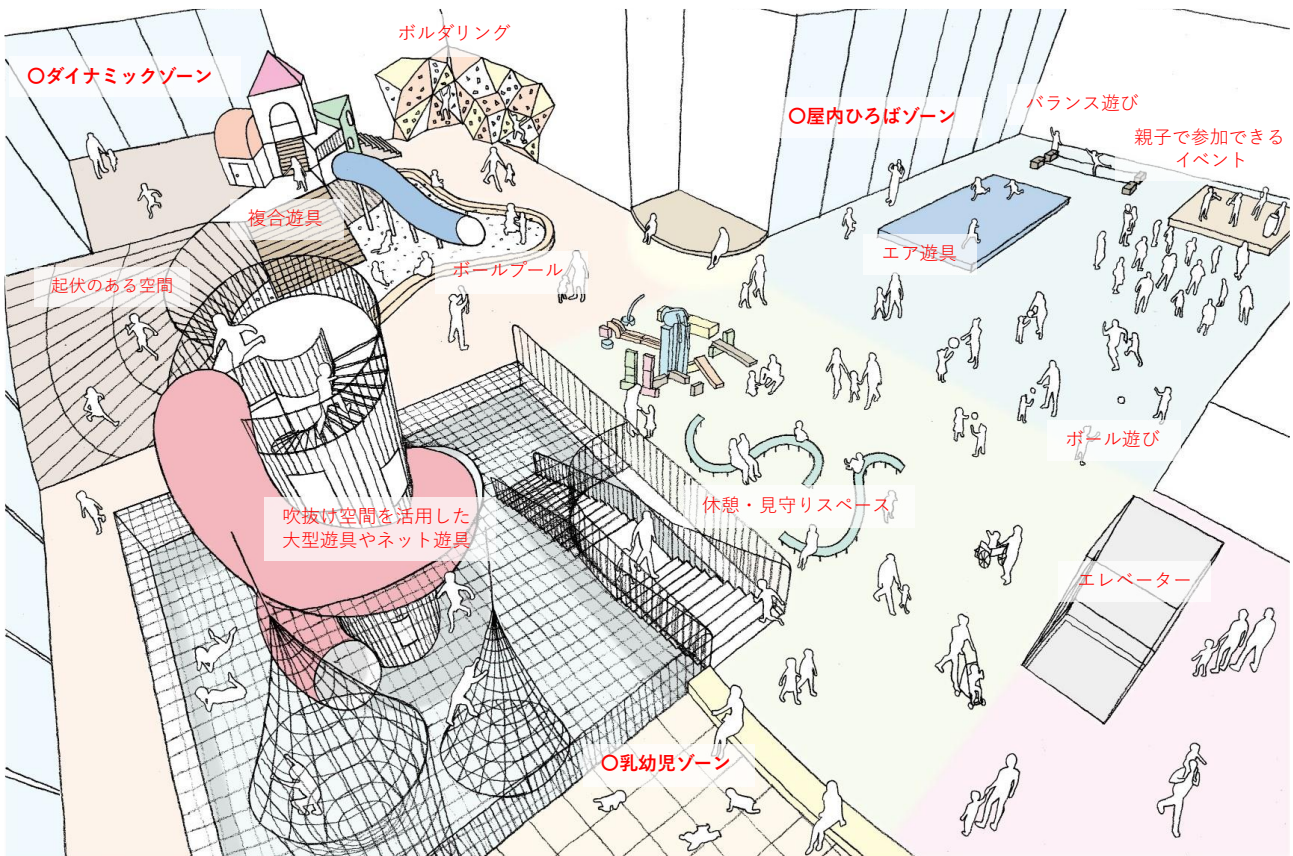
【外観のイメージイラスト】



【半屋外ゾーンのイメージイラスト】



【内観(2階)のイメージイラスト】



第7章 整備・管理運営手法

1 整備手法

- 本施設の整備手法は、以下の検討を踏まえて、「分離発注方式」を採用することとします。なお、整備手法の検討にあたっては、「仙台市 PFI 活用指針」に基づく所定の手続きを経て、決定しています。
- 整備手法については、設計と工事を別々に発注する分離発注方式に加え、設計と工事を一体的に発注する DB(デザインビルド)方式や、整備から運営まで一括して発注する PFI 方式等、幅広い選択肢が考えられますが、本施設の整備においては、以下の留意すべき事項を踏まえる必要があります。
 - ・ 本施設は、日々成長するこどものための施設であることを踏まえて、早期整備の実現性を重視します。また、早期整備の実現にあたっては、工期だけでなく、発注に要する準備期間等も考慮に入れた検討を行う必要があります。
 - ・ 本施設の計画地に係る諸要件を踏まえるほか、アクセス環境向上への対応や、施設の外構に係る整備等、関連する整備内容が多岐に及ぶことから、それぞれの専門性と品質の確保を図っていく必要があります。
 - ・ 本施設では、遊びに関する専門知識をもつスタッフの配置を想定しているほか、遊びの拠点機能や周辺施設との連携等の機能も想定することから、これらの運営面の特殊性も見据えた設備や機能が整備内容に反映される必要があります。
- 本施設については以下に掲げる理由により、施設整備と管理運営を分離して実施する事業手法(分離発注方式や DB 方式)の方が、一体的に実施する事業手法(DBO 方式や PFI 方式)に比べて優位性が高いといえます。
 - ・ 早期整備の実現を目指す場合、可能な限り早い時期から設計や工事を進めていくことが必要となりますが、管理運営を一体的に実施する事業手法の場合、発注段階において、施設整備に加えて、管理運営に関する諸条件を整理する必要があります。
 - ・ 管理運営面の諸条件の整理にあたっては、本施設の基本理念やコンセプトを実現していくために、スタッフに求められる専門性や運営範囲、各種関係機関・事業との連携など、管理運営のあり方を丁寧に検討していくことが重要であり、一定の期間を要することが想定されます。
 - ・ 施設整備と管理運営を分離して実施する事業手法の場合、施設整備と並行して管理運営面での整理を進めることや、相互に調整を図りながら検討を行うことが可能となります。
- 分離発注方式と DB 方式について、本施設整備における留意事項を踏まえた比較検討は、以下のとおりです。
 - ・ 早期整備について、設計・施工を一括して発注する DB 方式の方が、設計及び工事に要する期間を短縮できる可能性はありますが、発注時点で必要となる要求水準書の作成や予定価格の決定といった公募準備に一定の期間が必要となるため、全体の工期短縮の実現性は不確実です。
 - ・ DB 方式においては、受託事業者の技術的な工夫による建設工事期間の短縮などを期待する場合がありますが、本施設は、屋内遊び場として大空間を備える建物とするものの、特殊な構造や工法を用いることは想定していないため、この観点での大幅な工期短縮を見通すことはできません。
 - ・ 分離発注方式については、発注に要する期間が長くなる傾向はありますが、各プロセスの着手時期の前倒しを行うことにより、早期整備の実現性が高いスケジュールを見通すことができます。

- ・ 分離発注方式では、性能要件等を定めて発注するDB方式と比較して、設計・施工の各段階において発注者側の意向を反映できる点でも、運営における専門性や特殊性をもつ本施設の整備手法に適しているといえます。

【主な整備手法と概要】

発注方式		従来型 (分離発注方式)		DB方式	DBO方式	PFI方式
概要		設計、施工を分離して発注する方式 基本設計と実施設計を一括する総合設計とする場合もある		設計と施工を一括して発注する方式	設計と施工に加え、施設の維持管理も包括して発注する方式	民間事業者が資金を調達し、設計と施工のほか、管理運営も委託する方式
発注形態		仕様発注		性能発注	性能発注	性能発注
発注区分	基本設計	分離発注	包括発注	包括発注	包括発注	包括発注
	実施設計	分離発注				
	施工	分離発注				
	管理運営	分離発注				
資金調達		市		市	市	民間資金
特徴		設計内容を確定させてから、工事費を入札によって確定させるため、透明性が高いほか、第三者が工事監理することで品質を担保できる。 工事発注に要する期間が長くなる。		公募準備期間は必要となるが、民間のノウハウ活用や、資材早期発注等による工期短縮が期待できる。 設計から工事まで同じ事業者に一任するため、工事費の妥当性の検証が難しい。	(DB方式の特徴に加えて) 維持管理を見据えた整備が可能となる。 発注段階において、整備に加えて管理運営に係る公募準備が必要。	資金調達も含めた民間ノウハウの活用による効率的な整備・管理運営が期待できる。 PFIの導入可能性調査に要する期間を考慮した早期整備の実現性の検討が必要。

2 早期整備の実現に向けた取組

- 「分離発注方式」による整備を行ううえで、可能な限り早期整備の実現を目指す観点から、以下の取組を行います。
 - ・ 設計の着手時期前倒しの取組として、基本計画策定から速やかに設計段階へ移行できるよう、準備を進めます。具体的には、設計業務委託事業者の選定・契約までを令和7年度内に行うことで、設計の着手時期の前倒しを行います。
 - ・ 設計の後、入札公告から工事請負契約までのスケジュールの整理を行い、工事契約までの契約準備期間の短縮を図ります。
 - ・ 設計や工事等の各工程に要する期間についても、設計業務委託事業者の選定段階において、工期の短縮に向けた提案を求めるなどの工夫を行います。
- 上記の取組にあたっては、本基本計画で定める内容が確実に反映されるよう、各プロセスにおける必要期間の確保や品質の担保に十分考慮しながら進めていきます。

3 整備期間

- 施設整備においては、設計や工事等に加えて、発注や契約等の所要の手続きに要する期間も踏まえたうえで、全体の整備期間を検討する必要があります。
- 本施設の整備期間については、前項に掲げる早期整備の実現に向けた取組を行い、令和11年中(年内)の開館を目指します。
- 開館までの施設整備スケジュールは下記のとおりです。

【施設整備スケジュール】

区分	令和7年度 (2025年度)	令和8年度 (2026年度)	令和9年度 (2027年度)	令和10年度 (2028年度)	令和11年度 (2029年度)
基本計画	基本計画				
用地		地盤調査 文化財調査(現場調査)			
設計	契約準備	総合設計 (基本設計+実施設計)			
工事		契約準備	建築・内装(遊具等)工事	外構工事	
開館準備					開館準備

※時期の目安として、実線は年度当初(年度末)、点線は年度途中を示しています。

4 概算事業費と財源

(1)概算事業費

- 施設本体の建築工事費については、現時点における簡易的な手法として、近年整備・契約された類似施設の実績等を参考に、本施設規模(延床面積 3,700 m²)を踏まえ試算した結果、35億円程度を見込みます。
 - 建築工事費以外の関連経費としては、設計及び工事監理、建物周辺の環境整備、遊具・備品の調達、アクセス環境の向上への対応、文化財調査等に要する費用があり、これらは合計で最大 30 億円程度と見込みます。なお、各経費の詳細については、令和 7 年度に実施する文化財確認調査や、今後の設計の結果を踏まえて、精査を行います。
- ※ 上記の建築工事費や関連経費は、本基本計画策定段階のものであり、将来的な物価上昇の見込みなどは反映しておりません。

(2)財源

- 財源については、国の交付金等の確保を目指すとともに、地方財政措置制度のある地方債を活用するなど、実質的な本市の財政負担の軽減が図られるよう努めていきます。
- 仙台ふるさと応援寄附・企業版ふるさと納税による資金の調達など、本市独自の財源確保の方策についても検討していきます。

5 管理運営手法

(1)基本的な考え方

- 本施設の基本理念やコンセプト、基本的な機能を実現するためには、施設のハード面だけでなく、管理運営面での魅力の創出・向上という観点が必要となります。
- 本施設の管理運営において求められる基本的な考え方を以下にまとめます。

①多様な遊びや体験を創出し、こどもの育ちを支える管理運営

- 本施設で想定する各種遊びの機能を効果的に高めていくためには、施設を運営するスタッフが専門性を発揮しながら、こどもたちが安心して遊べる環境をつくり、こどもの自由で自発的な遊びの広がりを促進していく観点が重要となります。
- 本施設だけでなく、屋外遊具ゾーンや周辺の自然環境を活用することで屋内と屋外の連続性を実現していくほか、西公園南側区域下段エリア全体をこどもにとって魅力的なものとしていきます。
- 本市が取り組む遊びの環境の充実に向けて、本施設が、遊びの拠点機能として、市内の児童館やプレーパーク活動団体、子育て支援団体等と連携しながら、各種団体の活動の支援・促進を目指していきます。

②多様な人を受け入れる管理運営

- 年齢や障害の有無に関わらず、あらゆるこどもたちが遊ぶことのできる施設を実現するうえでは、整備内容だけでなく、管理運営においてもインクルーシブな取組を行っていくことが重要となります。

- 多様性の理解や、利用者の個別事情に応じた柔軟な対応など、施設利用者の安心感や信頼感につながる管理運営を目指していきます。
- 他地方公共団体の類似施設でも見られるような、障害のあることもが優先的に利用できる仕組みの導入や、障害の有無に関わらず参加できるイベントの開催などについても検討していきます。

③多様な人が関わり、賑わいを創出する管理運営

- こどもや子育て家庭の方だけでなく、多様な人たちが訪れる施設としていくためには、運営においても、様々な立場や専門性をもつ方や団体の参画が重要となります。
- 青葉山エリア全体の賑わいの創出や回遊性の向上につながるよう、周辺施設や周辺地域のまちづくりと連携した取組についても検討していきます。
- 他地方公共団体の類似施設において行われている、運営協議会の設置や市民ボランティア制度の導入といった取組も参考としながら、多様な視点が反映される管理運営を目指していきます。

(2)管理運営手法

- 第7章1の整備手法で示したとおり、施設整備と管理運営は分離して発注することとします。
- 管理運営を分離発注とする場合、上記の基本的な考え方を実現していくためには、民間事業者の専門的なノウハウを生かす視点をもって検討していくことが重要であり、現時点においては、指定管理者制度を導入することを想定します。
- 指定管理者制度の導入により、効率的・効果的な管理運営の実現も期待することができます。
- 指定管理者制度により管理運営する範囲については、屋内と屋外を一体的に活用することにより本施設の魅力向上を図る観点から、施設周辺の遊具ゾーンやアーバンスポーツ広場などを含めて管理運営することを基本として、管理運営体制の整理と合わせて検討していきます。

(3)「管理運営計画」の策定

- 今後、本基本計画を基に進める設計と合わせて、管理運営に関する具体的な内容を定める「管理運営計画」を策定します。
- 「管理運営計画」では、本基本計画で定めた内容を基に、本施設の管理運営の方向性を改めて整理するとともに、本施設で実施する各種事業や、管理運営・事業実施に必要な運営組織体制といった内容についても検討していきます。
- 設計と並行して管理運営について検討を進める中で、それぞれの検討状況を相互に調整することにより、魅力的な施設となることを目指していきます。
- 次章の利用情報についても、管理運営の内容と密接に関連することから、詳細は「管理運営計画」の策定において検討していくこととします。

第8章 利用情報

- 現時点で想定される、開館日や定員等の利用情報(※)は以下のとおりです。
- ※ 受付等の手続きを行ったうえで、利用者が入退室することができる区画(1階のダイナミックゾーンと2階フロア全体を想定。以下、「管理区画」という。)に関する利用情報。
- 利用情報の詳細については、第7章5の管理運営手法で示したとおり、「管理運営計画」において管理運営のあり方と合わせて、検討していくこととします。
- 管理区画以外のエリアに関する利用情報についても、「管理運営計画」において今後整理していきます。

1 開館日・開館時間の想定

- 開館日や開館時間については、保護者向けのアンケートによる子育て世帯の利用意向や、運営に要する費用、他地方公共団体の類似施設への調査の結果などを踏まえて、今後も検討を進めていきます。
- 現時点で想定する、本市の標準的な社会教育施設や他地方公共団体の類似施設の運営状況等を踏まえた開館日・開館時間のイメージは下記のとおりです。

【開館日・開館時間のイメージ】

開館日	・平日において2週間に1回程度の休館日を設ける。 ・夏休み等の長期休み時の開館については、今後検討していく。
開館時間	・9:00～18:00の開館時間を基本とする。

2 定員・年間の来場者数などの想定

(1) 基本的事項

- 保護者向けアンケートの結果や、他地方公共団体の類似施設の状況等を踏まえると、土曜日や日曜日、祝日等には、多くの方の来場が想定されます。
- 屋内で安全かつ快適に遊べる環境を保つために、施設利用者に定員を設定することを想定します。
- 混雑が想定される日については、施設利用のための事前予約制の導入を想定します。

(2) 定員数

- ここでの「定員数」は、こどもの保護者等を含めた管理区画内の利用者人数を想定します。
- 管理区画内における遊びのエリアの延床面積合計は 1,650 m²となっており、他地方公共団体の類似施設の調査結果等を参考にすると、定員数は400人を想定します。
- 定員数のうち、こどもと保護者の利用率については、他地方公共団体の類似施設の調査結果等を踏まえると、概ね1対1程度になると想定されます。

(3)年間の来場者数のイメージ

○ 本章の1及び2で整理した利用情報等に基づき、仮に年間の来場者数を試算すると以下のようになります。

【年間想定来場者数】

	定員数 (A)	利用率 (B)	クール(入替) 数/日(C)	利用人数(D) (A)×(B)×(C)	日数/年 (E)	利用人数 (D)×(E)
平日	400人	20%	5回	400人	210日	84,000人
土曜日・日曜日・祝日	400人	80%	5回	1,600人	119日	190,400人
(参考)休館日	—	—	—	—	36日	—
合計					365日	274,400人

※利用率や一日あたりのクール数については、他地方公共団体の類似施設の調査結果等を参考に設定しています。

3 利用料金

- 利用料金のあり方については、保護者向けのアンケートの意見などを踏まえるとともに、魅力的な施設として持続可能な運営を図る視点や、子育て家庭の方が利用しやすい環境を整える視点なども踏まえながら、引き続き「管理運営計画」において検討を行っていきます。
- 他地方公共団体の類似施設においても、利用料金の設定は様々であり、一部の類似施設においては、市内在住者に対して割引料金を適用するなど、市民の優先的な利用を図る料金設定が見られます。

【他地方公共団体の類似事例調査施設の利用料金の状況】

No.	施設名	地方公共団体名	利用料金	市内・市外別の料金設定
1	copal(コパル)	山形県山形市	無料	—
2	くるんと	山形県長井市	無料	—
3	けやきホール (さくらんぼタントクルセンター)	山形県東根市	無料	—
4	ペップキッズこおりやま	福島県郡山市	無料	—
5	キッズピアあしかが	栃木県足利市	有料	あり(市内在住者は割引)
6	ASOBooN(アソブーン)	埼玉県川口市	有料	—
7	ASOBono!(アソポーノ)	東京都文京区	有料	—
8	シリウス屋内こども広場	神奈川県大和市	有料	あり(市内在住者は割引)
9	ハレラテつばめ	新潟県燕市	有料	あり(市内在住者は無料)
10	かがにこにこパーク	石川県加賀市	有料	あり(市内在住者は無料)
11	カブッキーランドすくすくひろば	石川県小松市	有料	あり(市内在住者は割引)
12	遊び創造 labo(ラボ)	岐阜県各務原市	有料	—
13	ぐりんぐりん	愛知県春日井市	有料	—
14	プレイヴィル安満遺跡公園	大阪府高槻市	有料	—

※施設のHP等の公表情報(令和8年3月現在)より記載しています。また、上記施設は、公設公営のほか、公設民営、民設民営といった様々な整備・管理運営の形態があり、利用料金を設定する前提も異なります。

第9章 アクセス環境

1 基本的事項

(1) 来館手段の想定

- 個人利用における本施設への来館手段については、以下の状況を踏まえて、多い順に自家用車、地下鉄、その他(徒歩、自転車、バス等)と想定します。
 - ・ 保護者向けアンケートの、来館する際の移動手段についての質問(選択式・複数回答可)において、76%の方が「自家用車」を選択(全選択回答数に占める割合は約5割)していること。
 - ・ 子育て家庭の外出時の移動手段の実態からみても、ベビーカーやおむつ、着替えなどの持ち物が多く、自家用車が選ばれる傾向にあること。
 - ・ 本市の子育て施設や社会教育施設への移動手段の実態を踏まえると、附属駐車場を備えていない施設を除き、自家用車による来館が最も多いこと。
- 幼稚園や保育園などの団体利用については、バスでの来館を想定します。

(2) アクセス環境の整備方針

- 公園内に整備予定の駐車場利用を想定する一方、計画地が地下鉄東西線大町西公園駅から徒歩圏内にあるという利点を最大限に生かすとともに、駐車場の整備に係る土地利用上の制約等を踏まえ、地下鉄利用を促進する手法を前提として、動線計画を整理していきます。
- 本施設の利用者や公園利用者の安全な動線の確保を最優先としながら、管理用車両等の動線についても検討していきます。

2 主な来館手段に対するアクセス環境の整備の想定

(1) 地下鉄大町西公園駅からの歩行者のアクセス環境

- 駅から施設までの歩行者の動線について、西公園上段から本施設に接続する連絡橋を設置することによって、バリアフリー化を図るとともに、本施設に向かうこどもの期待感を高める視点も持ちながら、高低差に対応したアクセス環境の向上を図ります。
- 連絡橋の設置により、アクセス経路がバリアフリー化されるほか、歩行者と団体利用者等の車両動線との分離が図られることによる安全確保にもつながります。
- 地下鉄利用をさらに促進する具体的な取組については、今後、「管理運営計画」の策定と合わせて検討を進めていきます。

(2) 車のアクセス環境

- 計画地の北側では、西公園再整備事業において、平面駐車場(普通自動車約65台を想定)を整備することとしていますが、本施設の整備に伴い、来館者が多くなることが想定される週末などには、駐車台数の不足が見込まれるため、駐車場の立体化を行います。

- 保護者向けアンケートの結果や施設規模、類似施設の状況等を踏まえ、駐車台数は200台程度が必要になることを想定しています。
- 今後、駐車台数の精査を行うとともに、立体駐車場の整備に係る法的な制約条件等への対応と周辺の自然景観や交通環境への影響も考慮しながら、必要な駐車台数の確保に向けて、検討していきます。
- 混雑が予想される日における、来館者の集中を緩和する運営上の工夫のほか、混雑予想や近隣駐車場の情報案内といった取組については、「管理運営計画」の策定と合わせて検討していきます。

(3) 団体利用者(バス)のアクセス環境

- 団体利用におけるバスへの対応については、複数台のバスが円滑に本施設にアクセスできて、バスからこどもたちが安全に乗降できる環境として、本施設の出入口前の空間を活用することとします。
- 南側の市道青葉山線から公園内に進入したバスは、本施設の出入口前の空間で乗客が乗降した後、転回し、市道青葉山線へ退出する想定とします。
- バスと公園内を利用する歩行者の動線の分離を図るほか、バスが進入(退出)する際には誘導員を配置するなど、安全管理に十分に配慮して、それぞれの動線を確保するよう検討していきます。

3 その他のアクセス整備における考慮事項

(1) 施設隣接の駐車区画

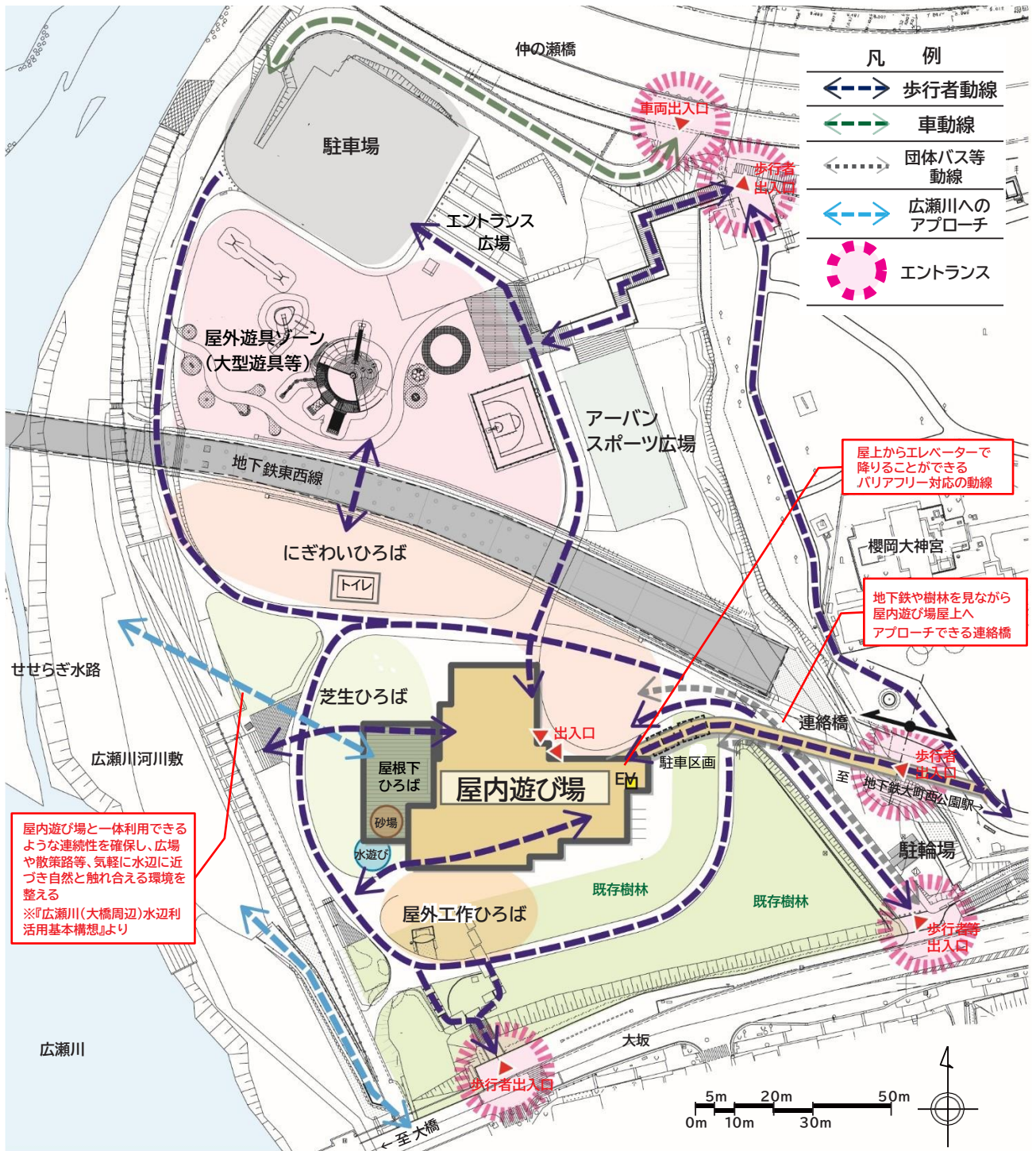
- 計画地の空間的制約の関係により、本施設に隣接する位置に一般利用駐車場を整備することは難しいことから、施設に隣接する駐車区画は、障害のあるこどもや保護者のほか、施設の管理上必要となる利用等のために整備することとします。
- このうち、障害のあるこどもや保護者の利用が想定される区画については、施設出入口までの動線に屋根や庇(ひさし)をかけるなど、雨天時でも支障なく移動できるよう考慮します。

(2) 駐輪場

- 近隣にお住いの子育て家庭等については、自転車等による来館も想定されます。
- 保護者向けのアンケート結果に加えて、安全性の確保の視点も持ちながら、適切な台数の駐輪場を整備していきます。

4 動線計画

○ 本施設への歩行者や車等の各動線をまとめた動線計画は以下のとおりです。



【巻末】 参考資料

◆ 資料1 「仙台市遊びの環境の充実に向けた取組方針(令和7年3月策定)」より

● 大型の屋内遊び場の整備についての考え方

- ・ こどもの遊びを取り巻く環境の変化に対応し、遊び場に対する子育て家庭の多様なニーズに応えることは、こどもの健やかな成長を支えるとともに、「子育てが楽しいまち・仙台」の実現を図る上でも重要であることから、大型の屋内遊び場についても整備が必要である。
- ・ 本市においては、児童館やのびすくなど、屋内で遊ぶことのできる施設を多く整備しているほか、多様な社会教育施設など、屋内におけるこどもの体験活動につながる施設も多い。加えて、本市からアクセス可能な近隣の自治体においては、様々な大型の屋内遊び場の整備が行われている状況もある。そのため、本市において大型の屋内遊び場の整備に取り組む上では、こうした施設との役割の違いなども考慮しながら、都市個性や都市の魅力を生かした、仙台らしい取組としていくことが重要となる。

● 施設の目指す姿

- ・ 仙台市の魅力である豊かな自然を活用した遊びなど、屋外の遊びと連続性をもった遊びが可能となる施設を目指す。
- ・ こどもの育ちの観点から、遊びを通じて多様な体験の創出や学びにつながる施設を目指す。
- ・ 本市の遊び場を象徴し、市全域からの利用を見込む施設を目指す。
- ・ 社会全体でこども・子育てを応援する気運を醸成するために、子育て家庭に限らず、多様な人が訪れる機会の創出につながる施設を目指す。
- ・ 公共交通機関によるアクセスの利便性が高いことに加え、車で移動する子育て家庭も多いと見込まれることから、一定規模の駐車場を備えた施設を目指す。
- ・ 施設の整備にあたっては、市民の様々な声を参考にしながら、多くの子どもたちが楽しめる施設を目指す。

● 施設整備候補地の選定

- ・ 前述した施設の目指す姿を踏まえ、候補地の主な要件を整理すると、以下のとおりとなる。
- ・ 大型の屋内遊び場が設置可能な広さがあること
- ・ 市全域からの利用が見込まれ、地下鉄の駅に近いなど公共交通の利便性が高い必要があるため市中心部であること
- ・ 自然を活用した屋外の遊びと連続性をもった施設にできること
- ・ これらの要件を満たす場所について検討を行った結果、西公園南側区域の多目的広場が候補地として最も適すると判断した。

◆ 資料2 他地方公共団体の類似事例の調査結果

本基本計画の策定にあたり、他の地方公共団体等が設置・整備を行った屋内遊び場等の類似施設に対して、アンケート及び施設訪問による調査を実施しました。

本調査により把握した屋内遊び場の特性や傾向について、具体的な事例を含めたまとめは以下のとおりです。

(1) 様々な子どもたちが遊ぶことができる環境づくり

- ・ 訪問調査を行った全ての施設で、乳幼児を対象としたエリアが他のエリアと分けられており、乳幼児と児童それぞれが、安心して安全に遊ぶことのできる環境づくりが行われていました。



- ・ 「copal(コパル)」(山形県山形市)の屋外区画では、車椅子のまま乗れるブランコや上半身をハーネスで固定して使用できるブランコ等のインクルーシブ対応遊具が設置されていました。
- ・ 同施設では、緩やかなスロープを施設内に設置することで1階フロアから2階フロアまで車椅子のままでも移動できるよう整備されていました。また、トンネル状の遊具は、遊びの機能をもちつつ、子どもが落ち着ける場所としても使える工夫が行われていました。



- ・ 「プレイヴィル安満遺跡公園」(大阪府高槻市)では、人数や年齢に関わらず場内を貸切利用できるプランを設け、幼稚園や保育園の遠足利用や障害児支援事業者の団体利用の受入れを実施していました。
- ・ 「ハレラテつばめ」(新潟県燕市)や「遊び創造 labo(ラボ)」(岐阜県各務原市)等の施設では、気持ちを落ち着かせるカームダウンスペースが設けられており、感情の切り替えや安心できる時間を過ごすための環境づくりが行われていました。
- ・ 「ASOBooN(アソブーン)」(埼玉県川口市)では、屋外までのフラットな主動線が確保されていました。



ASOBooN



ASOBooN

- ・ こどもにもわかりやすいよう、文字やピクトグラム工夫、視認性に配慮したサイン配置等の取組が各施設で行われていました。

【一目で靴を脱ぐことがわかるマーク】

【用途がわかりやすいピクトグラムによる案内】



プレイヴィル安満遺跡公園



くるんと

- ・ 【館内の大まかな案内表示がされた掲示物】

【配色で段差が視認しやすい階段】



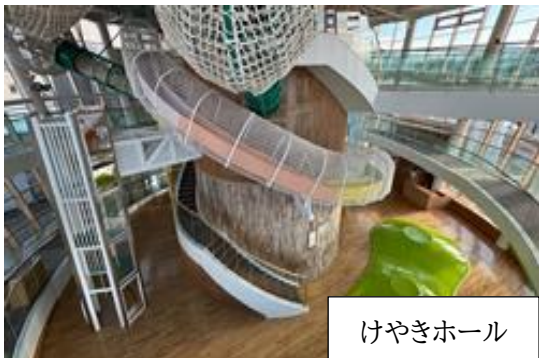
ASOBooN



copal

(2)立体的な遊びの空間づくり

- ・ ネットやデッキ、螺旋階段などを組み合わせ、遊びの空間を立体的に整備することで、空間を有効に活用する施設が見られました。



- ・ 「ASOBooN(アソブーン)」(埼玉県川口市)や「くるんと」(山形県長井市)等では、対象年齢を考慮した複合遊具が設置されており、遊びながら、登る、ぶら下がる、滑る、渡るといった多様な動きを引き出すよう設計されていました。



(3)保護者や同伴者の利用を考慮した施設整備

- ・ 多くの施設でおむつ交換台や授乳室等の設備が整備されており、子育て家庭等の利用者が安心して快適に過ごすことができる環境が確保されていました。
- ・ 外遊び空間が整備されている施設では、手洗い場やシャワー室、着替え室等が設けられるなど、利用者の衛生面や快適性に配慮された環境が整備されていました。



- ・ 性別を問わず利用することができるおむつ交換台や調乳用給湯器のほか、大人と幼児用の便器が横並びに設置された親子トイレやバリアフリートイレなどが整備され、利用者の多様なニーズに配慮された施設環境が確認できました。



- ・ ベビーカー置き場やロッカーを整備するなど、多くの施設で子育て家庭等が安心して利用できる工夫が行われていました。



プレイヴィル安満遺跡公園



copal

- ・ 見通しに配慮した空間やベンチを配置するなど、保護者が子どもを見守りやすい環境づくりが行われていました。



遊び創造 labo



プレイヴィル安満遺跡公園

(4)遊び場を通じた賑わいづくり・まちづくり

- ・ 公園内に設置された施設の多くでは、遊び場利用者以外の様々な人が訪れることのできる環境づくりが行われていました。



「遊び創造 labo(ラボ)」(岐阜県各務原市)には、外から直接利用できる飲食店があり、公園を訪れた人等が広く施設を利用することができるように工夫されていました。



「プレイヴィル安満遺跡公園」(大阪府高槻市)は、公園のパークセンター内に整備されており、パークセンターには誰もが自由に利用できる交流スペースとして、テーブルと椅子が設置されていました。交流スペースでは、公園を訪れた人が休憩をとったり、中高生が宿題をしたりといった様子が見られました。



同パークセンターの目の前には大屋根の広場が整備されており、天候の悪い日や日差しの強い日でも比較的過ごしやすく、休憩で利用する人が見られたほか、様々な催しやワークショップの会場としても活用されていました。



「ASOBooN(アソブーン)」(埼玉県川口市)は、イイナパーク川口(赤山歴史自然公園)川口ハイウェイオアシス内に整備されており、隣接する商業棟ではレストランカフェや売店があることで、滞在して楽しむことのできる機能を有していました。

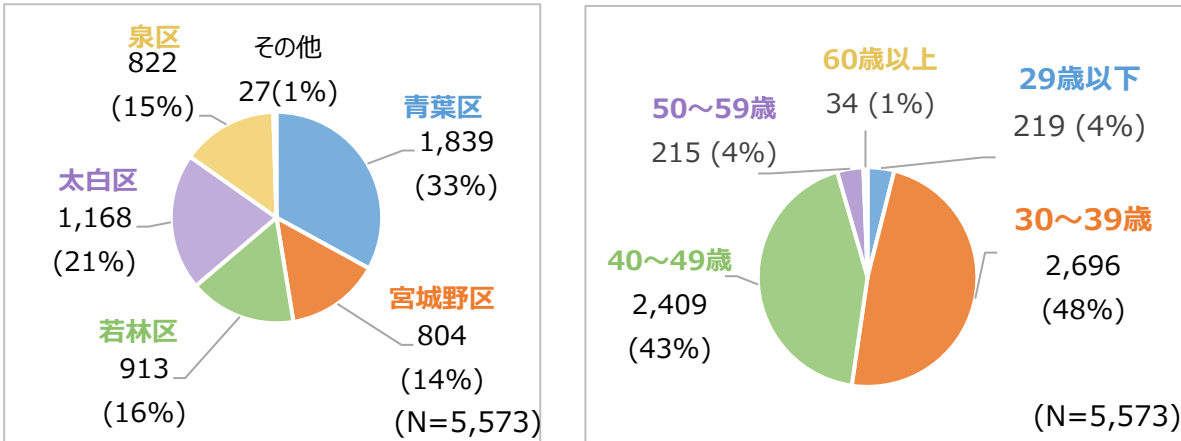
また、公園内には遊具や芝生広場も整備されており、屋内だけでなく、屋外でも過ごすことのできる工夫が行われていました。

◆ 資料3 保護者等へのアンケート調査結果

本基本計画の策定にあたり、市内に住む小学生以下のこどもの保護者等を対象として実施したウェブアンケートの結果は以下のとおりです。

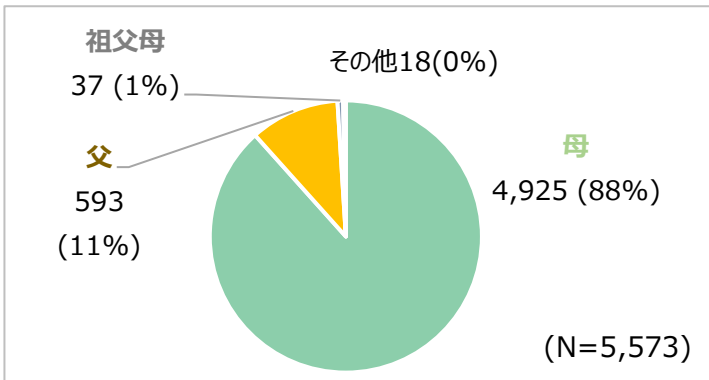
(1)回答者の属性

● 居住地・年代



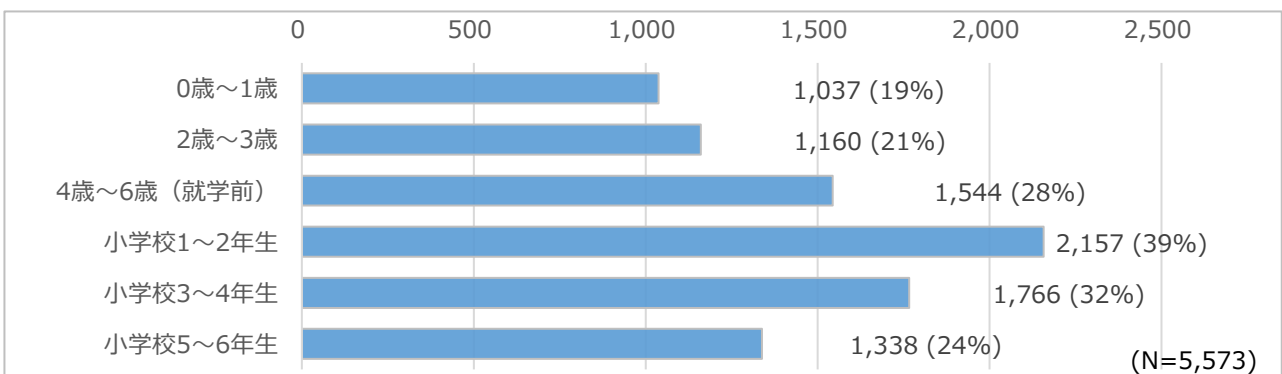
- 居住地については、青葉区が最も多い 1,839 件(全体の 33%)となったほか、市全域から幅広く回答が寄せられました。
- 年代については、30 歳代と 40 歳代の回答が全体の約 9 割を占める結果となりました。

● こどもとの関係

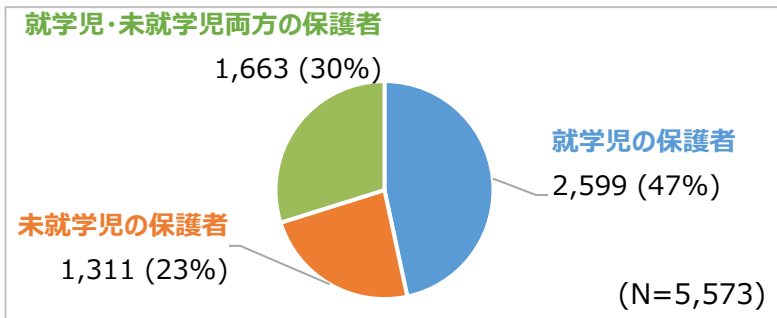


- 母親からの回答が全体の 88%を占めたほか、父親からの回答も件数で見ると約 600 件集まりました。

● こどもの年齢(複数回答可)

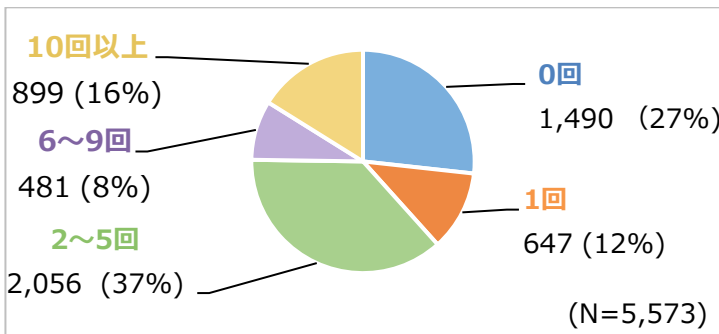


- 「小学校 1～2 年生」の回答が最も多くなりましたが、特定の年齢に偏ることなく、幅広い年齢のこどもの保護者から回答が寄せられました。



- 回答者を、「就学児(小学校 1～6 年生のみ選択)の保護者」、「未就学児(0 歳～6 歳(就学前)のみ選択)の保護者」、「就学児・未就学児両方(小学校 1～6 年生と 0 歳～6 歳(就学前)のいずれも選択)の保護者」に分類すると、上記の結果になりました。

● 屋内遊び場の直近 1 年間の利用状況

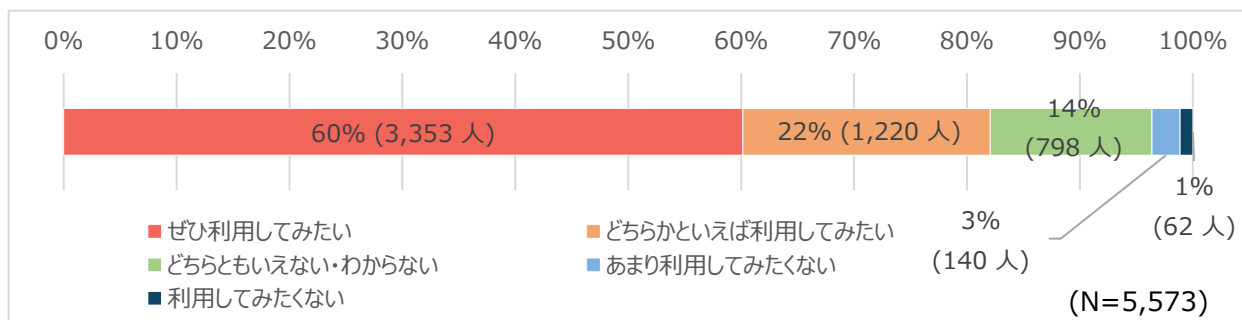


- 直近 1 年間の自治体(仙台市外や宮城県外を含む)が設置している屋内遊び場の利用状況について、「2～5 回」という回答が最も多くなりました。
- 「0回」という回答が 1,490 件と、全体の約 1/4 を占めました。

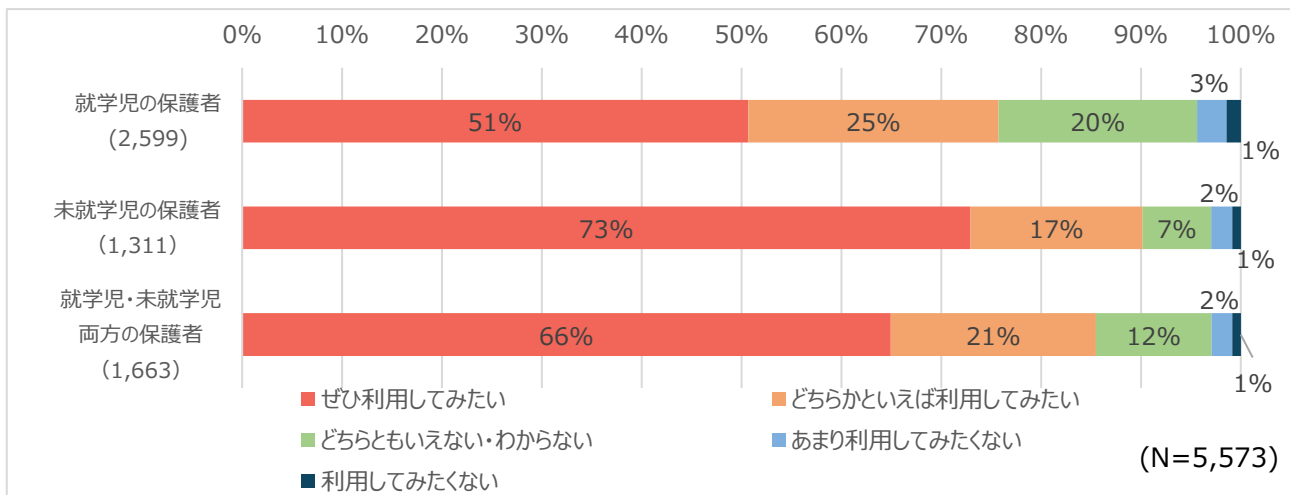
(2)利用意向・ニーズ

※ 本項目では、全体結果に加えて、保護者の属性を「就学児(小学校 1～6 年生のみ)の保護者」、「未就学児(0 歳～6 歳(就学前)のみ)の保護者」、「就学児・未就学児両方の保護者」に分類した結果等についても、まとめています。

● 本施設の利用意向

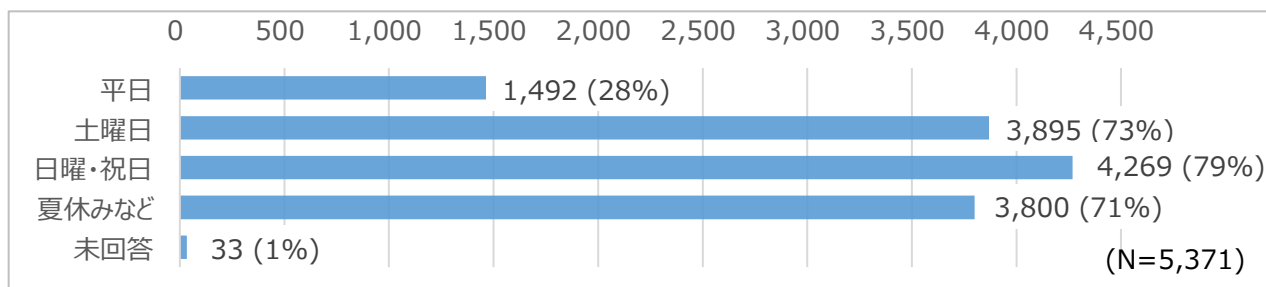


- 「ぜひ利用してみたい」、「どちらかといえば利用してみたい」という回答が全体の 8 割を上回りました。

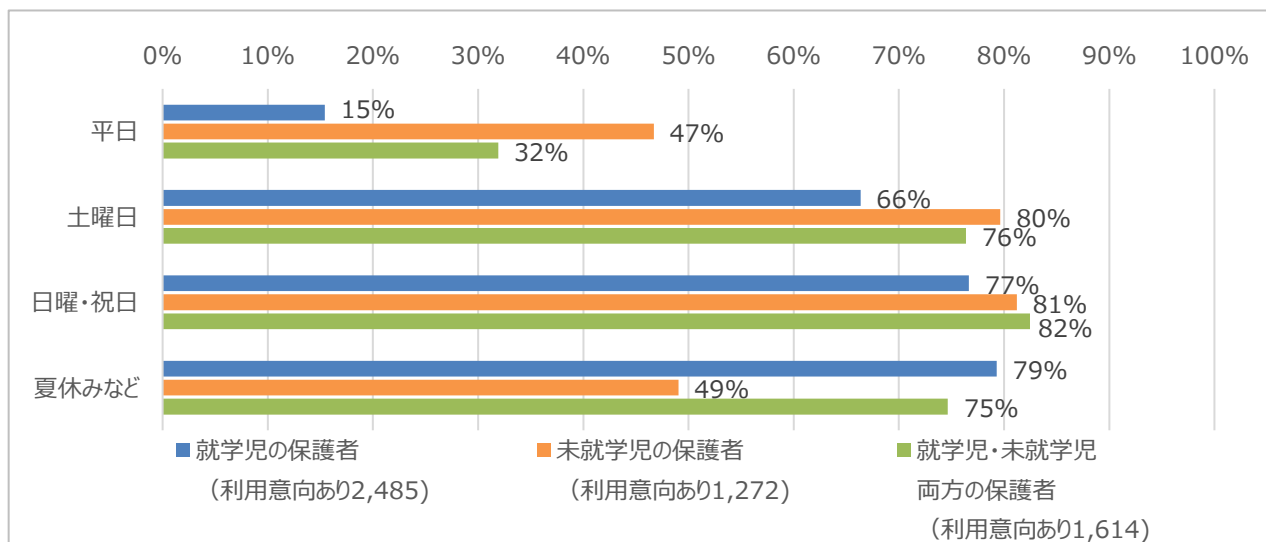


○ 保護者の属性別で見ると、「未就学児の保護者」が特に高い利用意向を示す結果となりました。

● 本施設の利用したい時期(複数回答可)

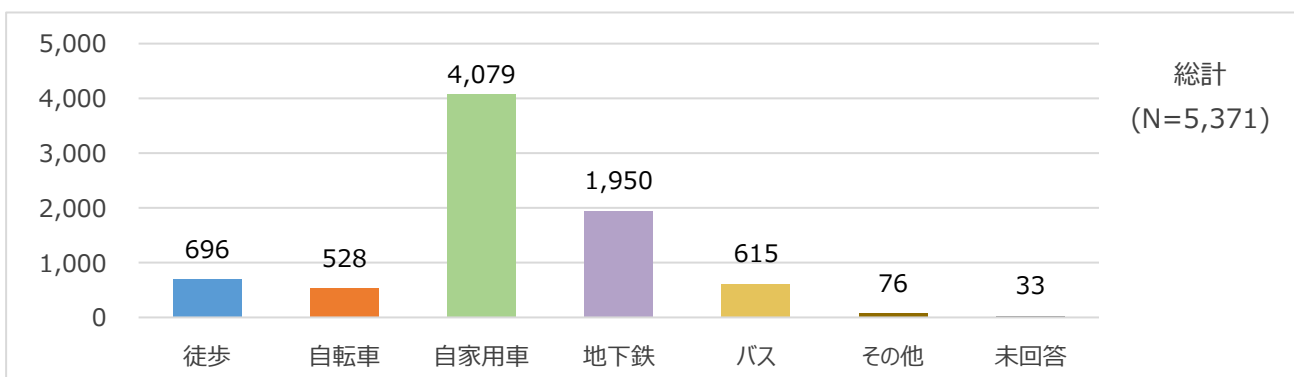


○ こどもの休みに合わせた利用意向が多かった一方で、平日の利用意向も 28%となりました。

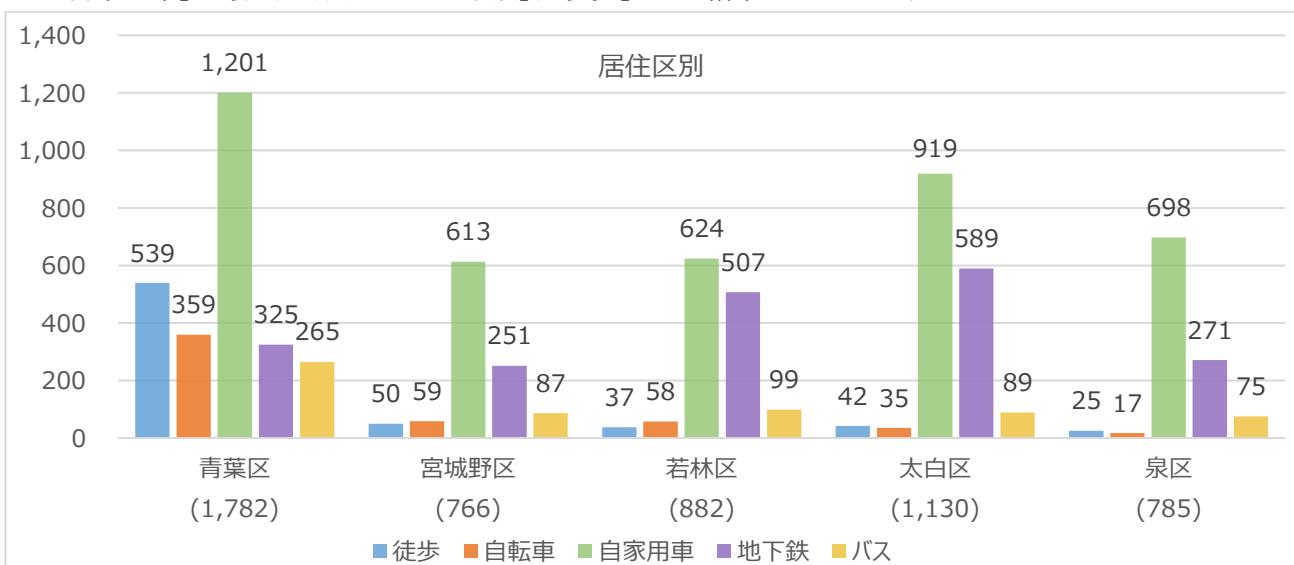


○ 保護者の属性別で見ると、「未就学児の保護者」の平日の利用意向が比較的高い一方、夏休み等については、「就学児の保護者」や「就学児・未就学児両方の保護者」の利用意向が比較的高い結果となりました。

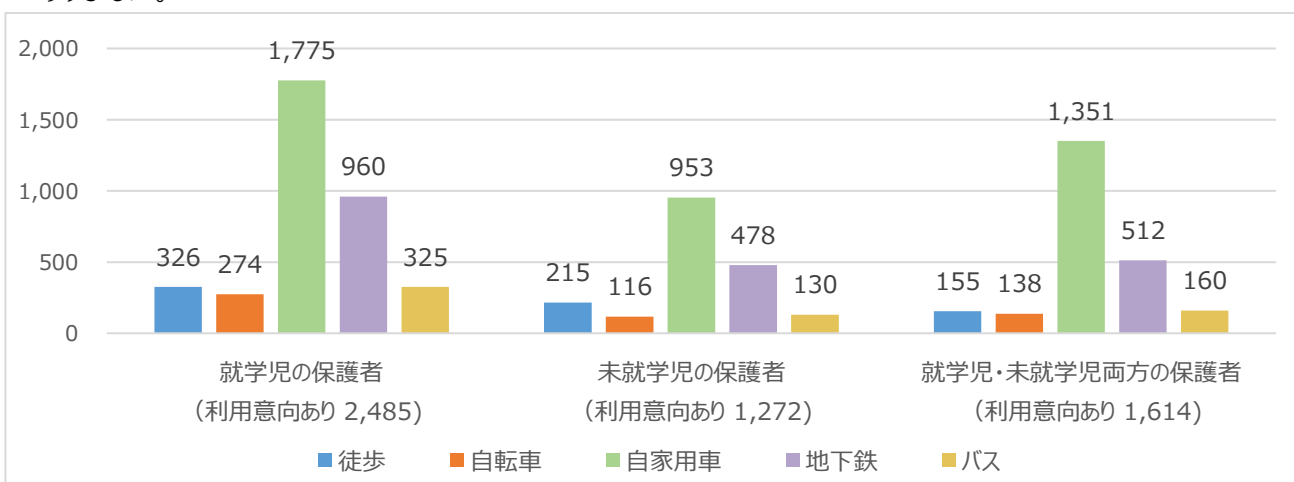
● 本施設に来館する際の主な移動手段(複数回答可)



○ 「自家用車」が最も多く、次いで「地下鉄」、「徒歩」という結果になりました。

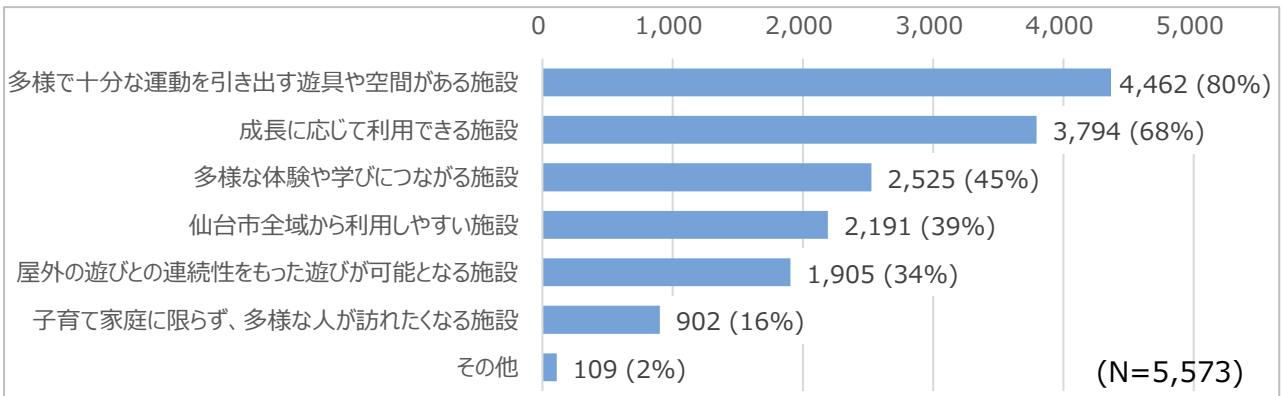


○ 回答者の居住区で分類すると、すべての区で「自家用車」が最も多い回答となった一方、青葉区では「徒歩」や「自転車」、若林区や太白区では「地下鉄」など、区によっては、他の移動手段も比較的多くの回答がありました。

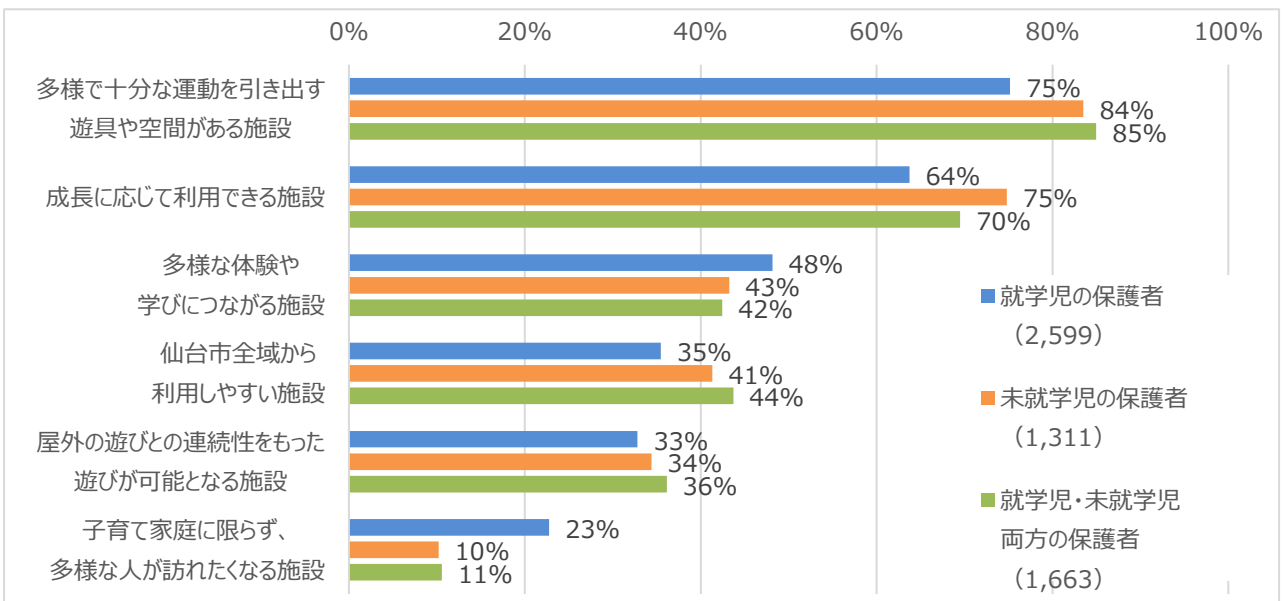


○ 保護者の属性別で見ると、「未就学児の保護者」や「就学児・未就学児両方の保護者」の「自家用車」の回答が多く、「地下鉄」や「バス」等の公共交通機関の利用意向は「就学児の保護者」から比較的多くの回答がありました。

● 本施設に望ましい施設のコンセプト(複数回答可)

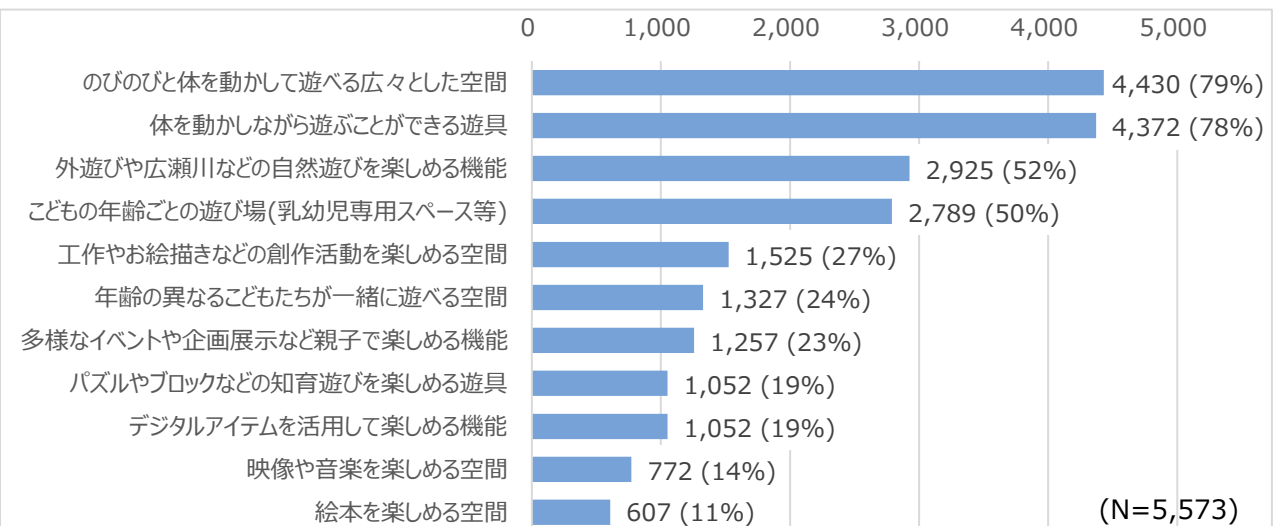


○ 「多様で十分な運動を引き出す遊具や空間がある施設」に特に多くの回答が集まりました。

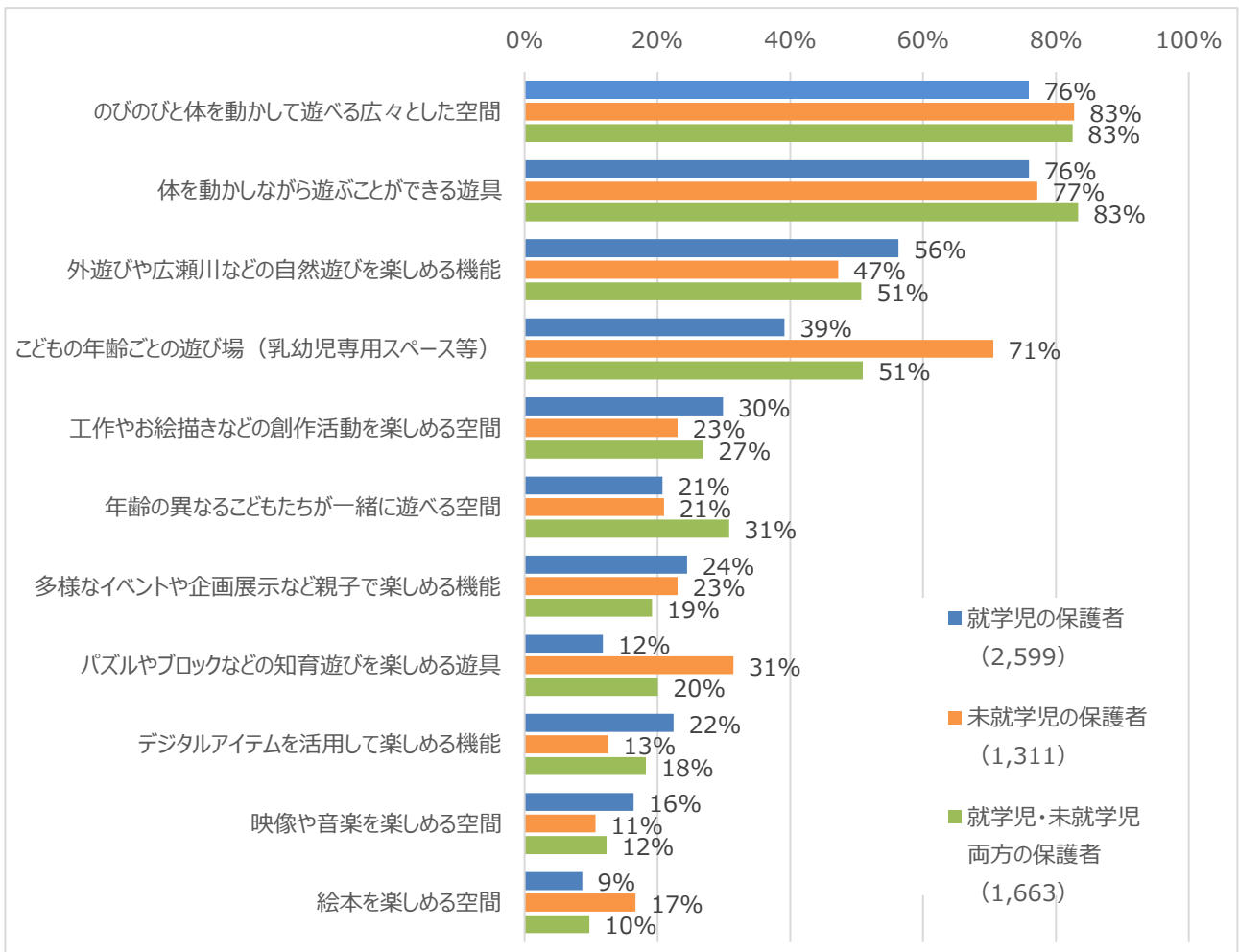


○ 保護者の属性別で見ると、「多様で十分な運動を引き出す遊具や空間がある施設」は、特に「未就学児の保護者」や「就学児・未就学児両方の保護者」から多くの回答がありました。また、「成長に応じて利用できる施設」は、「未就学児の保護者」から比較的多くの回答がありました。

● 本施設に求める機能(5 つまで選択可)



○ 「のびのびと体を動かして遊べる広々とした空間」や、「体を動かしながら遊ぶことのできる遊具」に特に多くの回答がありました。



- 保護者の属性別で見ると、上位の2つは、いずれの保護者からも高い回答がありました。
- 「こどもの年齢ごとの遊び場(乳幼児専用スペース等)」は、「未就学児の保護者」から多くの回答がありました。一方で、「年齢の異なる子どもたちが一緒に遊べる空間」は、「就学児・未就学児両方の保護者」から比較的多くの回答がありました。

● 本施設に求める機能に関する自由記述

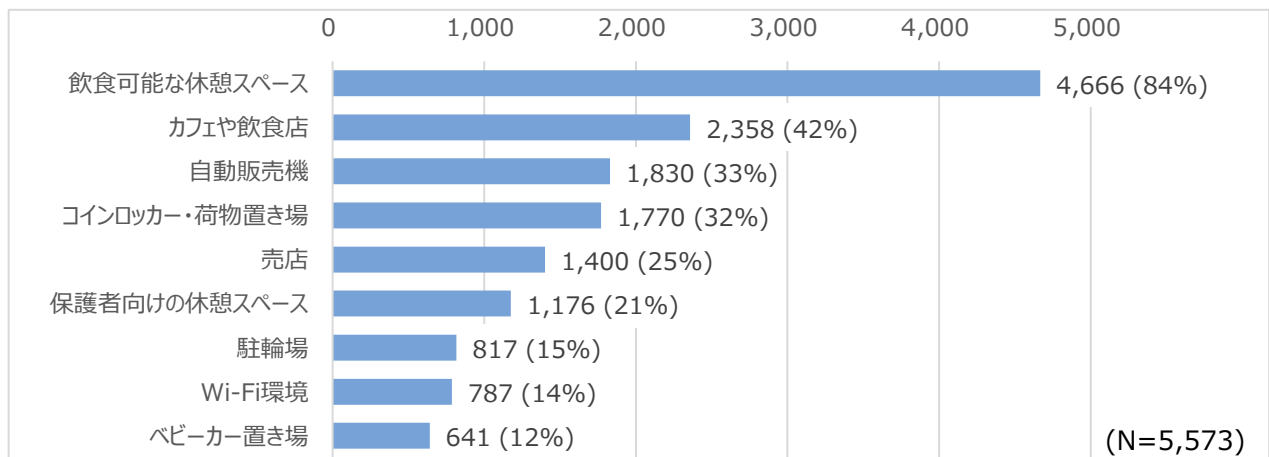
- 設問の回答選択肢の具体的なイメージを説明するような、以下の自由記述がありました。
 - ・ 「のびのびと体を動かして遊べる広々とした空間」について・・・329件
 (例：真夏や冬など、外遊びができない時に身体を動かしてのびのび遊ぶことのできる施設。子どもたちが思う存分走り回れるような施設。ボールで遊べる広い体育館。)
 - ・ 「体を動かしながら遊ぶことのできる遊具」について・・・200件
 (例：大型の室内遊具。ボルダリングなど身体を動かして遊ばせたい。自宅ではできない全身を使つてのびのび遊べる遊具・空間。)
 - ・ 「外遊びや広瀬川などの自然遊びを楽しめる機能」について・・・154件
 (例：夏に水遊びができる場所。完全な屋内だけではなく、外の空気や季節も感じながら遊べる施設が良い。広瀬川などで遊べる場所があると五感に刺激が出て良いのでは。食事や休憩を取れる半屋外型のエリア。)

- ・ 「こどもの年齢ごとの遊び場」について・・・82 件
（例：小さい子と小学生(大きい子)の遊ぶスペースはできれば分けてほしい。）
- ・ 「工作やお絵かきなどの創作活動を楽しめる空間」について・・・14 件
（例：工夫して道具を作るなどが出来る、体験が出来る場所に。）
- ・ 「年齢の異なる子どもたちが一緒に遊べる空間」について・・・180 件
（例：ゆるやかに年齢が分かれながら同じ空間で遊べる遊び場。年が離れた兄弟が楽しめる施設。）
- ・ 「多様なイベントや企画展示など親子で楽しめる機能」について・・・86 件
（例：季節のイベント。土日に子ども向けのワークショップなど、体験型のイベントがあると楽しそう。）

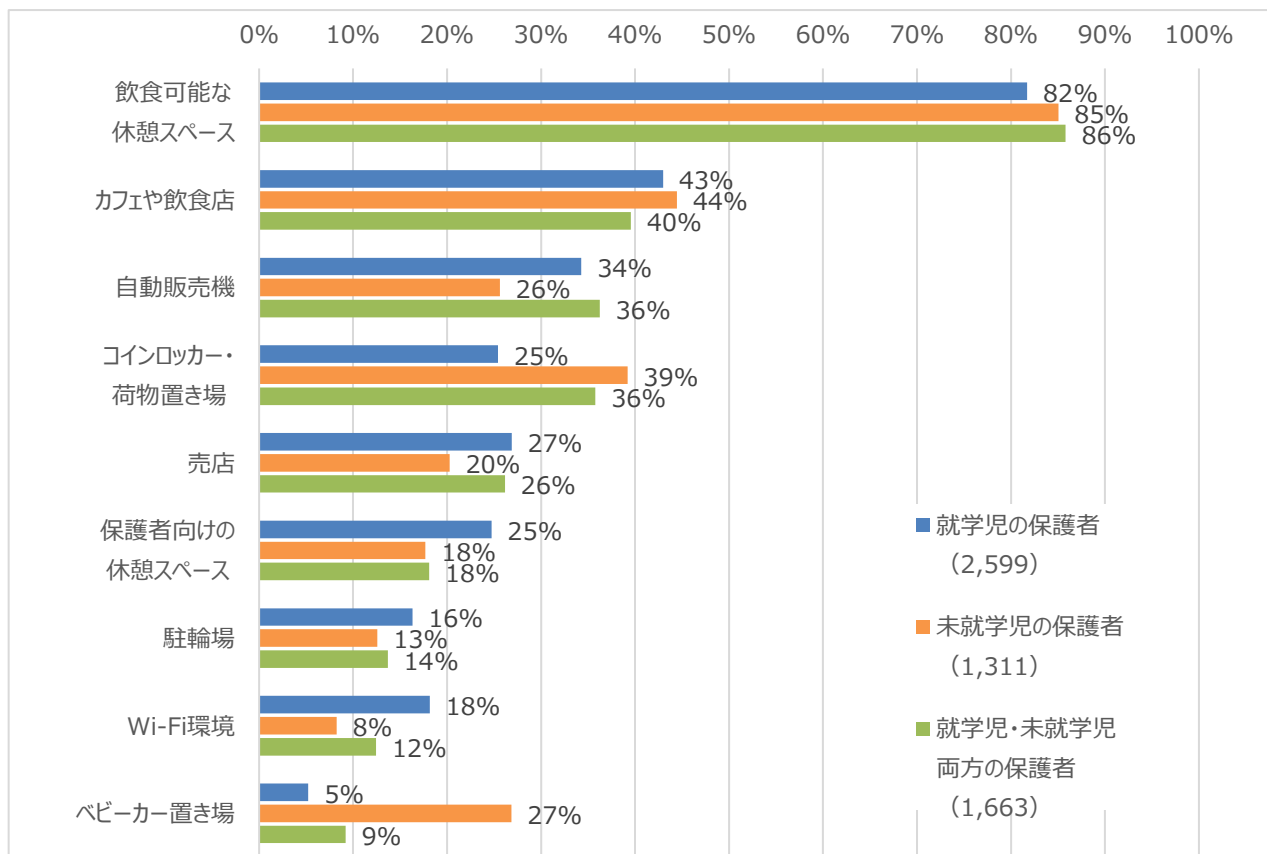
○ 設問以外の機能等について提案・希望するような、以下の自由記述がありました。

- ・ インクルーシブについて・・・46 件
（例：肢体不自由児でも遊べること。障害をもったお子さんや親御さんも楽しめるような工夫がされているといい。山形市の施設のようなインクルーシブの考え方を取り入れた空間があると嬉しい。）
- ・ 親子で一緒に楽しめる機能について・・・39 件
（例：付き添いの大人達も、見学だけではなく、一緒に同じ目線で子どもと遊べる空間。）
- ・ 中高生も楽しめる機能について・・・38 件
（例：中学生や高校生も利用できる時間帯を作って欲しい。）
- ・ 託児や育児相談など保護者のサポート・・・38 件（例：一時的な託児。育児相談室。）
- ・ こどもの自由な遊びを促進する機能・・・26 件
（例：遊びを先導してくれる、多様な遊び方のアイデアをくれるようなプレイリーダーを配置。）
- ・ 多世代利用・多世代交流・・・21 件（例：多世代が家族のようにつながれる場になることを願っている。）

● 本施設に求める設備(3つまで選択可)



○ 「飲食可能な休憩スペース」に特に多くの回答があり、子どもと一緒に昼やおやつ休憩をする場所が求められていることが分かりました。



● 本施設に求める設備に関する自由記述

○ 設問の回答選択肢について、選択理由を補足したり、具体的なイメージを説明するような、以下の自由記述がありました。

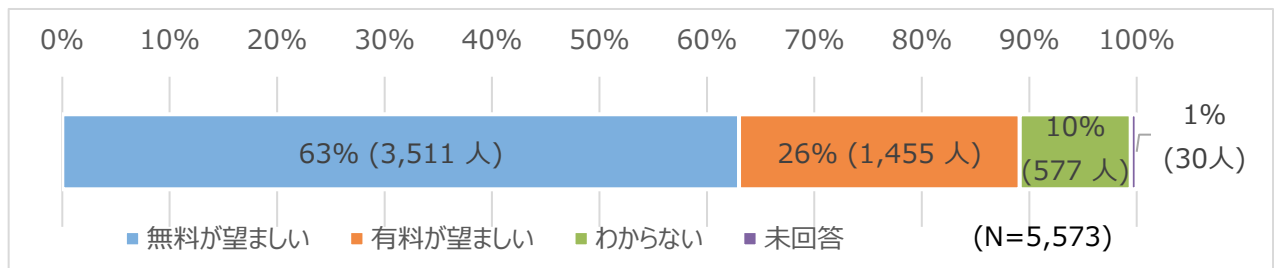
- ・ 「飲食可能な休憩スペース」について・・・79件
 (例：おやつや軽食を取れる低いテーブル等があるスペース。遠足等でも利用できるよう飲食できる広いスペースなどあればいい。)
- ・ 「カフェや飲食店」について・・・67件
 (例：キッズメニューがあるカフェ・レストランがほしい。キッチンカーなどが来れるスペースがあると大人も楽しめそうだなと思います。)
- ・ 「自動販売機」について・・・33件
 (例：粉ミルク・オムツ・おしりふき等の取扱いがあると嬉しいです。お菓子やオムツ、カップラーメン、パン等の軽食を販売してほしい。)
- ・ 「コインロッカー・荷物置き場」について・・・32件 (例：貴重品を入れるロッカーや荷物置き場。)
- ・ 「売店」について・・・69件 (例：乳幼児用のおやつや飲み物などが買える売店があったら嬉しいです。)
- ・ 「保護者向けの休憩スペース」について・・・17件 (例：付き添いの大人が休める場所もほしい。)

○ 設問以外の設備等について提案・希望するような、以下の自由記述がありました。

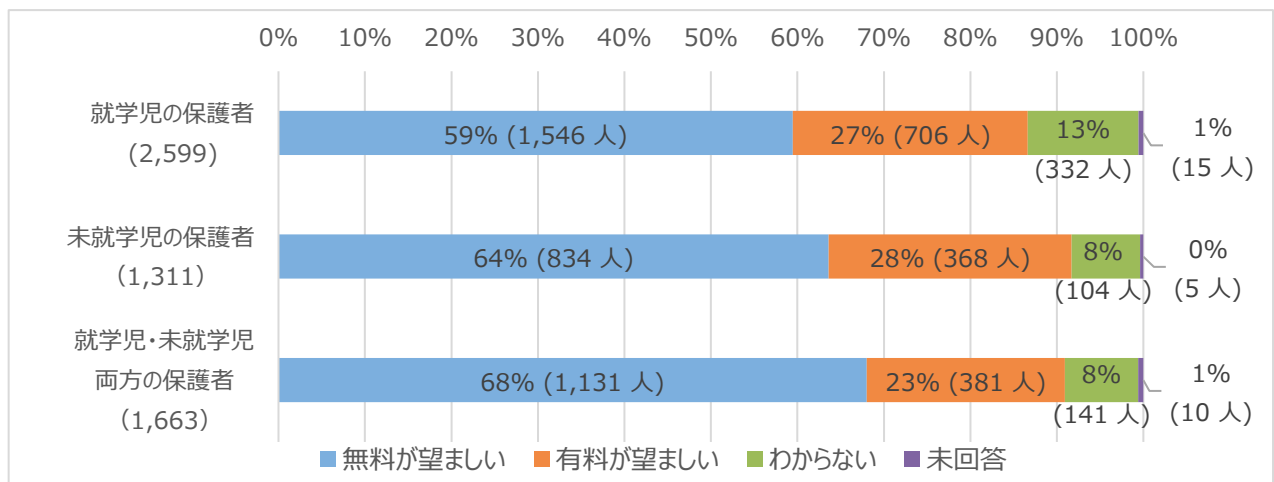
- ・ 屋外空間・水遊びについて・・・74件
 (例：建物の外に屋根付きの半屋外スペースなど作って、設置すると良いのではと思いました。屋外に、水遊びのできる噴水とかがあると嬉しいです。)

- ・ こどもの遊ぶ姿を見守るスペースについて・・・65件
（例：こどもが遊んでいる様子を見守りながら休憩できるスペースがあると利用しやすい。こどもを遊ばせている時に見守りができる保護者用ベンチ。）
- ・ トイレ・手洗い場について・・・65件
（例：清潔で十分な数のトイレ。オムツ交換ができる場所や、ベビーカーも入れるようなトイレ。）
- ・ 授乳室・おむつ替えスペースへの意見・・・44件
（例：遊び場と同じスペースに授乳室がないものも多く、同じ建物内に授乳室や赤ちゃん休憩室があって欲しい。授乳室スペースは女性のみで、鍵付き個室がいい。）
- ・ インクルーシブについて・・・25件
（例：バギーに乗った障害児も一緒にいけるくらい広い移動スペース。大きな子も利用できるユニバーサルベッド付きのトイレ。感覚過敏のこども達が一息つける場所。）

● 施設の利用料金



○ 「無料が望ましい」が63%、「有料が望ましい」が26%の回答となりました。



○ 保護者の属性別で見ると、「就学児・未就学児両方の保護者」が「無料が望ましい」を比較的多く回答していました。

● 利用料金の回答を選んだ理由や考え方に関する自由記述

「無料が望ましい」とする主な回答理由

- ・ 無料の遊び場が市内・県内になく、気軽に何度も遊びに行ける場所がほしい旨の意見・・・673件
- ・ 近隣の地方公共団体にあるような無料の遊び場を希望する意見・・・638件
- ・ 子育て支援の観点から無料を希望する意見・・・269件
- ・ 有料にする場合は、低額を希望する意見・・・161件

- ・ 交通費や駐車場料金を踏まえると、施設の利用料は無料を希望する意見・・・129 件
- ・ 市民は、無料や割引で利用できることを希望する意見・・・90 件
- ・ 基本料金は無料として、一部エリアやプログラムを有料にすることを提案する意見・・・87 件
- ・ 多子家庭であり、有料では利用が厳しいから無料を希望する意見・・・63 件

「有料が望ましい」とする主な回答理由

- ・ 施設の長期的な維持や運営、設備の更新の視点から有料が望ましいという意見・・・353 件
- ・ 無料にすることで混雑することを懸念する意見・・・319 件
- ・ 有料にすることで利用者間のトラブル回避や利用マナーの確保が図れるという旨の意見・・・257 件
- ・ 有料にすることで運営スタッフの配置をはじめ、安全管理・衛生・防犯面への期待を示す意見・・・233 件
- ・ 有料にすることで施設の遊具や設備、コンテンツ等が充実することを期待する意見・・・163 件
- ・ 市民は、無料や割引で利用できることを希望する意見・・・60 件
- ・ 有料を希望するが、こどもか保護者のどちらかは無料にしてほしいという意見・・・34 件

● その他の本施設に関する意見やアイデア(自由記述)

- 全設問の最後に設けた本設問では、1,420 件の回答が寄せられました。以下では、1 つの回答内に複数の意見や視点が含まれる意見の記述内容を整理し、のべ 1,930 件を抽出したうえで、①コンセプトに関する意見、②空間イメージや諸室・設備等に関する意見、③遊びのアイデアや遊具に関する意見、④運営面で気をつけてほしい点に関する意見、⑤駐車場・交通アクセスに関する意見、⑥他地方公共団体の類似施設に言及した意見、⑦その他の意見・アイデアに類型し、主な意見を掲載します。

① コンセプトに関する意見 276 件

- ・ 雨や暑い日にも思い切り遊べるようにしてほしい。
- ・ 運動能力の向上や肥満対策に寄与するような、体を動かせる遊び場を。
- ・ 年齢を問わず身体をめいっぱい動かして楽しめる場所にしてほしい。
- ・ 障害の有無にかかわらず、こどもが共に遊べる空間を希望。
- ・ あらゆる世代が集え、地域のつながりに一役買う施設を希望。ソフト面の工夫を期待。

② 空間イメージや諸室・設備等に関する意見 213 件

- ・ とにかく広々とした空間を希望。天候を気にせずのびのび体を動かして遊ばせたい。
- ・ 思い切り走れる空間を最重要に考えてほしい。
- ・ 広瀬川や緑が見える、自然が感じられる室内環境を希望。
- ・ 創作活動のスペースと、スペースを活用したワークショップの充実を希望。
- ・ こどもが見守りやすい構造を希望。

③ 遊びのアイデアや遊具に関する意見 234 件

- ・ 屋外に水遊びスペースを。日差しを避ける屋根の設置も希望。
- ・ 屋内外で広々としたエリアを確保してほしい。
- ・ 小学校高学年まで体を使って遊べる大きな遊具を。
- ・ プレーパークと連携した遊びを展開してほしい。

④ 運営面で気をつけてほしい点に関する意見 507 件

- ・ 事前予約や入れ替え制など混雑防止対策を。
- ・ ワークショップ、自然探索など参加型遊びの開催を期待。

- ・ 親が見守ることは前提としつつも、安全を見守るスタッフの配置を希望。
- ・ 乳幼児スペースは安全のため分けて欲しい。

⑤ 駐車場・交通アクセスに関する意見 241 件

- ・ 駐車場を充実させてほしい。
- ・ 雨の日に利用しやすいよう、地下鉄駅直結となると嬉しい。
- ・ 仙台駅からのシャトルバスを運行してほしい。

⑥ 他地方公共団体の類似施設に言及した意見 119 件

- ・ 他県の施設を参考にして、良いところを取り入れてほしい。
- ・ 山形県や福島県のような無料で遊べる屋内遊び場を期待。

⑦ その他の意見・アイデア 340 件

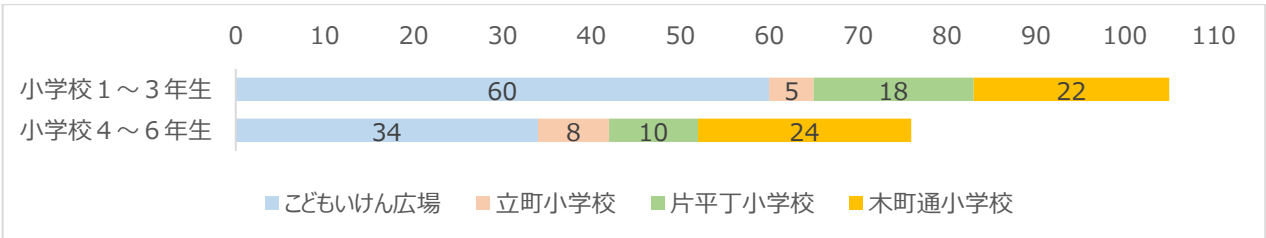
- ・ 本当に心待ちにしている。ぜひ早期整備を実現してほしい。
- ・ 広瀬川沿いの立地を生かした遊び場、エリア一体を魅力的な場所に引き上げるような計画を。
- ・ 現役の子育て世代の意見を反映してつくってほしい。
- ・ こどもたちの目線やアイデアも募集してほしい。

◆ 資料4 こどもへのアンケート調査結果

本基本計画の策定にあたり、市内に在住している、または市内の学校に通っている小学生から中高生年代のこどもを対象として、実施したウェブアンケートの結果は以下のとおりです。

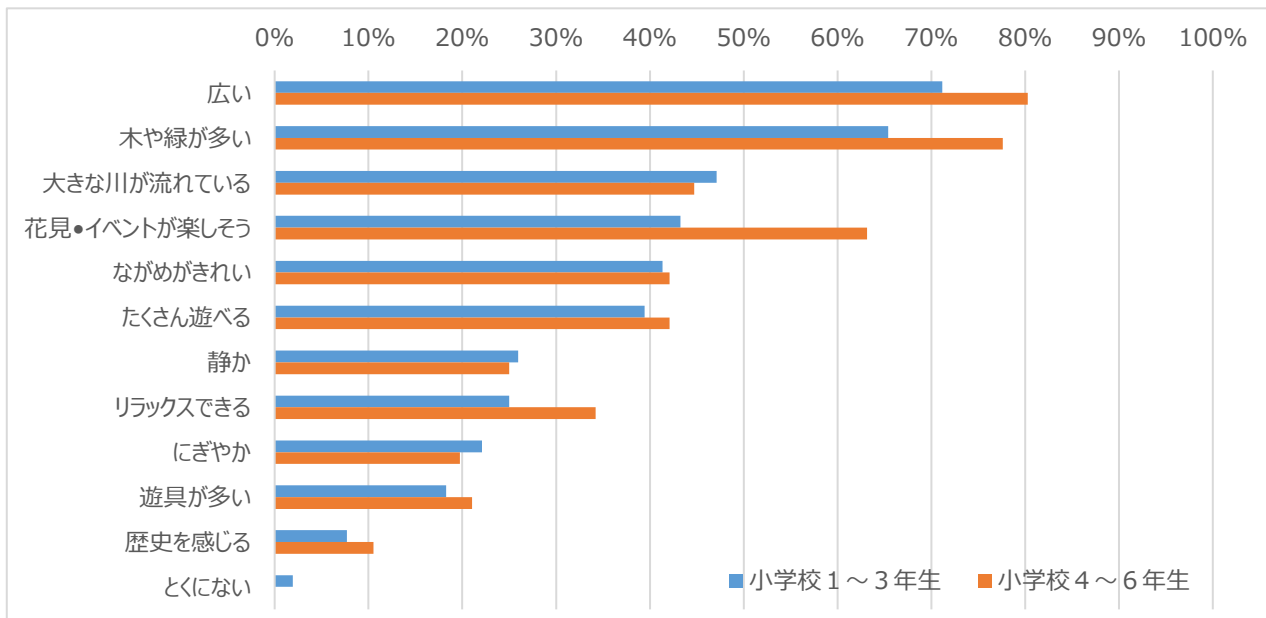
(1)本施設へのニーズや意見に係るウェブアンケートの詳細(小学生)

回答者 181 件:【小学校1～3年生】105 件 【小学校4～6年生】76 件



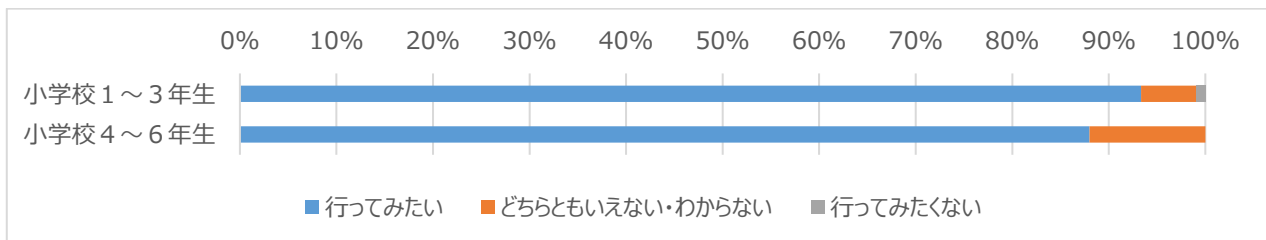
○ 181 件の回答のうち小学校低学年(1～3年)と高学年(4～6年)を比較して分析を行いました。

● 西公園の紹介動画を見たり、実際に行って、西公園はどんな場所だと感じたか(複数選択可)



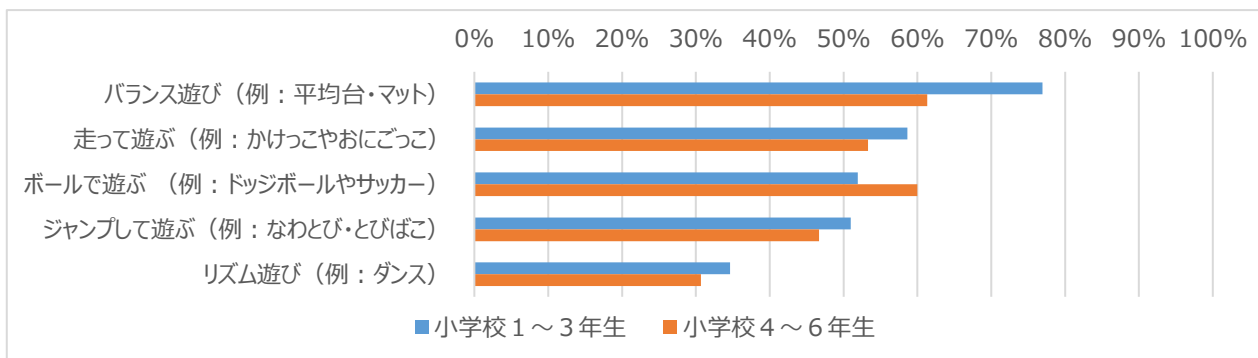
○ 高学年の方が「花見・イベントが楽しそう」や「緑が多い」、「広い」、「リラックスできる」などの回答が多く、学年が上がるにつれて、環境や空間への認識も高まっていると考えられます。

● 西公園に「屋内の遊び場」ができれば、行ってみたいか



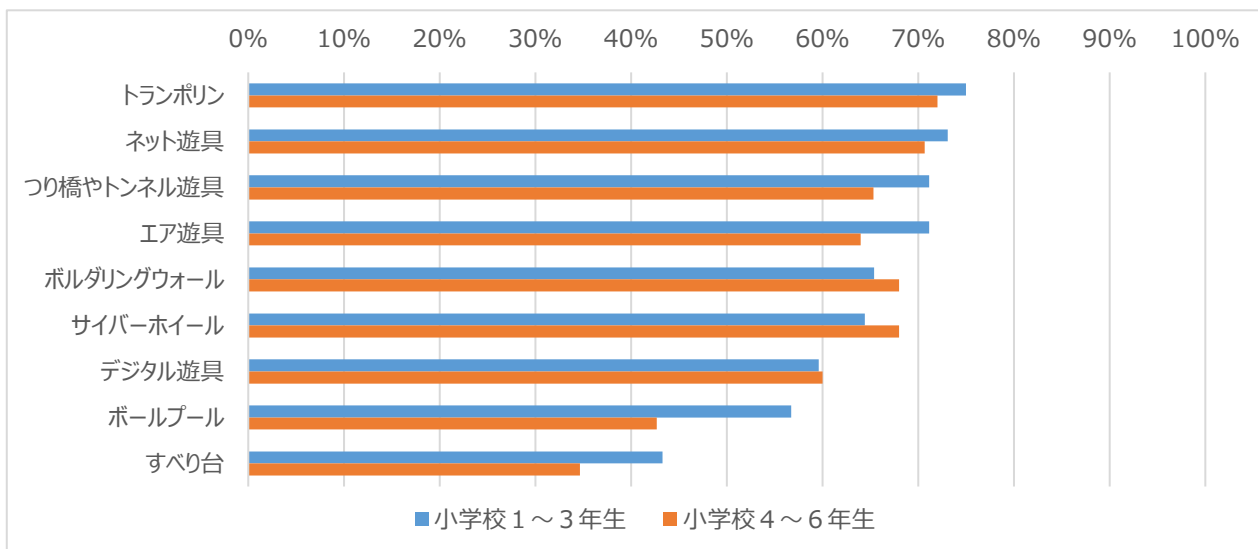
○ 「行ってみたい」を選んだ割合は、低学年の方が高い傾向がありますが、いずれも90%程度と高い関心が確認できました。

● どんなふう to 身体を動かして遊びたいか(複数選択可)



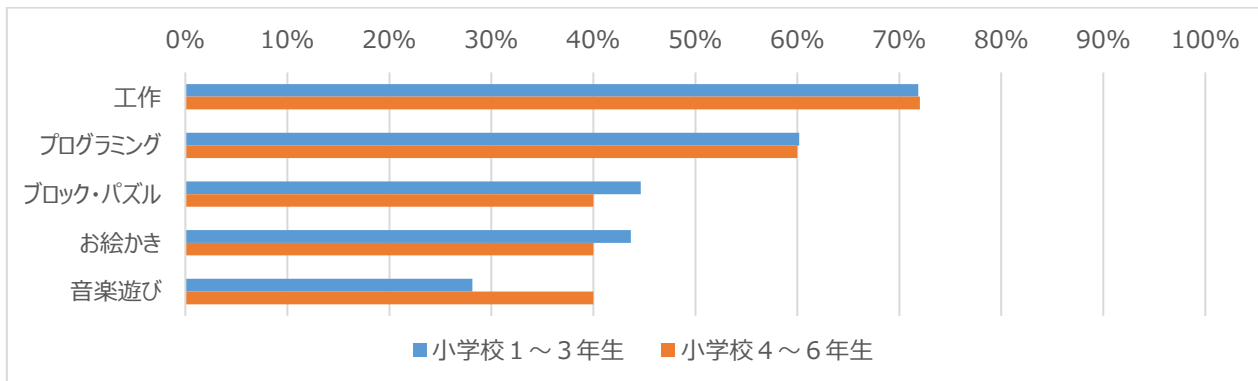
○ 低学年は、「バランス遊び」、高学年は、「バランス遊び」や「ボール遊び」の割合が比較的高くなりました。

● どんな遊具で遊びたいか(複数選択可)



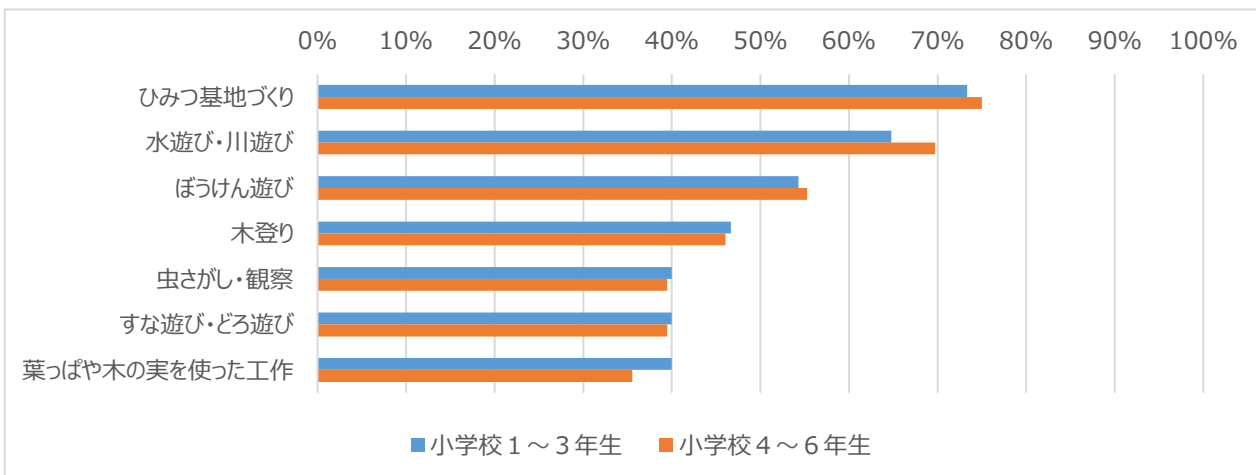
○ 「すべり台」と高学年の「ボールプール」の割合は 40%程度でしたが、それ以外の遊具については、高学年・低学年ともに概ね 60%以上の高い割合となりました。

● どんな創作活動や表現遊びをしたいか(複数選択可)



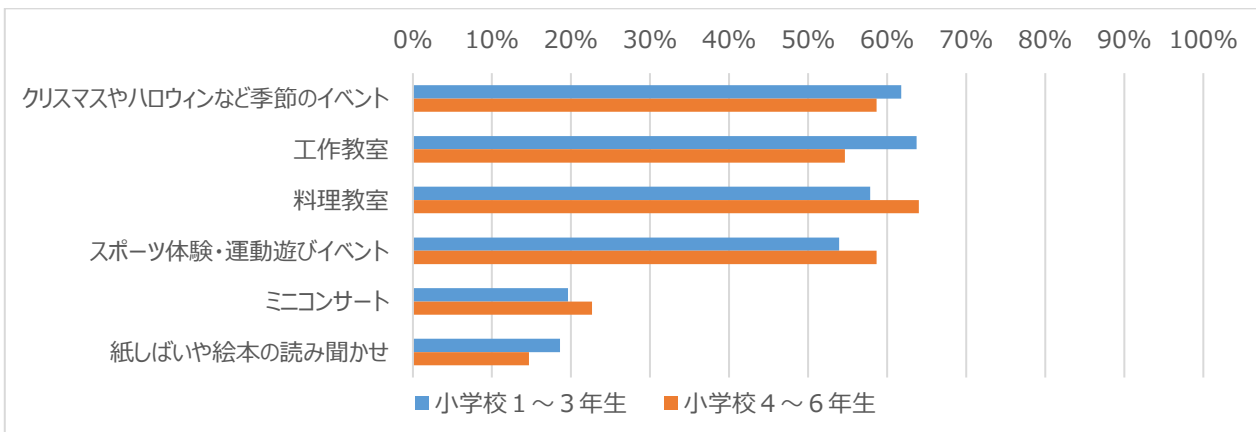
○ 低学年、高学年ともに「工作」と「プログラミング」が比較的高い割合となりました。

● どんな自然遊びがしたいか(複数選択可)



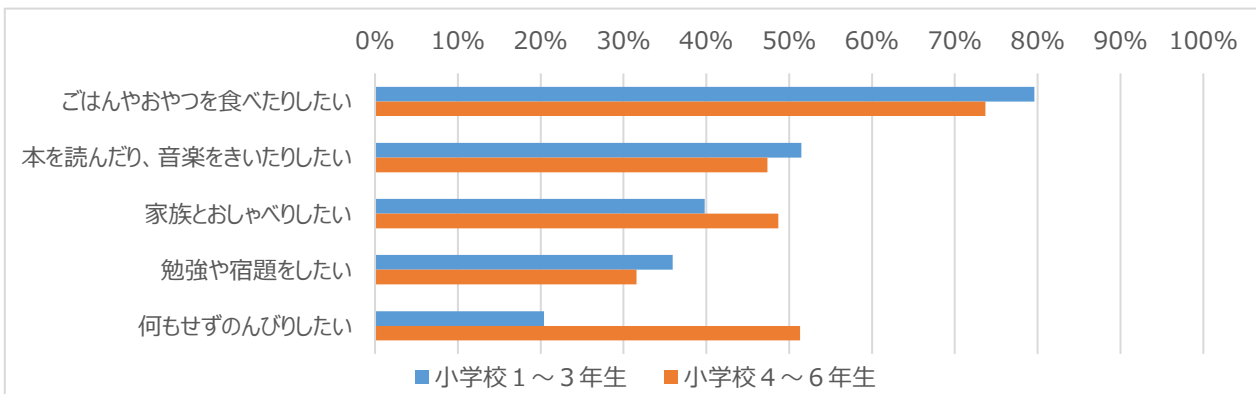
○ 高学年・低学年ともに、「ひみつ基地づくり」や「水遊び・川遊び」、「ぼうけん遊び」の割合が高く、50%以上となりました。

● どんなイベントに参加してみたいか(複数選択可)



○ 「季節のイベント」や「工作教室」、「料理教室」、「スポーツ体験」が比較的高い割合となりました。

● どんなふうによく過ごすしたいか(複数選択可)



○ 低学年高学年ともに、「ごはんやおやつを食べたりしたい」が高い割合となりました。また、高学年では「何もせずのんびりしたい」が高く、50%以上の割合となりました。

● その他の「屋内の遊び場」でしてみたいこと(自由記述)

同様の意見はまとめるなどしたうえで、主な意見を掲載しています(括弧内は意見の人数を表しています)。

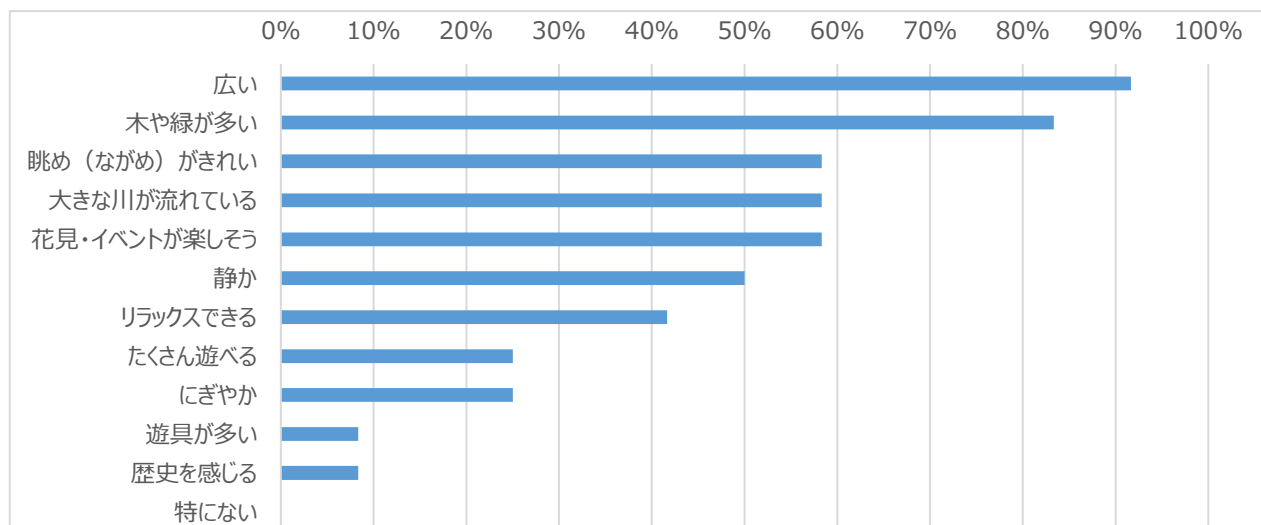
<p>こどもの遊び場全般への意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然との関係を重視してほしいです。また、いろいろな年代の人たちが楽しめるような施設になるといいなと思います ○ 山形県にある遊び場と同じにして欲しい ○ 遊びたい時には、遊具で思い切り遊んだり、一人が良い時は、本や漫画を読んだりして遊びを満喫したい。本が置いてあるスペースには、漫画も置いてほしい。施設の中に、ゲーム機も置いてほしい ○ 屋内遊び場はいい。外遊びがしたい。親は屋内遊び場に頼るな。親はおしゃべりしているだけじゃないか ○ あかちゃんでもあそべるところがあったらいい ○ 幼稚園の妹とも一緒にあそびたい。あと弟もいっしょに遊べるゆうぐがほしいです ○ バasketボールやドッジボールもしたいけど、妹がまだ 4 歳だから妹も遊べるような場所も欲しくて、雨でも暑くても汗をいっぱいかいて遊んだり、次の日もいきたくなるような遊び場がいいなあ ○ 中学生以上も行きやすいようにしてほしい
<p>建築や空間、遊具に関する意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ アスレチックをしてみたい！(6人) 民間の遊戯施設みたいなのがやりたい！ ○ ターザンロープ(3人)。綱登り、綱渡りなど ○ 長い長いうんてい(3人)。のぼりぼう(2人)。てつぼう ○ ながくてくねくねしたすべり台(2人)。ブランコ(2人) ○ 高いところに登りたい。山形県の施設みたいな。まわるジャングルジムが欲しい ○ 跳び箱。トランポリン。なわとび(2人)。フラフープ ○ 建物の中でも走り回れるスペースが欲しい ○ 色々なエア遊具、色々なネット遊具、大きなピリヤード(玉がサッカーボールくらいの大きさ) ○ 白石市の施設のような遊具が理想です！寒河江の施設も良かったです ○ 近くの公園はボールでたくさん遊べないから球技がしたい。球技をするラインが引いてあると便利 ○ バasketボール(5人)やドッジボールもしたい(3人)。バレー(2人)。ペタンク。ドッチビー。 ○ サッカー(2人)、サッカーゴールがほしいです。卓球(2人)。バトミントン(2人)。野球、キャッチボール(2人)、的当て。 ○ 体育とかそういう遊びがしたい。たいそうがしたい。おすもうがしたい。 ○ ボーリングエリア。スケート場 ○ 水遊び..噴水とか(できれば)作って欲しいです(4人)。みんなが冷たいところで服を濡らさず楽しく遊んで欲しいから。プール ○ 建物の中か、外に噴水ひろばのようなものが欲しい ○ とにかく水遊び！屋外だと気温が高いと閉鎖してしまう施設が多いので、プールとまではいなくても足だけでもばちやばちできるような施設が欲しい！噴水とかならなおよし！ ○ 室内の砂場・砂遊び ○ 一輪車やゴーカートにのりたい。乗れる大きな車(2人)。運転シミュレータ ○ スケートボード。ローラースケート ○ 図書館や学習室がほしい。学校休んだときに午前中から過ごせる場所がほしい。学校行けなかった日も他の場所なら行けるので体を動かしたり本を読んだりしたい ○ 東西線を眺めながら遊んだり本を読んだりできるようにしてほしい。本スペース(3人)。おままごと ○ ゆっくりできてしずかなあそびがいいです。大人がゆっくりできるところ ○ のみもののがめてゆっくりしたい。おやつをたべてのんびりしたい。

<p>建築や空間、遊具に関する意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 北三番丁公園や西公園で友達と遊びに行っ、お菓子とか食べようとする鳩が寄ってきてすごく嫌だったので、施設内で飲食できるスペースがあったら嬉しい。 ○ ダンス等を練習できる鏡がある部屋があれば良いな ○ スライム（2人）とかを作りたい。塩、さとう、みそ、ポン酢作り ○ プラモデルづくりやまんがをよんだりしたいです ○ ジオラマ作りをみんなでして自分で持ってきた電車のおもちゃを走らせてみたい ○ 楽器遊び。ピアノをひきたい ○ 大きな黒板、ホワイトボードに思い切りみんなで絵を描きたい。でっかい絵をかく。折り紙遊びがしたい ○ 市販のおもちゃがほしい。ぬいぐるみがほしい ○ クッションの大きなブロックのおもちゃでお家等を作る ○ 感触あそび、触れ合いあそび。 ○ お店屋さんごっこ ○ デジタル遊具でオンラインで対戦ゲームのような物をしてみたい。ゲーム（4人） ○ カードゲーム（2人）。ボードゲーム。トランプ。射的ゲーム ○ 地震体験遊具。動画がある遊具。パソコンが上手に使えるテレビ ○ 迷路。お化け屋敷（2人）→怖すぎない。映画館。カラオケ ○ DVD（みんなでみる） ○ 猫カフェ（西公園に猫がいるから、触らなくてもいいから眺めていたい）
<p>運営や管理に関する意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 無料または安い駐車場があると、みんな行きやすいと思います（2人）。 ○ 雨がふってる時とかに行きたいけど、たぶん駐車場がないからダメってママに言われそう ○ 無料の施設。無料で予約制。 ○ 科学イベント（2人）を常時楽しめるような企画があると嬉しいです（有料でも） ○ お仕事関係の体験ができる遊び（2人）。市民参加型のコンサートをやってみたい！ ○ 宝物探し（3人）、クイズラリー、謎解き、スタンプラリー ○ 花火や天体観測のイベント。ビンゴゲーム。回すくじがしたい。抽選会がしたい。 ○ 遊び場の掃除やゴミ拾いなどいいことをするとポイントが貯まったり、スタッフの人に褒めてもらえたら嬉しいなと思う。 ○ 友達同士で行っても OK ならすごく嬉しい ○ 欲しい物:食べ物を買える売店、駄菓子屋

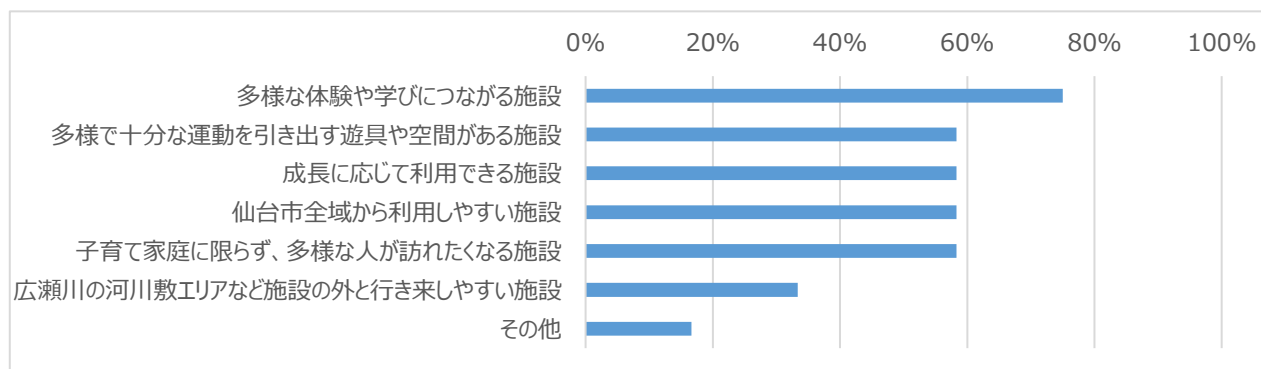
(2)本施設へのニーズや意見に係るウェブアンケートの詳細(中高生年代)

回答者 13 件:【中学生】8 件 【高校生年代】5 件

● 西公園の動画を見たり、実際に行って、西公園はどんな場所だと感じたか(複数選択可)



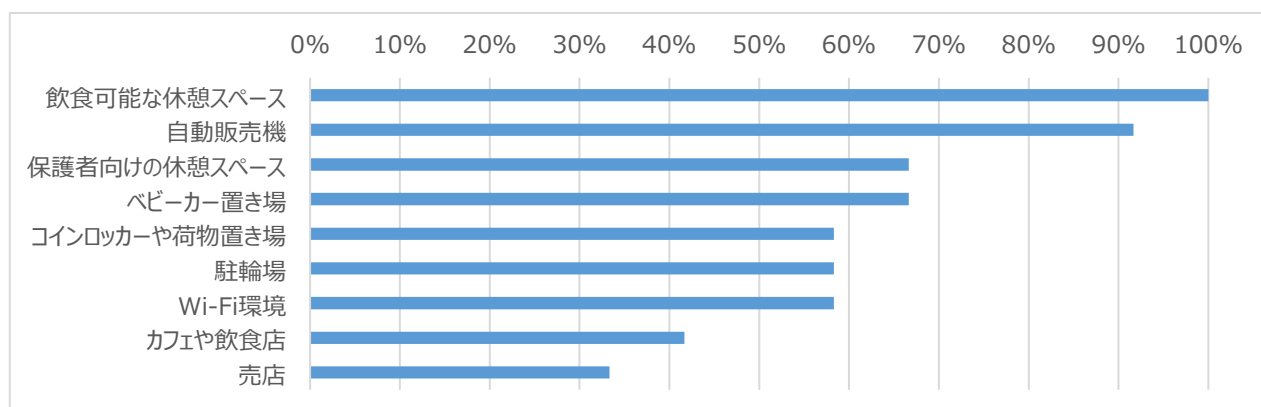
● 望ましい施設のコンセプト(複数選択可)



● その他のコンセプト(自由記述)

- ・ 市民センターなどよりもバレーボールやバスケットボール、バドミントンなどをやりたいタイミングで使える体育館
- ・ 西公園は本当にアクセスも良いので、屋内遊び場としては小さな世代から中高生世代が部活の練習として使えるような多目的な場所がいいです。かつ日中は絵本を読んだり、夕方は勉強の居場所がない子に勉強できるスペースをつくれたり、フレキシブルに使える若い世代のための施設であってほしいと思います。

● 施設に求められる設備(複数選択可)



- その他の設備(自由記述)
 - ・ 駐車場は必要。子供が多い家庭は公共施設を利用して連れてくるだけでも大変なので駐車場は必須。例えば最初の2時間だけ無料にしてほしい
 - ・ 勉強机のようなものや、くつろげるやわらかいマットやブロック

- 自分(中高生年代の方)も行きたくなるような空間や設備(自由記述)
 - ・ 小学生以下だったら児童館もあるし、それ以下の年齢なら「のびすく」もあると思います。中高生にはそういう場所は本当はないし、公園で遊びたくても小さい子に限られてしまうことが本当に多くて、前のように小学生の時のように遊べる場所は本当に少ないです
 - ・ 体育館のような施設が少ないと感じるので、バドミントンやバスケットボールが無料で楽しめるような施設があると部活をやっていない中高生でも気軽に体を動かすことができるのでより良い施設になると思います！
 - ・ 上に屋内スポーツ(バドミントン、卓球、ソフトテニス、バレーボールなど)が練習できるような、もしくは仲間内であつまって譲り合いながら出来る場所がいいです
 - ・ 広々としたスポーツが出来るスペース
 - ・ ボルダリング、トランポリン、ネットの遊具、ボールプール、長いすべり台など
 - ・ 山形市の遊び場にあるようなトランポリン、うんてい、棒上り、側面ミラー(ダンス出来るところ)、ステージ(芸能人などが来る用に)、ロッククライミング
 - ・ 登ったり飛んだり跳ねたりできる高低差のある遊具があると面白いなと思います
 - ・ ネットアスレチック
 - ・ ツタのぼり(自然のツタ)
 - ・ 友達とゆっくり話が出来るスペース
 - ・ 静かに読書できるところが欲しい
 - ・ 椅子やデスクがあって勉強できたり、友達と遊べるスペースがあると良いと思います
 - ・ 自習スペース
 - ・ 自然観察広場

- 屋内遊び場や西公園エリアを魅力的なものにするための考えやアイデア(自由記述)
 - ・ 自分のお気に入りのスポーツグッズを持ち込めると嬉しい
 - ・ 仙台駅からシャトルバス(子供が乗って喜ぶラッピングバス)が出ていたら、活気が出るし、バスを見かけた子供が遊びに行きたくなると思う
 - ・ 西公園には多様な自然があるので、自然をモチーフにしたお祭りやイベントを開催すると人が集まり活気のある施設になると思います！また、より高度な遊具があると小学校高学年の子達でも楽しめるのでブランコや滑り台のような物だけでなくアスレチックなども取り入れると良いと思います
 - ・ 川遊びがもっとしやすい環境を整備してほしい(例えば更衣室をつくってほしい、川遊びの道具の貸し出しができるようにしてほしい)
 - ・ 工作のできるスペースが欲しい(画用紙とか工具とかビーズとかをおいてほしい)
 - ・ 絶対にまわりの緑と景観にマッチした見た目にしてほしいです。よく朝に走り込みもするので、給水機もあってくれたらいいです
 - ・ 小さい子からお年寄りまで老若男女問わずいられるいこの場だと良いと思います。広瀬川や緑が多い木々など自然を大切に、景観を楽しめたらさらに良いと思います

- ・ 仙台の名物を、遊具に飾りつけたりする。仙台の名物をモチーフにした遊具
- ・ 週末フリマ
- ・ 伝言掲示板（近所のおばあさんが、幼稚園のバッグ作ってあげますよ、などと掲示板にメモを貼り、それを見た子育てママさんが直接連絡する、など交流が出来る掲示板があればいいと思う）
- ・ 週末必ずイベントする
- ・ 「日本一〇〇な屋内遊び場」ってなると一回行ってみようかなって思います

◆ 資料5 有識者・関係団体等への意見聴取結果

- 『(仮称)西公園屋内遊び場基本計画の骨子』等をもとに、学識者や関係団体の代表者など子どもに関わる様々な観点から意見をいただきました。それらの意見を(1)こどもの遊び場全般への意見、(2)建築や空間、遊具に関する意見、(3)運営や管理に関する意見に分類し、意見聴取対象者の属性ごとにまとめました。
- 意見聴取の対象者と、主な意見は、以下のとおりです。(団体名、役職名は意見聴取当時)。

■ 教育分野・発達分野

意見聴取対象者	<ul style="list-style-type: none"> ● 宮城教育大学教育学部 飯島 典子 教授 (保育内容学) ● 宮城教育大学教育学部 野崎 義和 准教授 (特別支援教育) ● 東北学院大学文学部 高橋 千枝 准教授 (教育心理) ● 聖和学園短期大学保育学科 山本 信 准教授 (発達心理)
(1) 子どもの遊び場全般への意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ みちのく杜の湖畔公園のように一日中滞在できる場所になる。外の水遊びや河川敷と行き来できる動線が必要 ○ 山形では屋内利用の前後に外遊びや買い物などを組み合わせる。仙台では「道の駅」のような拠点にはならないため、利用者の時間の過ごし方への提供に工夫が必要 ○ 親の負担も考えると、このエリアで1日過ごせるような施設が望ましい。そういう意味で催し物やキッチンカーも有効 ○ 子どもだけでなく保護者が「行きたい」と思える施設にすることが重要であり、カフェや休憩場所も有効と考える ○ 子どもと保護者だけでなく、中高生や学生ボランティアなど多世代が関われる場所になるのが理想的である ○ このような施設を複数作ることができるとそれぞれで特徴が出せる ○ 社会性の育成は「楽しい」から自然と生まれる。非認知能力も楽しさや挑戦から培われる
(2) 建築や空間、遊具に関する意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ トイレや足洗い場は広く整備が必要 ○ 小学生が自分で利用できる水飲み場やトイレの近接配置は便利 ○ 空間はきっちり決めすぎず、自由度を確保する。緩やかなゾーニングが有効 ○ 砂場を設ける場合は砂の質が重要。水と組み合わせられる遊びや着替えスペース、水飲み場が必要 ○ 年齢や活動スタイルに応じた空間のグラデーションが必要 ○ 静かに過ごせるスペースに至るまでの静かな動線を確保し、感覚過敏の子どもも利用できるようにする ○ 箸休め的に遊びのボリュームを落とせる休憩ゾーンが必要 ○ 多目的に利用できる畳や座卓、横になれる場所が望ましい ○ ヒーリングルームや静かな隠れスペース、可動家具などがあると、多様な過ごし方に対応することができる ○ アート体験(筆、染め物、ガラスに絵など)やアトリエ的空間を導入することで施設の個性を出す ○ 複数人で協力しないと遊べない遊具や譲り合いといったこどもの葛藤が生まれる遊具をあえて導入するのも面白い

<p>(3) 運営や 管理に 関する 意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設が多機能なので、運営や維持管理をどうしていくのかも、しっかりと検討していく必要がある ○ 維持管理・運営の見通しが課題。ルールは必要だが「走っちゃダメ」のような制限は好ましくない ○ 混雑・密集状態への対策や利用者の安全面の観点から、予約制や利用時間の設定で施設内の人数を管理する必要がある ○ 利用者がどうしたいかということと施設が提供できることのバランスを考える ○ スタッフの役割が重要であり、遊びを広げて一緒に関わり、安心や学びをサポートできることが大切である ○ 保育士や遊びの専門家を配置し、保護者からの相談やこどもの安全管理にも対応するべき ○ 現職の保育士を招いて、イベントを行うなどの工夫も有効 ○ お弁当を食べる場所を整備するなど、団体利用(園外活動)への対応ができる環境づくりが必要 ○ アクセス面に関して、仙台駅からのシャトルバスなどの交通手段についても検討しておくべき ○ 建設までの期間やコスト上昇リスクを踏まえた計画立案が必要 ○ アートなどのソフト事業を先行的に実施し、将来の施設運営につなげる
---	---

■ 屋内遊び場・児童館運営

<p>意見聴取 対象者</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 尚絅学院大学子ども学類 安藤 正樹 教授(体育学、児童館運営) ● NPO みやぎ・せんだい子どもの丘 理事長 平山 乾悦 氏(屋内遊び場運営) ● NPO みやぎ・せんだい子どもの丘 副理事長 新田 新一郎 氏(屋内遊び場運営)
<p>(1) こどもの 遊び場 全般への 意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 遊び場はこどもの創造性を育てる場であり、STEAM教育や芸術活動など「答えのない学び」を中心に据えるべきである ○ 「遊びと美術の発信基地」として、芸術・科学・ものづくりを横断的に展開することで、こどもの学びを深める ○ 地域との融合を重視し、広瀬川や職人文化など仙台独自の特性を活かすことが重要。地域資源とこどもがつながる遊び・ワークショップを通して学ぶ機会を設ける ○ 「ハイテク」の次に来る「ハイタッチ」、つまり自然や人とのふれあいを重視した遊びが求められている ○ 泥遊びや川遊びなど、自然の中での遊びを「おしゃれ」に演出することで、保護者にも受け入れられる魅力的な体験にできる ○ 障害のあるこどもを含め、すべてのこどもが楽しめるインクルーシブな遊び場を目指すべき ○ 遊び場は単なる遊具提供の場ではなく、世代を超えた交流(おじいちゃん・おばあちゃんや職人など)を生む場とすべき ○ こどもの意見を計画段階から反映させ、施設のデザインや運営の検討に参画させることが望ましい ○ 大型遊具が屋外で使いにくくなっているため、室内遊具の重要性が増している ○ STEAM や創造的なものづくり活動が行える工作・美術スペースを設けるべき

<p>(2) 建築や 空間、遊具 に関する 意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小規模(100～150人)のシアターを併設し、親子で体験できるインタラクティブな舞台活動を展開するのも良い ○ 屋外・屋内の連続性をもつ「半屋外」空間を広くとり、タープなどで快適に過ごせるようにする。暑い日でも安心して遊べる中間的な空間が必要 ○ 小さい子が安全に遊べる屋外砂場や日陰ゾーンが必要 ○ 絵本コーナーを充実させ、原画展示や映像絵本なども楽しめる空間とする。美術館・文学館との連携も望ましい ○ 向山中央公園の遊具のような話題性ある大型遊具、腕の力がつくスライダーなど身体的発達を促す遊具を導入すべき ○ 危険を管理しつつ、自分でリスクを取って遊ぶ「プレーパーク的」な遊びを取り入れるべき ○ 屋内での丸形スライダーや大型ジャングルジムなど、ダイナミックに遊べる仕掛けが望ましい ○ 水遊びゾーンは広瀬川とつながる発想を持ちつつ、安全な噴水や浅い池などで遊べるようにする ○ 季節ごとの遊びを設計に組み込み、冬はそり遊び、夏はウォータースライダーなど四季の体験ができる空間が理想 ○ 倉庫やバックヤードの充実が必要。遊び道具や廃材を安全に保管し、活動を支える基盤となる ○ 建物内装の設計に運営者の意見を取り入れ、マジックで書ける壁や絵本作家による壁画など柔軟な設えにする
<p>(3) 運営や 管理に 関する 意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「リソースセンター」的機能を持ち、保護者や教育関係者が相談・情報交換できる拠点とするべき ○ 児童館ネットワークとの連携を図り、情報発信・人材交流・研修の場とすることが重要 ○ 仙台市の児童館職員のノウハウを活かし、プログラム提供や運営協力を進める ○ ボランティア活動の受け皿を作り、地域の大人・中高生が関われる仕組みを設けると良い ○ 有料運営に特段のデメリットはなく、入場料は 300 円程度が妥当。市民ニーズに応じて柔軟に設定し、駐車料金も適正化すべき ○ 土日は完全予約制、平日は団体利用を中心とするなど、安全と利用調整を両立する運営ルールが必要 ○ 人員の確保等、運営面での課題はあるが、年中無休またはこどもの休みに合わせた営業体制が望ましい。部分開放など柔軟な運営も可能 ○ 運営者は、こどもに関する専門性と意欲をもつ団体を選定すべき ○ スタッフ育成のため研修を定期的実施し、こどもと遊ぶ専門的スキルを持つ人材を確保する ○ 運営準備段階から有識者・市民代表・利用者による「あり方検討会」を設けるなど、予算配分や内装計画などを協議の場を設けていくべき ○ 美術館や科学館とのコラボチケットなど、他施設との連携による集客も有効 ○ 開館前の PR やソフト事業として、出張遊びやワークショップを展開することで市民との関係を築く

■ 子育て支援・仙台市子育てふれあいプラザ運営

<p>意見聴取 対象者</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 特定非営利活動法人 せんだいファミリーサポート・ネットワーク 代表理事 伊藤 千佐子 氏 ● 仙台市子育てふれあいプラザ等(のびすく)各館 館長 (根反 かな恵 氏、市川 豊 氏、斎藤 妙 氏、三浦 和恵 氏、橋本 智子 氏)
<p>(1) こどもの 遊び場 全般への 意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 屋内遊び場を新設するより、既存施設の遊び場としての活用・改良を検討していくべきだと思うが、新設するのであれば、より良い施設となるよう検討してもらいたい ○ 多様性・異年齢交流・インクルーシブの考え方は良いと思うが、詰め込みすぎること、結果として利用者の不満につながる可能性がある。異年齢交流は特に乳幼児の親からの苦情につながりやすく、十分な配慮が必要 ○ 親子で遊ぶ時間を提供する施設とすべき。子どもだけの遊び場ではなく「親子で遊ぶ遊び場」にしてもらいたい ○ 予約制・クール制は混雑回避のため必要かもしれないが、基本的には、利用時間の制限はない方がよい ○ 有料化とすると、経済的に厳しい家庭の利用が難しくなる可能性があるため、十分な配慮が必要 ○ 屋内遊び場の対象年齢は3歳～小学2年生程度が中心となるのではないかと思う。小学3年生以上は外遊びを中心に展開できるとよい ○ 外遊びや地域資源との連携が重要。商店街や西公園プレーパークなどと繋げていく発想が大切 ○ 就学前頃の年齢の子どもはとにかく走り回りたいので、細かい仕切りよりも「何もない空間」を広くとるとよい ○ 工作などは他の施設でも提供することができると思うので、屋内遊び場は「徹底的に遊ぶ」ことに特化してもよいのではないか ○ 親子で楽しむイベントや誕生日会など、親同士がつながれる仕組みが大切 ○ 友達同士で来ることのできる施設なのか、親子で来る施設なのかをあらかじめ決めておく方がよい ○ 乳幼児はのびすく、小学生は屋内遊び場、その後は図書館・メディアテークと成長に応じて楽しめる環境づくりが理想 ○ 中高生がボランティアとして小学生と関わる仕組みも望ましい
<p>(2) 建築や 空間、遊具 に関する 意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地下鉄からのルートはベビーカー利用を考慮して、歩行者動線に屋根を設置した方がよい ○ 0歳児は安全のためしっかりと隔離された空間を確保する。遊具は3歳まで向けとして、4歳以上は見立て遊び、それ以上は外遊びを推奨するのがよい ○ 遊具は基本的に安全だが、0歳児は誤飲や舐める行為に注意が必要で、小さいパーツや着色は避けた方がよい。 ○ のびすくの滞在時間は1～2時間が多いが、なかには長時間利用者もいる。飲食スペースは遊び場と分離し、食事が持ち込みできるスペースを確保 ○ 「走り回れる空間」や「何もない広場」が必要 ○ トイレは男女別に加え、異性保護者が一緒に入れる幼児専用の兼用トイレを設置すべき ○ ボールプールは衛生面・安全面のリスクがあり、導入する場合は専門業者の清掃が望ましい ○ デジタル機器は壊れやすいので避け、体を動かすデジタルアートなどにした方がよい

(2)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 仙台らしさを活かすなら「広場」の発想や、外の環境を利用する工夫を ○ 屋外遊びの環境(水遊び・虫取り・木陰など)を充実させると良い ○ 広瀬川は魅力だが危険が多い。遊び場として使うなら厳重な安全対策が必要
(3) 運営や 管理に 関する 意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 施設運営で保険をかけるが、親が責任を持つのが基本。小さな怪我は成長の一部と考える ○ こども同士のケンカも成長には必要な経験。ただし、親も含めた丁寧なケアが必要 ○ 季節イベント(ハロウィン、クリスマスなど)を親子参加型で実施することで、親同士の繋がりや相談・支援にも繋がる可能性がある ○ 駐車台数は十分に確保することが必要。利用者は車利用が多く、市外からも来ることを想定 ○ 駐車料金が利用に影響する。市民無料・市外有料、公共交通割引などの工夫を ○ 設計段階から現場の運営スタッフの意見を反映し、細かな動線設計が重要 ○ 遊び専門の有資格スタッフを早めに集めるべき ○ プレーリーダーによる環境設定は必要 ○ 予約制の導入検討が必要。団体利用と一般利用の棲み分けも課題 ○ 多様な利用者が来るので安全面が課題 ○ 不審者対応や安全スタッフ・ボランティア育成が重要 ○ スタッフ研修が大切。親の育ち合いやこども同士の関わりを支える ○ こどもだけで来場した場合のトラブル対応は課題 ○ 親の目が届かない範囲をどう管理するかが運営上重要 ○ 周辺施設との連携(仙臺緑彩館・博物館など)で混雑問題・駐車問題に対応 ○ 複数の保育園・幼稚園の雨天時の飲食スペースや同時利用を考慮すべき ○ 売店・軽食販売の設置が必要 ○ 有料化すると利用者意識が強まり、クレームが増える可能性がある

■ プレーパーク活動

意見聴取 対象者	<ul style="list-style-type: none"> ● 山形大学工学部 佐藤 慎也 教授(子ども環境) ● 西公園プレーパークの会 副代表 佐々木 健二 氏・佐々木 啓子 氏 ● 特定非営利活動法人冒険あそび場せんだい・みやぎネットワーク 副代表 根本 暁生 氏
(1) こどもの 遊び場 全般への 意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 遊び場はこどもが自分で興味を持ち、親から離れて友達とつながれる環境であることが大切 ○ 交流や譲り合いが自然に生まれる「群れて遊ぶ」環境が大切。例えば道具も、「管理者から借りて使う」ものだけではなく、自由に使えて遊ぶ子の間でやり取りが生まれるようなものがあるとよいのでは ○ 遊びに来た人を「お客様」にするサービス提供型の施設ではなく、こどもが自らやりたいことを見つけて遊んだり、交流が生まれたりする市民の遊び場であるべき。民間の有料施設とは異なる役割を担う施設となってほしい ○ こどもの遊びを通じて大人も育ち、多様な人が交わる居場所や出会いになる ○ 例えば、大学が近いので、海外から来た研究者家族や学校に行っていないこどもなど、多様な利用者がつながれる遊び場であることが望ましい ○ 季節ごとに遊びのプログラムを工夫し、外遊びと屋内遊びが補完し合う形が望ましい ○ 屋内外の遊びをつなぐ仕掛けや、可動式の遊具など、こどもが主体的に遊びを変えられる柔軟性が重要

(1)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然を使った遊びがこどもの成長につながり、冬には火を使った体験活動や焼き芋などができるとよい体験になる ○ 丸く輪になっているスペースや起伏を利用した走り回れる環境がこどもに人気 ○ 遊び場は地域のつながりや市内で遊びの環境づくりに取り組む市民・施設等のネットワークづくりに寄与する拠点となってほしい
(2) 建築や 空間、遊具 に関する 意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 立体駐車場とエレベーターを組み合わせたアクセス改善で、広瀬通を跨ぐ南北の連携やバリアフリー環境を整えたい ○ 西公園プレーパークや心字池など、西公園全体の屋内外の遊び場を連携させることができれば、日本に誇れる規模の遊びの場になる ○ 屋内空間は耐久性・持続性が重要で、床面の剥がれ対策や地中熱利用による冷暖房によりエアコンの廃熱を減らす環境配慮が必要。屋上緑化やミストで温度を下げる工夫も有効 ○ 地下鉄高架下の活用は屋外休憩空間として有効 ○ 大きい子と小さい子のエリア分けは必要だが、遊具を年齢で区切りすぎると、兄弟姉妹で遊べなくなる。できるだけインクルーシブな設計をとりいれるべき ○ 可動式遊具や卓球台など、多様で柔軟に遊びを変えられる工夫が望ましい ○ ベンチの配置や移動の工夫により、親子の距離感や自然な会話が生まれる ○ 斜面や揺れ、ネットなど不安定な動きの遊具がこどもにとって刺激になる ○ 大型遊具の近くに低年齢児用の遊具を置くことで、兄弟を連れて遊びにくる保護者も安心してこどもたちを見守ることができる ○ 拾って遊べる植栽(どんぐり、ぐみ)や、プロムナードへの水道設置など、自然や生活と結びつく工夫が必要 ○ 広瀬川との連続性は大きな魅力。川遊びを促す際の安全確保に重要となるライフジャケットをはじめ、川での活動に使える道具類の保管設備があるとよい
(3) 運営や 管理に 関する 意見	<ul style="list-style-type: none"> ○ 屋内外のプレーリーダーを一体的に育成し、相互に研修して柔軟に配置できるようにすべき ○ スタッフの数と遊具・空間の規模のバランスが大切。大型遊具の中には、管理のための人的負担が大きいものがあり、選定の際には注意が必要。スタッフは新しい遊具の管理に時間や意識を大きくとられてしまうのではなく、人との関わりを大切にできる状況をつくるべき ○ 駄菓子屋的仕組みやキッチンカーなど、家庭の節約志向に合わせた運営手法を導入できるとよい ○ 情報発信や人材育成(中間支援)、市内ネットワークづくりが必要。遊びに関わる拠点機能があると良い ○ 居場所デザインとカリキュラムデザインを併せた運営が重要 ○ 市内全域の遊びの環境を改善する拠点という位置付けがされるべき。市の遊び環境担当部署がここに入るようなことも考えられるのでは ○ 他の遊び場や子育て情報をデジタルパネルで発信し、相談事業や学校に行っていないこどもたちが平日に行ける場所に結びつけられるとよい ○ 保存樹木の安全管理や植え替えなど、植栽の長期的な環境維持が必要 ○ 川遊びは、本施設直接の事業として実施できる範囲は限られる。川で活動する市民団体との連携で普及啓発していくことを前提とし、活動団体のプログラムを支援する仕組みが重要

■ 障害福祉・児童発達支援・医療的ケア児支援等

<p>意見聴取 対象者</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 仙台市障害者福祉協会 会長 阿部 一彦 氏 ○ 社会福祉法人なのはな会 仙台市なかよし学園・あおぞらホーム 施設長 佐藤 智美 氏 ○ NPO 法人彩り 代表 庄子 拓 氏(放課後デイサービス) ○ ホップメイトみやぎ 代表 佐藤 理恵 氏(宮城県医療的ケア児者家族会) ○ 宮城県重症心身障害児(者)を守る会 会長 相澤 浩美 氏
<p>(1) こどもの 遊び場 全般への 意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 障害の有無にかかわらず一緒に遊ぶことが大切であり、年齢や障害でゾーンを区切らずに「誰でも受け入れる」場にしてほしい ○ 遊びの中で社会性や自信が育つ機会が重要。過度の安全重視で分けすぎると、本人の主体性や体験機会が奪われる ○ インクルーシブな遊び場の意義を保護者や周囲が理解し合うことで、共生意識が育まれる ○ こどもの特性に合わせて選べる多様な遊びがあると良い ○ 小さい頃に外出体験を重ねることで小学校以降の社会適応がしやすくなるため、外に出やすい環境整備が大切 ○ 障害のあるこどもを特別視せず、家族や兄弟と一緒にいける場所であることが望ましい ○ 「普通」の場所に行けるようになるための練習や後押しになる場であってほしい ○ 兄弟児を含めた家族単位で楽しめる場が望ましい ○ 未就学児や障害児の親は、安心して外出・交流できる場所がなく、通所先や学校以外で過ごせる場が求められている。兄弟児と一緒に連れていける場所が少ないため、安心して出かけられる「きっかけの場」が重要である ○ 普段出かけづらい母親同士が交流し、友達を作れる仕掛け(日を限定した利用など)も良い ○ 発達障害や医療的ケアの必要なこどもたちにも「行ける場所」が、市内にできること自体が大きな意義をもつ ○ 他園や放課後デイが遠足などで使えるような公共的遊び場が望ましい。市内で使える場ができることを歓迎
<p>(2) 建築や 空間、遊具 に関する意 見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 車椅子やバギー対応の広いエレベーター・トイレ・通路が必要。特にストレッチャー対応サイズやバギーのまま入れる広さが望ましい ○ 駐車場に屋根や雨よけを設け、施設まで屋根付き動線にすることが重要 ○ 駐車場内の歩行者通路や車椅子が通りやすい舗装が必要。雪対策・勾配への配慮も必要 ○ トイレには介助用ベッドや吸引用コンセントを備え、音声装置が苦手なこどもへの配慮も求められる ○ 女性用トイレに幼児用便器があると良い。足が安定しないと排泄が難しい場合がある ○ 多目的トイレの機能分散(男女トイレにも車椅子対応便器を設ける等)が望ましい ○ 施設全体に広い通路やバリアフリーな動線を確保することが重要。スロープで登りながら景色や展示を楽しめる構成が良い ○ 吸引・医療ケアのためのコンセント、休憩スペース近くに電源があると良い ○ 給湯設備は経管栄養などに使えるようにしてほしい ○ スヌーズレンのような落ち着ける空間や小部屋、カームダウンルームを複数設けると良い ○ ボルダリング・読書スペース・デジタル遊具など多様な選択肢があると、こどもの特性に合わせてやすい

<p>(2)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 吹き抜けや自然光が入る明るい空間は、暗がりや怖がる子にも安心である ○ 横になることのできる休憩スペース、静かな小部屋、多目的な個室(読書・ままごとなど)を設けるとよい ○ 遊び方が固定されない大型遊具(広い滑り台、トランポリン、ボールプールなど)や、親子で一緒に遊べる設計 ○ 細かいおもちゃよりも大きなブロックなどシンプルで誰でも使える遊具が良い ○ デジタルアートや光・音を使った遊びは発達障害児にも人気であり、映像体験や光の刺激に配慮した多機能室が望ましい ○ 屋外の芝生やミスト・噴水、水遊びなどの自然体験ができると良い ○ 水遊びの設備(水盤・ミストなど)は車椅子でも使える設計とし、どろんこ遊びや絵の具遊びもしやすいよう足洗いや着替えスペースを隣接させる ○ 屋外芝生エリアに日よけのルーフがあると園外活動がしやすい ○ 半屋外や屋外空間にもインクルーシブ遊具・健康遊具・水遊び設備を配置
<p>(3) 運営や 管理に 関する 意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者や周囲へのメッセージ発信のあり方が大事で、「危ないから」ではなく本人の選択を尊重する運営が望ましい ○ スタッフが「間に入って」こども同士の興味の違いを調整してくれると助かる。見守り・仲介的な支援が重要 ○ スタッフが声をかけやすく、親が安心して助けを求められる体制を整える ○ 兄弟児がいる場合、兄の遊びを見てくれるスタッフの存在が望ましい ○ イベントや専門プログラム(声を出しても良い映画、夜のサファリなど)を開催できると外出の動機をつくれて良い ○ 医療的ケア児や重度障害児が安心して休めるように、コンセントや医療機器の貸出体制を整えると良い ○ 平日・休日・長期休暇など利用時間帯の混雑緩和、障がい児優先(専用)の時間設定や利用制限を設けるなど、混雑や環境刺激を調整して利用しやすくする工夫が求められる ○ 遠足利用など団体単位の受け入れのため、人数制限や予約調整が必要 ○ 他団体(園や放課後デイ)との調整・連携、混雑情報の共有が大切 ○ 施設のそばに駐車場を確保し、送迎車やマイクロバスの乗り付けを可能にする必要がある ○ 利用料金は一般利用者から適正に徴収しつつ、障害者手帳所持者や付き添いには減免措置を行うと良い ○ 職員の専門性(理学療法士・作業療法士など)を高め、医療的ケアや発達障害児支援に柔軟に対応できる体制

◆ 資料6 シンポジウム・子ども向けの対面意見交換会の結果

本基本計画の策定にあたり、市民向けのシンポジウム及び子ども向けの対面意見交換会を開催し、本市の検討状況を説明するとともに、本施設に対する様々なご意見をいただきました。

シンポジウム及び対面意見交換会の概要と、提案された視点や意見等は以下のとおりです。

■ (仮称)西公園屋内遊び場基本計画シンポジウム「みんなで創るあそびのカタチ」

日時	2025年7月19日(土) 10:00~12:00
場所	青葉山公園仙臺緑彩館 交流体験ホール(キッズプレイスペース協力:西公園プレーパークの会)
登壇者	寺田 光成 氏:日本体育大学子どもからだ研究所 助教 村山 恵子 氏:NPO 法人クリエイティブがしね 事務局長 小川 ゆみ 氏:(一社)マザー・ウイング 代表理事
参加者数	80名(大人65名・子ども15名)

- 事例紹介① “みんなで創る?”遊び場
 - ・ 遊びが「スクリーン化」し、外遊びが激減している。
 - ・ 施設を街の風景の一部とし遊びが見えるようにすることや、「遊びセンター」のような開かれた名称で、運営とハードの両面から屋内外をつなぐべき。
 - ・ モノとしての環境整備だけでなく、障害を持つ子の親が孤立しないよう、専門職やスタッフが常駐する「人間環境」を整えることが重要。
 - ・ アンケートに留まらず、子ども自身が計画に参画できるプロセスを創る。
- 事例紹介② 遊び育つ子どもを共に育む さくらんぼタントクルセンター「けやきホール」の挑戦
 - ・ 山形県東根市の「けやきホール」では、現代の子に不足している「時間・空間・仲間」を取り戻すため、時間制限や年齢制限を設けず、0歳から中高生までの異年齢交流を促進している。
 - ・ 子どもが自ら遊び育つ「遊育」と、親も子も共に育つ「共育」を理念に掲げ、プレーリーダーが挑戦をサポートしている。
 - ・ 開館当時の東根市長による「多少の怪我はお持ち帰りください」という言葉が、スタッフの萎縮を防ぎ、のびのびとした活動を支える大きな力になった。
- 事例紹介③ 「のびすく泉中央」から見た親子の居場所について
 - ・ 「のびすく」は、父親も来やすいよう週末も開館し、妊産婦から中高生まで幅広い層を支えている。
 - ・ 時間や飲食の制限を極力減らし、ルールを少なく利用者の自由な選択を尊重している。
 - ・ 「4プラ」という中高生が主体的に活動できる場を提供し「何かしたい」を支え、児童館との役割分担を図っている。
- トークセッション
 - ・ 公園や河川部門との「縦割り」を排した連携と、運営団体が外遊びプログラムを作り出していくプロセスを事前に構築し、実施してほしい。
 - ・ ひとりひとりのこどもの育ちを保証できる大人が増えていくこと、こどもの味方であるという覚悟を持つことが重要。
 - ・ 障害の有無、年齢などにかかわらず、どんな方でも過ごしやすい設備というのが、利用者へのメッセージとして重要。

● 会場との意見交換

- ・ 屋内外の融合に大賛成である。
- ・ 日光を浴びられる屋根の工夫が必要と思う。
- ・ 近隣のこどもが一人でも来やすく、屋内から屋外へ行きたくなる場所としてほしい。
- ・ 来た人が「お客さん」ではなく、みんなで遊びと子育てを創る人材へと育つ視点をもってもらいたい。

■ (仮称)西公園屋内遊び場基本計画シンポジウム「みんなで創るあそびのナカミ」

日時	2025年11月29日(土)14:00~16:00
場所	青葉山公園仙臺緑彩館 交流体験ホール(キッズプレイスペース協力:西公園プレーパークの会)
登壇者	佐藤 慎也 氏:山形大学工学部 教授 庄子 真岐 氏:石巻専修大学経営学部 教授 早川 健太 氏:ポーネルドあそび場運営部 部長
参加者数	51名(大人45名・こども6名)

● 事例紹介① 屋内遊び場の役割

- ・ 現代のこどもを取り巻く「不登校の増加」「幸福度の低迷」「運動不足」といった課題を、遊びを通じて解決する。
- ・ 特に天候に左右されず、安全に設計された環境で「心・頭・体」をバランスよく使う体験が、こどもの生きる力を育む。
- ・ 単なる安全管理ではなく、専門スタッフ(プレイリーダー)が介在することで、こどもが「少し難しいけれどやってみよう」と思える「最適なチャレンジ」を引き出すことができる。
- ・ 様々なイベントによる地域や保護者との連携・コミュニティの役割の事例紹介。

● 事例紹介② 屋外・地域との連携

- ・ 屋内施設が雨天時の避難所(シェルター)となり、そこを起点に外の「冒険遊び場(プレーパーク)」へ飛び出していくような、中外一体の遊びの循環が生まれる。
- ・ 観光客向けではなく、「市民が豊かに暮らす姿」というライフスタイルこそが都市の総体としての魅力(ゲシュタルト)になる。
- ・ 杜の都仙台においては公園の豊かさが大切だが、中学生の公園離れが課題。中高生が「活動の担い手」として関われる仕掛けや、禁止事項ではなく「できること」を明示するポジティブな運営のあり方必要。
- ・ 都市の回遊性や、仙台駅から青葉山エリアを結ぶ結節点として、本施設を含む西公園が「杜の都」を象徴するウォークアブルな街づくりの転換点になる。

● トークセッション

- ・ 屋内は「インプット(安全な体験)」、屋外は「アウトプット(実践)」と捉え、屋内で自信をつけてから外の木登りに挑戦するなど、両方の循環が重要。
- ・ 中学生、高校生の居場所作り、多世代交流の促進や、地域住民やこども自身がルール作りに参加し、イベントを主催するなど自分たちの居場所として「自分事化」していくプロセスが重要。

■ こどもを対象とした対面意見交換会「西公園にできる屋内遊び場を一緒に考えよう！」

日時	2025年11月1日(土)9:30~12:00(小学生は10:50まで)
場所	東京エレクトロンホール宮城 6階 602 中会議室
対象	小学校4年生~中高年生年代
参加者数	20名(小学生16名・中学生4名)
概要	はじめに 自己紹介・アイスブレイク 仙台市より西公園・屋内遊び場について説明 前半:意見交換①(小学生・中高生年代/屋内遊び場について) 後半:意見交換②(中高生年代/意見交換①を踏まえて) 本対面意見交換会は、仙台こども財団が実施する「こどもいけん広場※」を通じて実施いたしました。
意見のまとめ・フィードバック	当日の意見のまとめや、本対面意見交換会及びウェブアンケートでいただいた意見に対する本市のフィードバック資料については、下記HP「こどもいけん広場」に掲載しています。 URL: https://sendai-kodomo.jp/iken/

※ こどもたちが本市の政策を決めるプロセスに主体的に参画する機会をつくることを目的に、登録したメンバーへのウェブアンケート、会場参加やオンラインによる意見交換等を実施し、幅広くこどもの意見を聴取する取組。小学1年生から18歳までの、仙台市内に在住しているまたは仙台市内の学校に通学している方を対象としている。

そのほか、パブリックコメントや各種審議会、遊び場展開事業「あそびばせんだい」等、計画策定や施設整備に向けた本市の取組については、下記 URL に掲載していますので、ご参照ください。

URL:<https://www.city.sendai.jp/kosodate-suishin/kurashi/kenkotofukushi/kosodate/shisaku/okunaiasobiba.html>

(仮称)西公園屋内遊び場基本計画

令和 8 年 3 月

仙台市子ども若者局子ども家庭部子育て応援都市推進課

仙台市青葉区上杉一丁目 5 番 12 号

TEL 022-214-2129